

高校1年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
現代の国語	2	必修	AM・GL	中條・都築・早瀬

目 標	- 論理的文章の要点を、自力で把握しながら読むための知識と能力を身につける。 - 持論を形成し、論述するための基礎的な知識と方法を習得する。 - 大学入試問題に対応できる高度な読解力、解答作成力を身につける。		
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 文章を論述するための基礎的な知識読解に必要な基本的な技術習得 - 語彙力等の国語力の習得	- 論理的文章を読み、要点を捉える力を育む - 筆者の意見を踏まえながら、自分の意見を書く力を養う - 問題演習を通し、問われたこと到的確に答える力を育む	- 分からないことを進んで調べていこうとする態度 - それぞれに適した学習方法を確立し学ぼうという姿勢を生み出す態度

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1学期	- 川上弘美「境目」 - 内田 樹「ことばとは何か」	- 他者に伝えるための文章を記述する。 - 基礎的な知識と能力を習得する。 - 把握した要点の中から重要度に応じて情報の選択ができる。 - 文章の構造と意義を理解して、自分で表現できる。 「ことば」についての認識を深める。
2学期	- 中村桃子「ことばがつくる男と女」 - 国谷裕子「ポスト真実時代のジャーナリズム」（平田オリザ「対話の精神」も併用） - 伊藤亜紗「記憶する体」	- 他者に伝えるための文章を記述する。 - 対話のスキルを身につける。 - 基礎的な知識と能力を習得する。 - 基本的な型にそった文章構成を身につける。 - 他者の文章を読み、要旨や要点を把握する。
3学期	- 生活史調査 - パラグラフライティング	- インタビューとその文字起こしのスキルを身につける。 - 基本的な型にそった文章構成（パラグラフライティング）を身につける。 - 他者の文章を読み、要旨や要点を把握する。 - 自分の考えを発表し、理解を得る力を養う。

授業の形態	クラス授業/一斉授業/グループワーク/講義形式
教 科 書	『現代の国語』筑摩書房
副 教 材	『ジャパナレッジ』・『入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP 2500』いっずな書店
評価の方法	平常点100%（授業内テスト、提出課題、パフォーマンス課題等）
備 考	上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校1年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
言語文化	2	必修	AM・GL	國分・駒井・都築

目 標	・ 文学的文章の精読及び読解の共有を通じ、読解力及び論理的思考力・批判的思考力の基礎を身につける。 ・ 古文読解のための基礎的な知識と能力を身につける。 ・ 古典に表れた思想を踏まえて、自分なりの考え方を形成する能力を身につける。 ・ 漢文を訓読することによって読み解くための基礎的な知識を身につける。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。 ・ 古文解釈の基本事項や漢文訓読の基本技能を身につけている。	・ 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・ 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方や感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【現代文】 大岡信「言葉の力」（評論） 【古 文】 古文基礎 ・ 用言の活用と現代語訳の基礎を学習する。 【古 文】 宇治拾遺物語「絵仏師良秀」 【現代文】 芥川龍之介「羅生門」（小説）	【古文】 ・ 歴史的仮名遣いの決まりを理解する。 ・ 古文解釈の基礎を固める。 ・ 用言の活用を理解する。 ・ 古文の文章を読み、読解する力をつける。 【現代文】 ・ 作品の内容や解釈を踏まえ、論理的展開を理解する。 ・ 異なる時代に成立した作品を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする力を身につける。
2 学期	【漢 文】 漢文基礎 ・ 訓読の規則、及び基礎的な句形を学習する。 【漢 文】 塞翁馬 【古 文】 平家物語「木曾の最期」、和歌 【現代文】 マラマッド「夏の読書」（小説）	【漢文】 ・ 漢文訓読の規則を理解する。基本的な句法を理解する。 ・ 漢文を読み、その内容を理解する。 【古文】 ・ 平家物語を読み、敬語・音便・助動詞・係り結びなどの知識を身に付ける。 ・ 和歌を読み、技法や描写、当時の時代状況などを理解する。 【現代文】 ・ 現代短歌を読み、和歌との違いや歌作の工夫を学ぶ。 ・ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。
3 学期	【現代文】 短歌 【漢文】 漢詩 【現代文】 夏目漱石「夢十夜」（小説）	【漢文】 ・ 漢詩を読み、技法・表現、当時の時代状況などを理解する。 【現代文】 ・ 短歌を読み、自分でも創作してみる。 ・ 近代明治期の文章を読んで日本語の変遷や思想について理解する。

授業の形態	クラス授業／一斉授業／グループワーク／講義形式
教科書	『言語文化』筑摩書房
副教材	『解析古典文法 四訂版』桐原書店・『ジャパンナレッジ』・『入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP 2500』いっぴな書店
評価の方法	定期テスト 50％＋平常点 50％（提出課題、パフォーマンス課題等）
備 考	上記の授業内容は予定である。学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校 1 年 （国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
現代の国語	2	必修	FT	山本

目 標	・ 論理的文章の要点を、自力で把握しながら読むための知識と能力を身につける。 ・ 持論を形成し、論述するための基礎的な知識と方法を習得する。 ・ 大学入試問題に対応できる高度な読解力、解答作成力を身につける。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	文章を論述するための基礎的な知識。 読解に必要な基本的な技術習得。 語彙力等の国語力の習得。	論理的文章を読み、要点を捉える力。 筆者の意見を踏まえながら、自分の意見を書く力。 問題演習を通し、問われたことに的確に答える力。	分からないことを進んで調べていくとする態度。 各自の特性に基づく学習方法を確立し、学ぼうという姿勢を生み出す態度。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・ 川上弘美「境目」 ・ 内田樹「ことばとは何か」 ・ 現代文問題演習	・ 他者に伝えるための文章を記述する。 ・ 基礎的な知識と能力を習得する。 ・ 把握した要点の中から重要度に応じて情報の選択ができる。 ・ 文章の構造と意義を理解して、自分で表現できる。
2 学期	・ 堀正岳「わかっていることいないこと」 ・ 国谷裕子「ポスト真実時代のジャーナリズム」 ・ 現代文問題演習	・ 他者に伝えるための文章を記述する。 ・ 基礎的な知識と能力を習得する。 ・ 基本的な型にそった文章構成を身につける。 ・ 他者の文章を読み、要旨や要点を把握する。
3 学期	・ 小坂井敏晶「主体という物語」 ・ 現代文問題演習	・ 基本的な型にそった文章構成を身につける。 ・ 他者の文章を読み、要旨や要点を把握する。 ・ 自分の考えを発表し、他者に理解される力を養う。

授 業 の 形 態	クラス授業/一斉授業/グループワーク/講義形式
教 科 書	『現代の国語』 筑摩書房
副 教 材	『評論速読トレーニング』数研出版、ジャパナレッジ、『読解を深める現代文単語』桐原書店、『生きる漢字・語彙力』駿台文庫
評 価 の 方 法	平常点 100%（授業内テスト、提出課題、パフォーマンス課題、関心・意欲・態度）
備 考	上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校 1 年 （国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
言語文化	2	必修	FT	山本

目 標	・ 文学的文章の精読及び対話を通して自他の読解を共有し、読解力及び論理的思考力・批判的思考力の基礎を身につける。 ・ 古文読解のための基礎的な知識と能力を身につける。 ・ 漢文を訓読によって読み解くための基礎的な知識を身につける。 ・ 大学入試問題に対応できる、高度な古典読解力を養成する。			
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・ 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につける力とともに、我が国の言語文化を理解する力。 ・ 古文解釈の基本事項や漢文訓読の基本技能を身につける力。	・ 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深める力。	・ 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方や感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深める力。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【古文】 古文基礎 ・ 用言の活用と逐語訳の基礎を学習する。 【古文】 宇治拾遺物語「児のそら寝」 【古文】 有名古典作品 「枕草子」「方丈記」「徒然草」「源氏物語」「平家物語」「奥の細道」など 【古文】 「宇治拾遺物語」「徒然草」などの説話・随筆を用いた読解演習 ・ 既習知識を活かして本文を逐語的に読解する。読解を踏まえ、調査活動及び資料分析を行い、自らの主張をまとめる。	【古文】 ・ 歴史的仮名遣いの決まりを理解する。 ・ 古文解釈の基礎を固める。 ・ 用言の活用、助動詞のはたらきを理解する。 ・ 古文読解に必要な文法事項を習得する。 ・ 基本古語 315 語を暗記し、習得する。 ・ 有名古典作品の読解を通して古典の世界の豊かさを理解し、言語文化への造詣を深める。
2 学期	【現代文】 芥川龍之介「羅生門」（小説） 【古文】 今昔物語集「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の話」 【漢文】 漢文基礎 ・ 訓読の規則、及び基礎的な句形を学習する。	【現代文】 ・ 読解した内容に基づいて、自説を論理的に記述するための基礎的能力と知識を身につける。 【古文】 「羅生門」の元となった古典を読み相違点を見つけ出すことで、筆者の執筆意図を分析するとともに時代的な差異を確認し言語文化の変遷を理解する。 【漢文】 ・ 漢文訓読の規則を理解する。 ・ 受身形・使役形・否定形を理解する。
3 学期	【古文】 「宇治拾遺物語」「徒然草」などの説話・随筆を用いた読解演習 ・ 既習知識を活かして本文を逐語的に読解する。読解を踏まえ、調査活動及び資料分析を行い、自らの主張をまとめる。 【漢文】 漢文基礎 ・ 及び基礎的な句形を学習する。	【古文】 ・ 基本助動詞の接続、意味、活用を習得する。 ・ 本文の逐語訳を通じ、読解力の基礎を身につける。 ・ 筆者の主張を踏まえて持論を形成し、小論文を執筆する。 ・ 和歌に込められた思いを読み取る。 ・ 和歌の修辞法を理解し身につける。 【漢文】 ・ 句形を網羅的に理解する。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／グループワーク／講義形式
教 科 書	『言語文化』 筑摩書房
副 教 材	『ステップアップノート 30 古典文法基礎ドリル』 河合出版、『解析古典文法』『読解を深める現代文単語』『読んで見て覚える重要古文単語 315』 桐原書店、『古典速読トレーニング入門』 数研出版、『精説漢文』 いっずな書店
評 価 の 方 法	平常点 100％（授業内テスト、提出課題、パフォーマンス課題、関心・意欲・態度）
備 考	上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校 1 年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
地理総合	2	必修	AM・GL	齋藤・角原・伊吹・高澤

目 標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
育 っ て い たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	- 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解する。 - 地図や地理情報システムなどを用い、地理的な情報を調べまとめる技能を身につける。	- 地理的因果関係を合理的に理解するにあたってさまざまな観点から考察することができる。 - 世界の人々の生活と環境の多様性を、自然及び社会的条件と関連付けて適切に判断できる。	- 地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 - 地理的なものの見方を様々な社会事象にも積極的に用いようとする姿勢を身につける。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	《第 1 章 地図とGISの活用》 【地図情報と地理】 1, 2 球面上での生活 3 世界地図でとらえる地球 【日常生活のさまざまな地図】 1 身の回りにあるさまざまな地図 2 地理情報システム (GIS) のしくみと使い方 《第 2 章 生活文化の多様性と国際理解》 【自然環境と生活文化】 1 地球上の地形のなりたち 2, 3 山地と平野/海岸部の生活	- 現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図や、方位、時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きを理解する。読図を通して世界を概観するとともに、世界的視野から日本の位置、日本の領域をめぐる問題にもふれる。 - 地理情報を地図や地理情報システムを活用し、情報を収集、読み取り、まとめる技能の習得。中学校社会科地理的分野で学習した地球儀や地図の活用に関する技能などの既習事項を踏まえ、作業的で具体的な体験を伴う学習によって興味・関心を喚起し、段階的に地図や GIS を活用した学習を具体化、深化させる。 - 人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することを理解する。
2 学期	4 地球上の気候のなりたち 【産業の発展と生活文化】 1 農業の地域性 2 農業 南アジア 3 工業の地域性 4, 5 経済成長 中国 6, 7 工業化 タイ・ベトナム 【人口・食料問題】 1 世界の人口問題 2 人口増加 中国とインド 3 人口停滞 スウェーデンと日本 4 世界の食料問題 5 人口増加と食料問題 アフリカ 《第 3 章 地球的課題と国際協力期》 【資源・エネルギー問題】 1 世界の資源・エネルギー	- ケッペンの気候区分と植生分布の関連性を理解し、自然環境が人々の生活文化や産業、伝統の形成などに深く関わり、また諸要素が相互に関連しあっていることを理解する。 - 世界の産業の特徴を地域ごとに比較し、自然環境や生活文化との関連性を考察する。 - アジア各地の事例地域の学習を通して、経済活動の発展とグローバル化を複数の資料から動的に捉え、立地なども関連させながら多角的に考察し、まとめる。 - 世界の人口問題の特徴や分布を、人口ピラミッドや主題図などの資料から比較・分類しながら整理し、考察する。 - 人口問題を気候変動やモノカルチャー経済などの社会的・自然的背景と関連させながら構造的に捉え、グローバル・ローカルな視点から解決方法を構想する。 - エネルギー資源の変化を世界的な視野から概観し、主題図や統計資料をもとに、鉱産資源の偏在性・有限性・消費における地域格差などの諸課題を読み取ることができる。
3 学期	2 エネルギー資源の生産・消費と課題 3 再生可能なエネルギーへの移行 4 鉱産資源 ロシア・オーストラリア・日本 《第 4 章 生活圏の諸課題》 1 日本の地形・気候と生活 2～4 風水害/火山/地震・津波と防災 5 都市型災害と防災	- SDGsなどを参考に主題を設定し、資源・エネルギー問題の現状や要因、解決の方向性などを多面的に考察し、表現する。 - 地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりを理解する。自然災害としては、地震災害、津波災害、風水害、火山災害などを取り上げ、世界の変動帯の分布と地震や津波、火山活動による災害の関係、地形や気候、土地利用と風水害の関係などを理解するとともに、生徒の生活圏で過去に発生した自然災害についても理解する。

授 業 の 形 態	主にタブレットを活用したグループワーク・講義 等
教 科 書	『わたしたちの地理総合 世界から日本へ』『高等地図帳』二宮書店
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	平常点 100%（レポート課題・主題図の作成・プレゼン・単元テストなど）
備 考	グループワークによるプレゼンテーションも行う。定期テストは実施しないので、日常の取り組みが評価のすべてとなる。主体的に取り組める姿勢が最も重要である。

高校 1 年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
歴史総合	2	必修	AM・GL	清水・高尾・八反・高澤・白尾

目 標	・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を設定・解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を深める。 ・多角的な世界の見方を学ぶことで、立命館の教学理念「平和と民主主義」についての理解を深める。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・近現代の歴史に関わる諸事象について、世界と日本を広く相互的な視野から歴史を理解する。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につける。	・近現代の歴史の変化に関わる事象の意義、特色などを時期や年代、比較、現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、効果的に説明したりする力を身につける。	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	1 部 歴史の扉 1 章 歴史と私たち 2 章 歴史の特質と資料 2 部 近代化と私たち 1 章 江戸時代の日本と結びつく世界 2 章 欧米化における近代化 3 章 近代化の進展と国民国家形成 4 章 アジア諸国の動揺と日本の開国 5 章 近代化が進む日本と東アジア	・身近な諸事象が日本や世界の歴史とつながっていることを理解し、歴史への関心を深める。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 ・18 世紀の日本を含めたアジアにおける、経済と社会を理解する。 ・産業革命の影響、中国や日本の開港の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを考察し、表現する。 ・国民国家や帝国主義の形成の背景や影響などに着目して、アジアとその他の国の政治変革の特徴などを考察し、表現する。 ・「自由・制限」「平等・格差」「開発・保全」「統合・分化」「対立・協調」の観点から主題を設定し、解決する態度を身につける。
2 学期	3 部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 章 第一次世界大戦と日本の対応 2 章 国際協調と大衆社会の広がり 3 章 日本の行方と第二次世界大戦	・第一次世界大戦の展開と日本・アメリカの成長、ソヴィエトの成立、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立を基に、総力戦と国際協調体制を理解する。 ・大衆の政治参加、大量消費社会、大正文化、教育の普及とマスメディアの発達を基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 ・世界恐慌、ファシズム伸長を基に、国際協調体制の動揺を理解する。 ・第二次世界大戦の原因、展開を考察し、表現する。
3 学期	4 章 再出発する世界と日本 4 部 グローバル化と私たち 1 章 冷戦で揺れる世界と日本 2 章 多極化する世界 3 章 グローバル化のなかの世界と日本	・国際連合、冷戦の始まりとアジアの動向、戦後日本の道程を基に、国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 ・冷戦下におけるアジア、アフリカ、地域紛争、核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。 ・人と資本の移動、高度情報通信、感染症など、多様な人々の共存を考察することで、グローバル化への問いを設定するとともに、考察する。 ・これまでの学習を基に、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、多角的、多面的に考察、構想し、表現する。

授 業 の 形 態	主にタブレットを活用したグループワーク・講義 等
教 科 書	『明解 歴史総合』帝国書院
副 教 材	
評 価 の 方 法	平常点 100%（レポート課題・パフォーマンス課題・小テスト・単元テストなど）
備 考	グループワークによるプレゼンテーションを行う。定期テストを実施しないため、日常の取り組みが評価のすべてとなる。主体的に取り組める姿勢が、最も重要である。

高校 1 年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
地理総合	2	必修	FT	山本

目 標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		
育 っ た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解する。 - 地図や地理情報システムなどを用い、地理的な情報を調べまとめる技能を身につける。	- 地理的因果関係を合理的に理解するにあたってさまざまな観点から考察することができる。 - 世界の人々の生活と環境の多様性を、自然及び社会的条件と関連付けて適切に判断できる。	- 地理的な課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 - 地理的なものの見方を様々な社会事象にも積極的に用いようとする姿勢を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	《第 1 章 地図とGISの活用》 【地図情報と地理】 1, 2 球面上での生活 3 世界地図でとらえる地球 【日常生活のさまざまな地図】 1 身の回りにあるさまざまな地図 2 地理情報システム (GIS) のしくみと使い方 《第 2 章 生活文化の多様性と国際理解》 【自然環境と生活文化】 1 地球上の地形のなりたち 2, 3 山地と平野/海岸部の生活	- 現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図や、方位、時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きを理解する。読図を通して世界を概観するとともに、世界的視野から日本の位置、日本の領域をめぐる問題にもふれる。 - 地理情報を地図や地理情報システムを活用し、情報を収集、読み取り、まとめる技能の習得。中学校社会科地理的分野で学習した地球儀や地図の活用に関する技能などの既習事項を踏まえ、作業的で具体的な体験を伴う学習によって興味・関心を喚起し、段階的に地図や GIS を活用した学習を具体化、深化させる。 - 人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することを理解する。
2 学期	4 地球上の気候のなりたち 【産業の発展と生活文化】 1 農業の地域性 2 農業 南アジア 3 工業の地域性 4, 5 経済成長 中国 6, 7 工業化 タイ・ベトナム 【人口・食料問題】 1 世界の人口問題 2 人口増加 中国とインド 3 人口停滞 スウェーデンと日本 4 世界の食料問題 5 人口増加と食料問題 アフリカ 《第 3 章 地球的課題と国際協力期》 【資源・エネルギー問題】 1 世界の資源・エネルギー	- ケッペンの気候区分と植生分布の関連性を理解し、自然環境が人々の生活文化や産業、伝統の形成などに深く関わり、また諸要素が相互に関連しあっていることを理解する。 - 世界の産業の特徴を地域ごとに比較し、自然環境や生活文化との関連性を考察する。 - アジア各地の事例地域の学習を通して、経済活動の発展とグローバル化を複数の資料から動態的に捉え、立地なども関連させながら多角的に考察し、まとめる。 - 世界の人口問題の特徴や分布を、人口ピラミッドや主題図などの資料から比較・分類しながら整理し、考察する。 - 人口問題を気候変動やモノカルチャー経済などの社会的・自然的背景と関連させながら構造的に捉え、グローバル・ローカルな視点から解決方法を構想する。 - エネルギー資源の変化を世界的な視野から概観し、主題図や統計資料をもとに、鉱産資源の偏在性・有限性・消費における地域格差などの諸課題を読み取ることができる。
3 学期	2 エネルギー資源の生産・消費と課題 3 再生可能なエネルギーへの移行 4 鉱産資源 ロシア・オーストラリア・日本 《第 4 章 生活圏の諸課題》 1 日本の地形・気候と生活 2～4 風水害/火山/地震・津波と防災 5 都市型災害と防災	- SDGsなどを参考に主題を設定し、資源・エネルギー問題の現状や要因、解決の方向性などを多面的に考察し、表現する。 - 地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりを理解する。自然災害としては、地震災害、津波災害、風水害、火山災害などを取り上げ、世界の変動帯の分布と地震や津波、火山活動による災害の関係、地形や気候、土地利用と風水害の関係などを理解するとともに、生徒の生活圏で過去に発生した自然災害についても理解する。

授業の形態	主にタブレットを活用したグループワーク・講義 等
教科書	『わたしたちの地理総合 世界から日本へ』『高等地図帳』二宮書店
副教材	なし
評価の方法	平常点 100%（レポート課題・主題図の作成・プレゼン・単元テストなど） 評定：評点 5：60 以上 4：50 以上 3：40 以上 2：30 以上 1：30 未満
備 考	グループワークによるプレゼンテーションも行う。定期テストは実施しないので、日常の取り組みが評価となる。受験対策の必要性から共通テストを意識したものを含める。

高校 1 年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
歴史総合	2	必修	FT	白尾

目 標	・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を設定・解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を深める。 ・多角的な世界の見方を学ぶことで、立命館の教学理念「平和と民主主義」についての理解を深める。		
育 っ た い 力	知識・技能 ・近現代の歴史に関わる諸事象について、世界と日本を広く相互的な視野から歴史を理解する。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につける。	思考・判断・表現 ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意義、特色などを時期や年代、比較、現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、効果的に説明したりする力を身につける。	主体的に学習に取り組む態度 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	1 部 歴史の扉 1 章 歴史と私たち 2 章 歴史の特質と資料 2 部 近代化と私たち 1 章 江戸時代の日本と結びつく世界 2 章 欧米化における近代化 3 章 近代化の進展と国民国家形成 4 章 アジア諸国の動揺と日本の開国 5 章 近代化が進む日本と東アジア	・身近な諸事象が日本や世界の歴史とつながっていることを理解し、歴史への関心を持つ。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 ・18 世紀の日本を含めたアジアにおける、経済と社会を理解する。 ・産業革命の影響、中国や日本の開港の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などに考察し、表現する。 ・国民国家や帝国主義の形成の背景や影響などに着目して、アジアとその他の国の政治変革の特徴などを考察し、表現する。 ・「自由・制限」「平等・格差」「開発・保全」「統合・分化」「対立・協調」の観点から主題を設定し、解決する態度を身につける。
2 学期	3 部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 章 第一次世界大戦と日本の対応 2 章 国際協調と大衆社会の広がり 3 章 日本の行方と第二次世界大戦	・第一次世界大戦の展開と日本・アメリカの成長、ソヴィエトの成立、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立を基に、総力戦と国際協調体制を理解する。 ・大衆の政治参加と大量消費社会と大正文化を、教育の普及とマスメディアの発達を基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。 ・世界恐慌、ファシズム伸長を基に、国際協調体制の動揺を理解する。 ・第二次世界大戦の原因、展開を考察し、表現すること。
3 学期	4 章 再出発する世界と日本 4 部 グローバル化と私たち 1 章 冷戦で揺れる世界と日本 2 章 多極化する世界 3 章 グローバル化のなかの世界と日本	・国際連合、冷戦の始まりとアジアの動向、戦後日本の道程を基に、国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 ・冷戦下におけるアジア、アフリカ、地域紛争、核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。 ・人と資本の移動、高度情報通信、感染症など、多様な人々の共存を考察することで、グローバル化への問を設定するとともに、考察する。 ・これまでの学習を基に、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、多角的、多面的に考察、構想し、表現する。

授 業 の 形 態	主にタブレットを活用したグループワーク・講義 等
教 科 書	『明解 歴史総合』帝国書院
副 教 材	
評 価 の 方 法	課題点 100%（レポート課題・パフォーマンス課題・小テスト・単元テストなど） 評定：評点 5：60 以上 4：50 以上 3：40 以上 2：30 以上 1：30 未満
備 考	グループワークによるプレゼンテーションを実施する。定期テストを実施しないため、日常の取り組みが評価のすべてとなる。主体的に取り組む姿勢が、最も重要である。共通テスト対策も視野に入れた内容となる。

高校 1 年（数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学 I	3	必修	AM GL	小森・吉田・大木康

目 標	数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学 期	数学Ⅰ 第 1 章 数と式 多項式の加法と減法／多項式の乗法／ 因数分解／実数／ 根号を含む式の計算／ 不等式の性質／1 次不等式／ 絶対値を含む方程式・不等式	・ 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算ができる。 ・ 2 次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深められる。 ・ 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1 次不等式の解を求められる。 ・ 問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形できる。 ・ 不等式の性質を基に 1 次不等式を解く方法を考察できる。 ・ 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1 次不等式を問題解決に活用できる。
	数学Ⅰ 第 2 章 集合と命題 命題と条件／命題と証明	・ 集合と命題に関する基本的な概念を理解できる。 ・ 集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明できる。
	数学Ⅰ 第 3 章 2 次関数 関数とグラフ／2 次関数のグラフ 2 次関数の最大・最小／ 2 次関数の決定／2 次方程式／ 2 次関数のグラフと x 軸の位置関係／ 2 次不等式	・ 2 次関数の値の変化やグラフの特徴について理解できる。 ・ 2 次関数の最大値や最小値を求められる。 ・ 2 次方程式の解と 2 次関数のグラフとの関係について理解する。また、2 次不等式の解と 2 次関数のグラフとの関係について理解し、2 次関数のグラフを用いて 2 次不等式の解を求められる。 ・ 2 次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察できる。 ・ 2 つの量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察できる。
2 学 期	数学Ⅰ 第 4 章 図形と計量 三角比／三角比の相互関係／ 三角比の拡張／正弦定理／余弦定理／ 正弦定理と余弦定理の活用／ 三角形の面積／空間図形への活用	・ 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解できる。 ・ 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解できる。 ・ 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求められる。 ・ 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導ける。 ・ 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察できる。
	数学Ⅰ 第 5 章 データの分析 データの整理／データの代表値／ データの散らばりと四分位数／ 分散と標準偏差／ 2 つの変量の間の関係／ データの分析を活用した問題解決／ 仮説検定の考え方	・ 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解できる。 ・ コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求められる。 ・ 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解できる。 ・ データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察できる。 ・ 目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現できる。 ・ 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察できる。
	数学Ⅱ 第 1 章 式と証明 3 次式の展開と因数分解／二項定理／ 多項式の割り算／分数式とその計算／ 恒等式	・ 3 次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解できる。 ・ 多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算できる。 ・ 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算ができる。 ・ 2 次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解できる。 ・ 因数定理について理解し、簡単な高次方程式を因数定理などを用いてその解を求められる。 ・ 式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察できる。 ・ 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用できる。
3 学 期		

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『NEXT 数学Ⅰ』数研出版、『NEXT 数学Ⅱ』数研出版(プリント対応)
副 教 材	『CONNECT 数学Ⅰ+A』数研出版、『CONNECT 数学Ⅱ+B』数研出版（プリント対応）
評 価 の 方 法	定期考査 60％＋平常点 40％（小テスト、提出課題など）
備 考	

高校 1 年 （数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学 A	2	必修	AM GL	吉田貴・奥・児玉

目 標	場合の数と確率，図形の性質，数学と人間の活動について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	場合の数と確率，指数関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	不確実な事象，関数関係に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	準備 集合 第 1 章 場合の数と確率 (集合の要素の個数/場合の数/順列/組合せ/事象と確率/確率の基本性質)	・場合の数を求めるための基本的な考え方について理解する。また，様々な場合の数を求めるための公式について，それを適用するだけにとどまらず，公式が導出される過程についても理解し，様々な場合の数に応用できるような力を培う。 ・確率の意味とその表し方や性質について理解し，場合の数の求め方を活用するなどして，様々な事象の確率を求められるようにする。
2 学期	第 1 章 場合の数と確率 (独立な試行と確率/条件付き確率/原因の確率/期待値) 第 2 章 図形の性質 (三角形の角の二等分線と辺の比/三角形の外心・内心・重心/チェバの定理・メネラウスの定理/三角形の辺と角/円に内接する四角形/円と直線/2つの円/作図/直線と平面/三垂線の定理/多面体)	・試行の独立について理解を深め，反復試行の確率や条件付き確率を求められるようにする。さらに，期待値について理解し，それを求められるようにするとともに，様々な判断に用いるような姿勢を養う。 ・平面図形の様々な性質について，その証明を含めて理解し，それを様々な事象の考察や，新たな性質の証明などに活用できるような力を培う。 ・様々な空間図形の性質について，平面図形との違いにも注目しながら理解し，様々な事象の考察に活用できるようにする。
3 学期	第 3 章 数学と人間の活動 (約数と倍数/素数と素因数分解/最大公約数・最小公倍数/整数の割り算/ユークリッドの互除法/1次不定方程式/記数法/座標の考え方/ゲーム・パズルの中の数学)	・様々な人間の活動の中から，整数を中心とした数学的な要素を見出し，数学の内容の理解を深めると同時に，現実の事象を数学を用いて考察できるような力を培う。 ・学習内容を相互に関連付けた内容を生活と関連付けたり発展させたりするなどして生徒の関心や意欲を高める課題を設け，生徒の主体的な学習を促し，数学のよさを認識できるようにする。

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『NEXT 数学 A』数研出版
副 教 材	『CONNECT 数学 I + A』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（小テスト，提出課題など） ただし，1 学期は期末考査のみ実施。
備 考	

高校 1 年（数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
CU(キャッチアップ)	1(半期で週 2 単位)	必修	FT(高入生)	中川

目 標	・数と式、データの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
育 て たい 力	思考・判断・表現	知識・技能	主体的に学習に取り組む姿勢
	・数と式、図形と計量において、事象を数学的に考察し表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に判断することなどを通して、数学的な表現や考え方を身につける。	・数と式、図形と計量における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識・技能を身につける。	・問題解決の過程を考察し深め、他に解法がないか、評価・改善しようとする態度をもつ。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学 I 第 1 章 数と式 第 1 節 式の計算(整式/整式の加法と減法および乗法/因数分解) 第 2 節 実数(実数/根号を含む式の計算)	・数を実数まで拡張する意義や基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的に見たり処理したりする。
	第 3 節 1 次不等式(1 次不等式/1 次不等式の利用) 第 2 章 集合と命題 (集合/命題と条件/命題と証明)	・集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、1 次不等式を事象の考察に活用できるようにする。
2 学期	第 5 章 データの分析 (データの整理/データの代表値/データの散らばりと四分位範囲/分散と標準偏差/データの相関) 数学 I・数学 A の質問受け・進研模試の演習など	・統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『NEXT 数学 I』数研出版
副 教 材	『新課程 スタンダード数学 I + A』数研出版 『Focus Gold 5thEdition 数学 I + A』啓林館
評 価 の 方 法	評価は行わない。
備 考	

高校1年
 (数学科)

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学Ⅰ	5	必修	FT	中川

目標	・数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を培う。 ・数を実数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることや方程式の必要性和意味を理解するとともに、数量の関係や法則などを一般的にかつ簡潔に表現して処理したり、方程式を用いたりする能力を培う。 ・平面図形や空間図形についての観察、操作や実験などの活動を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。		
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・様々な整式の計算処理ができ、事象の考察に活用する。 ・関数のグラフを描き、方程式、不等式を視覚的に表現し、解くことができる。	・具体的な計算など文字を用いて一般化し考察する。 ・科学的考察に積極的に関数を利用し、論理的に表現することができる。	・問題解決の過程を考察し深め、他に解法がないか、評価・改善しようとする態度をもつ。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学Ⅰ 第3章 2次関数 (関数とグラフ/2次関数のグラフ/2次関数の最大・最小/2次関数の決定/2次方程式/グラフと2次方程式、グラフと2次不等式) 第4章 図形と計量 (三角比/三角比の相互関係/三角比の拡張/正弦定理/余弦定理/正弦定理と余弦定理の活用/三角形の面積/空間図形の活用) 数学Ⅱ 第1章 式と証明 (3次式の展開と因数分解/二項定理/整式の割り算/分数式とその計算/恒等式)	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 - 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 - 等式や不等式を証明することの意味や方法について学ぶことにより、数学的な考え方や論理的思考力を養い、式と証明についての理解を深める。
2 学期	数学Ⅱ 第1章 式と証明 (等式の証明/不等式の証明) 第2章 複素数と方程式 (複素数/2次方程式の解と判別式/解と係数の関係/剰余の定理と因数定理/高次方程式) 第3章 図形と方程式 (直線上の点/平面上の点/直線の方程式/2直線の関係/円の方程式/円と直線/2つの円/軌跡と方程式/不等式の表す領域) 第5章 指数関数と対数関数 (指数の拡張/指数関数/対数とその性質/対数関数/常用対数)	- 等式や不等式を証明することの意味や方法について学ぶことにより、数学的な考え方や論理的思考力を養い、式と証明についての理解を深める。 - 方程式の解を発展的にとらえ、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 - 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 - 指数関数及び対数関数についてそれらを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
3 学期	第4章 三角関数 (一般角と弧度法/三角関数/三角関数の性質/三角関数のグラフ/三角関数の応用/加法定理/加法定理の応用) 第6章 微分法と積分法 (微分係数/導関数とその計算/接線の方程式/関数の増減と極大・極小/関数の増減・グラフの応用/不定積分/定積分/面積)	- 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 - 不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求められる。

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『NEXT 数学Ⅰ』、『NEXT 数学Ⅱ』数研出版
副 教 材	『新課程スタンダード数学Ⅰ+A』、『新課程スタンダード数学Ⅱ+B』数研出版 『Focus Gold 6thEdition 数学Ⅰ+A』、『Focus Gold 5thEdition 数学Ⅱ』啓林館
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40% (小テスト、提出課題など) 評定「5」：評点60点以上、評定「4」：評点50点以上、評定「3」：評点40点以上 評定「2」：評点 30 点以上、評定「1」：評点 30 点未満 とする。
備 考	・夏季・冬季・春季休業中に特別授業を行う。

高校 1 年 （数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学 A	3	必修	FT	古山

目 標	・場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動、数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 ・上記の内容について、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を身につける。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動、数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に処理したりする技能を身につける。	・場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動、数列について論理的に考察し、表現できる。 ・事象を数学的に考察して表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につける。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度をもち、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断できる。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度をもつ。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	準備 集合 (集合)	・集合に関する基本的な概念を理解するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第 1 章 場合の数と確率 (集合の要素の個数、場合の数、順列、組合せ、事象と確率、確率の基本性質、独立な試行と確率、条件付き確率、期待値)	・場合の数の基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第 2 章 図形の性質 (三角形の角の二等分線と辺の比、三角形の外心・内心・重心、チェバの定理・メネラウスの定理、円に内接する四角形、円と直線、2つの円、作図、直線と平面、多面体)	・三角形や円などの平面図形や、空間における直線や平面、多面体などの基本的な性質について理解し、それらを様々な事象の考察に活用できるようにする。
2 学期	第 3 章 数学と人間の活動 (約数と倍数、素数と素因数分解、最大公約数・最小公倍数、整数の割り算、ユークリッドの互除法、1 次不定方程式、記数法、座標の考え方、ゲーム・パズルの中の数学)	・整数の性質及び数学と人間の活動についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。
3 学期	第 1 章 数列 (数列と一般項、等差数列、等比数列の和、等比数列、等比数列の和、和の記号 Σ 、階差数列、いろいろな数列の和)	・数列の基本的な概念を理解するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『NEXT 数学 A』、『NEXT 数学 B』数研出版
副 教 材	『新課程スタンダード数学 I + A』、『新課程スタンダード数学 II + B』数研出版 『Focus Gold 5th Edition 数学 I + A』、『Focus Gold 5th Edition 数学 B + C』啓林館
評 価 の 方 法	定期考査 60% + 平常点 40% (小テスト、提出課題など) 評定「5」: 評点 60 点以上、評定「4」: 評点 50 点以上、評定「3」: 評点 40 点以上 評定「2」: 評点 30 点以上、評定「1」: 評点 30 点未満 とする。
備 考	・夏季・冬季・春季休業中に特別授業を行う。

高校 1 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
化学基礎	2	必修	AM, GL	池内・江島

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。		
育 っ た い 力	知識・技能 ・化学の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解し、身につける。 ・実験・観察、探究活動を通して、基本操作を習得するとともに、それらの過程を記録、整理し、科学的に探究する。	思考・判断・表現 ・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。 ・与えられた情報を適切に考察・運用し、未知の事柄を推論できる。	主体的に学習に取り組む態度 ・実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	＝物質の構成粒子＝ ・原子・イオン・分子・周期律と周期表	・化学物質とは何でできているか、その基礎的知識を習得する。 ・原子の構造を理解し、イオンの成り立ちについて理解する。
	＝粒子の結合＝ ・イオン結合 ・共有結合 ・金属結合 ・配位結合 ・分子結晶 ・極性 ・ファンデルワールス力 ・水素結合	・物質について微視的な見方ができるようになる。 ・イオン結合、共有結合、金属結合に加え、配位結合、ファンデルワールス力、水素結合について理解し、結合を通して物質の性質を考える。
2 学期	＝物質質量と化学反応式＝ ・物質質量 ・化学反応式と量的関係	・物質質量という概念が、化学変化を学ぶ上でなぜ不可欠なのかを理解し、計算する事ができる。 ・化学反応における物質質量の計算ができる。
	＝酸と塩基の反応＝ ・酸・塩基 ・pH ・中和反応 ・塩	・酸・塩基の概念、反応に係る物質の特性を理解する。 ・実験により定量的な扱いを理解し、関心を深める。
3 学期	＝酸化還元反応＝ ・酸化と還元 ・酸化数 ・酸化剤と還元剤 ・金属のイオン化傾向 ・金属の反応性 ・電池	・電子の授受による酸化・還元概念を理解し、酸化数の扱いを習得する。 ・実験により酸化・還元反応について定量的な扱いを理解し関心を深める。 ・金属のイオン化傾向に基づいて金属の酸化の違いについて理解できる。

授 業 の 形 態	講義及び実験など
教 科 書	『高等学校 化学基礎』数研出版
副 教 材	『新課程版セミナー化学基礎』第一学習社
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（実験レポート、問題集、小テストなど）
備 考	・基礎基本の習得を確実にする為に小テストを実施する。 ・実験観察を重視し、自ら実験結果・考察をまとめる力を育成する為に実験レポートを課する。 ・科学館・企業・大学などへの見学や自由研究などを勧める。

高校 1 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
生物基礎	2	必修	AM・GL	八木・澤田・脇田

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現する力をつける。 ・実験・観察を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。			
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・生物の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解する。 ・実験・観察を通して科学的に探究する方法と能力を身につける。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	・実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	生物の特徴 ・生物の多様性と共通性 - 顕微鏡観察（ミクロメーターの活用） ・エネルギーと代謝 ・光合成と呼吸 遺伝子とそのはたらき（前半） ・遺伝情報と DNA - DNA の抽出 ・遺伝情報の複製と分配	・生物は多様でありながら、共通性を持っており、それは、生物の進化の結果であることが分かる。 ・生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーは ATP のかたちで供給されることが分かる。 ・呼吸や光合成の過程で ATP が合成されることが分かる。 ・酵素の特徴を理解するとともに、酵素によって生体内で必要な化学反応が進行することが分かる。 ・DNA は 2 本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしており、遺伝情報は DNA の塩基配列にあることが分かる。 ・DNA が半保存的に複製されることが分かる。 ・細胞周期の進行に伴って、DNA が正確に複製され、2 つの細胞に分配されることが分かる。
2 学期	遺伝子とそのはたらき（後半） ・遺伝情報の発現 - だ腺染色体の観察 ヒトの体内環境の維持（前半） ・体内での情報伝達と調節 ・体内環境の維持のしくみ ・免疫のはたらき（前半）	・タンパク質のアミノ酸配列は、DNA の塩基配列によって決まることが分かる。 ・個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることが分かる。 ・自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われ、体内環境が維持されていることが分かる。 ・からだに異物を排除する防御機構が備わっていることが分かる。
3 学期	ヒトの体内環境の維持 ・免疫のはたらき（後半） 生物の多様性と生態系 ・植生と遷移 ・植生の分布とバイオーム ・生態系と生物の多様性 ・生態系のバランスと保全	・免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることが分かる。 ・植生の成り立ちや相観を理解し、植生が時間の経過とともに移り変わっていくことが分かる。 ・世界各地には、気候条件によって多様なバイオームが成立していることが分かる。 ・生態系の成り立ちを理解し、生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることが分かる。 ・生態系が持つ復元力、人間活動が生態系に及ぼす影響、生態系の保全の重要性が分かる。

授業の形態	クラス授業/講義・個人ワーク・グループワーク・実験など
教科書	『高等学校 生物基礎』数研出版
副教材	『二訂版 ニューステージ新生物図表』浜島書店、『新課程 リードLight ノート』数研出版
評価の方法	定期考査 50%＋平常点 50%（実験レポート、授業ノート・問題集、単元課題など）
備 考	定期考査は 1 学期 2 回、2 学期 2 回、3 学期 1 回実施する 実験レポートなど提出課題の作成には Macbook（ノート PC）を使用する。

高校 1 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
化学基礎	2	必修	FT	中尾

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・化学の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解し、身につける。 ・実験・観察、探究活動を通して、基本操作を習得するとともに、それらの過程を記録、整理し、科学的に探究する。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。 ・与えられた情報を適切に考察・運用し、未知の事柄を推論できる。	・実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	＝物質の構成粒子＝ ・原子・イオン・分子・周期律と周期表	・化学物質とは何でできているか、その基礎的知識を習得する。 ・原子の構造を理解し、イオンの成り立ちについて理解する。
	＝粒子の結合＝ ・イオン結合 ・共有結合 ・金属結合 ・配位結合 ・分子結晶 ・極性 ・ファンデルワールス力 ・水素結合	・物質について微視的な見方ができるようになる。 ・イオン結合、共有結合、金属結合に加え、配位結合、ファンデルワールス力、水素結合について理解し、結合を通して物質の性質を考える。
2 学期	＝物質量と化学反応式＝ ・物質量 ・化学反応式と量的関係	・物質量という概念が、化学変化を学ぶ上でなぜ不可欠なのかを理解し、計算する事ができる。 ・化学反応における物質量の計算ができる。
	＝酸と塩基の反応＝ ・酸・塩基 ・pH ・中和反応 ・塩	・酸・塩基の概念、反応に関係する物質の特性を理解する。 ・実験により定量的な扱いを理解し、関心を深める。
	＝酸化還元反応＝ ・酸化と還元 ・酸化数 ・酸化剤と還元剤 ・金属のイオン化傾向 ・金属の反応性 ・酸化還元の利用（電池・電気分解）	・電子の授受による酸化・還元概念を理解し、酸化数の扱いを習得する。 ・実験により酸化・還元反応について定量的な扱いを理解し関心を深める。 ・金属のイオン化傾向に基づいて金属の酸化の違いについて理解できる。
3 学期	＝発展＝ ・化学結合と結晶 ・物質の三態と熱運動	・固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡について理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。

授 業 の 形 態	講義及び実験など
教 科 書	『化学基礎』数研出版
副 教 材	『リードα』数研出版、『フォトサイエンス化学図録』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（実験レポート、授業プリント、小テスト、授業態度等） 評定「5」：評点 60 点以上、評定「4」：評点 50 点以上、評定「3」：評点 40 点以上、 評定「2」：評点 30 点以上、評定「1」：評点 30 点未満 とする。
備 考	・基礎基本の習得を確実にする為に小テストを実施することがある。 ・実験観察を重視し、自ら実験結果・考察をまとめる力を育成する為に実験レポートを課する。 ・科学館・企業・大学などへの見学や自由研究などを勧める。

高校 1 年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
生物基礎	2	必修	FT	澤田

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現する力をつける。 ・実験・観察を通して科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・生物の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解する。 ・実験や観察を通して科学的に探究する方法を正しく用いる。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。	・実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	生物の特徴 ・生物の多様性と共通性 （実験）顕微鏡観察 ・エネルギーと代謝 ・呼吸と光合成 （実験）カタラーゼのはたらき 遺伝子とそのはたらき（前半） ・遺伝情報と DNA （実験）DNA の抽出 ・遺伝情報の複製と分配	・生物の多様性と共通性は、生物の進化の結果であることを理解する。真核細胞と原核細胞の違いを理解する。 ・マイクロメーターを用いて、細胞の大きさを計測する。 ・細胞の生命活動のエネルギーは ATP の形で供給されることを理解する。 ・呼吸や光合成の過程で ATP が合成されることを理解する。 ・酵素の特徴（温度や pH）を実験で確かめる。 ・DNA の基本的な構造を理解する。 ・バナナの DNA を取り出す手法を学び、実際の DNA に触れる。 ・DNA が半保存的に複製されるしくみを理解する。
2 学期	遺伝子とその働き（後半） ・遺伝情報の発現 （実験）だ腺染色体の観察 ヒトの体内環境の維持（前半） ・体内での情報伝達と調節 ・体内環境の維持のしくみ	・タンパク質のアミノ酸配列は、DNA の塩基配列によって決まることを理解する。DNA からタンパク質が合成されるしくみを理解する。 ・自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われていることを理解する。
3 学期	生物の体内環境（後半） ・免疫のはたらき 植生の多様性と生態系 ・植生と遷移 ・植生の分布とバイオーム ・生態系と生物の多様性 ・生態系のバランスと保全	・からだに異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。 ・植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する。 ・世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。 ・人間活動が生態系に及ぼす影響について理解し、生態系の保全の重要性について考える。

授業の形態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教科書	『高等学校 生物基礎』数研出版
副教材	『ニューステージ新生物図表』浜島書店、『新課程 リードα』数研出版
評価の方法	定期考査 70%＋平常点 30%（実験レポート、授業プリント、小テスト、授業態度等） 評定「5」：評点 60 点以上、評定「4」：評点 50 点以上、評定「3」：評点 40 点以上、 評定「2」：評点 30 点以上、評定「1」：評点 30 点未満 とする。
備考	

高校 1 年 （保健体育科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
体育	2	必修	AM GL FT	秋武・前田・樋口・高橋・上野・中尾

目 標	・運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (各種目でワークシートを作成し、課題設定と自己評価を行う) ・運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にすることなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。		
育 っ た い 力	知識・技能 ・技術の名称や行い方を理解する力 ・技能や身につけた動きをより高め、記録や技に挑戦する力 ・自己のねらいに応じて体力の向上をはかる力 ・各種目課題設定を行う力	思考・判断・表現 ・運動を継続する意義を理解する力 ・体力の高め方を理解する力 ・自分の体調に気付く力 ・レポート課題の発表や相互評価を行う力	主体的に学習に取り組む態度 ・自主的に取り組む力 ・ルールやマナーを守る力 ・道具や施設を大切に扱う力 ・互いの違いや良さを認め合う力 ・自己の責任を果たす力

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・オリエンテーション ・集団行動 ・新体力テスト ・陸上競技 ・体づくり運動（立守ダンス）（男女共修） ・トレーニング講習 ・体育理論	・体育館やグラウンドの使用マナー、授業内でのルールを理解する。 ・安全かつ円滑に授業ができるようにする。 ・新体力テストを実施し、自己の能力や課題について知る。 ・陸上競技を通して、自己の記録や課題を克服する。 ・立守ダンスの習得に努め、ウォーミングアップの必要性を理解する。 ・新体力テストを基に、自分にあった運動強度や時間、頻度など計画立案する。 ・トレーニング場の使用方法や安全上の注意について理解する。
2 学期	・男子：球技 2 種目（ネット型・ゴール型）ソフトテニス、バスケットボール ・女子：球技 2 種目（ネット型・ベースボール型）卓球、ソフトボール ・持久走（男女共修）	・球技を通して、体力の向上と安定したボール操作を学ぶ。 ・ルールの理解と個人技術の向上をさせる。 ・基本技術の習得と過程を学ぶ。 ・ルールを調べ、理解をする。 ・自己を鍛錬し、体力の向上をはかる。 ・持久力と調整力を身に付ける。
3 学期	・持久走（男女共修） ・男子球技（ゴール型）サッカー ・女子球技（ネット型）バスケットボール ・体育理論	・一定のペースを持続できるようにする。 ・体力を身に付ける。 ・技能の型の違いやそれぞれの練習の仕方を理解し、技術や戦術をチームで工夫する。 ・スポーツをとりまく社会の動き、問題点について理解する。

授 業 の 形 態	3 クラス合同男女別授業（一部共修 4 講座展開）
教 科 書	『現代高等保健体育』 大修館書店
副 教 材	無し
評 価 の 方 法	・評価点 100%（実技 100 点） ・実技・・・運動能力だけでなく、自主的・積極的に参加する姿勢や規範意識の姿勢を重視する。 ・出席・・・欠課 1 につき 2 点、遅刻や忘れ物 1 回につき 1 点を差し引く。
備 考	・体づくり運動を通年実施し、体力の維持・向上をはかる。 ・指定の体操服を着用し（見学者も同様）、体育館更衣室で着替えること。 ・見学の場合は、筆記用具持参の上、必ず授業時間前に体育準備室の教員に申し出ること。 ・途中でケガや気分が悪くなった場合は必ず担当教員に申し出ること。 ・身体的理由で長期間の見学が必要な場合は、担当教員に早めに申し出ること。

高校 1 年 （保健体育科）

科 目		単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
保健		2	必修	AM GL FT	秋武・脇屋敷・中尾・上野・山岡・樋口
目 標	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付ける。 ・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。（レポートの作成や発表する中で相互評価が出来るようにする） ・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。				
育 て たい 力	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	・健康についての多様な考え方や成り立ちとその要因を理解し、保持増進するための運動・休養や食事などを活用する。		・生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善する思考力と判断力を養う。		・生涯を通じて健康の保持・増進や運動スポーツに取り組み、自立性や協働性を持って、豊かな人生を創ることができる力を育む。
時期	学習内容・項目			ねらい・目標	
1 学期	・健康の考え方や成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防、治療と回復 ・運動と健康食事と健康 ・休養・睡眠・喫煙 ・飲酒と薬物乱用 ・精神疾患の特徴、予防、回復			・様々な健康の考え方や成り立ちについて理解し、説明できる。 ・生活習慣病の要因と一次、二次予防方法を理解する。 ・がんの種類や原因について理解し、予防方法や治療方法、検診などについて理解し、説明ができる。 ・目的に応じて健康的な運動の方法や食事、休養睡眠のとり方について理解し、説明ができる。 ・個人や社会に起こりうる健康被害について短期的・長期的影響を理解するとともに社会環境整備などについて考える。 ・心身の健康や社会に及ぼす影響、個人や社会環境を説明できる。 ・疾患の発病・予防・治療について理解するとともに、精神保健の課題や社会環境整備が必要な事の説明ができる。	
2 学期	・現代の感染症と予防 ・性感染症・エイズとその予防 ・健康の意思決定・行動選択環境づくり ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法 ・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動 ・妊娠・出産、避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活、中高年期と健康 ・働くこと、労働災害と健康 ・健康的な職業生活			・感染症について理解をするとともに感染力や予防について説明ができる。その要因や社会対策も理解をする。 ・健康に関する適切な選択・方法や工夫について理解をする。 ・応急処置の意義や手順理解し、実践できる。 ・心肺蘇生法の方法と手順をしり、実際にできる。 ・ライフステージと健康の関連性を知り、社会から活用できる支援について説明ができる。 ・体の変化と心の発達にかかわる問題について理解をする。 ・妊娠出産の家庭における健康課題や母子保健サービスを理解する。家族計画の意義と適切な方法について理解し、心身に及ぼす影響について説明できる。 ・心身の発達と結婚生活について説明でき、そのために必要な考え方や行動を理解する。 ・働くことの意義と健康の関りについて理解する。	
3 学期	・大気汚染・水質汚濁・土壌汚染と健康 ・環境と健康にかかわる対策 ・ごみ処理と上下水道の整備 ・食品の安全性、食品衛生に関わる活動 ・保健医療サービス、医薬品の制度と活用 ・様々な保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加			・環境汚染の原因と健康への影響について理解する。 ・環境の保全に関する主な施策について説明できる。 ・ごみ処理の現状とその課題や循環型社会について説明できる。 ・食品の安全性と健康の関りや課題、個人や行政、製造者の役割を理解する。 ・保健行政の役割と保健サービスの活用について知る。 ・医療保険の仕組みと医療機関の役割を理解する。 ・医薬品の正しい使い方と安全性を守る取り組みについて理解する。 ・健康の保持増進のための環境づくりを理解する。	
授 業 の 形 態	クラス一斉授業 講義形式				
教 科 書	『現代高等保健体育』大修館書店				
副 教 材					
評 価 の 法	定期考査 70%+課題点 30% 定期考査は以下のように実施をする。「1 学期期末の 1 回、2 学期中間・期末の 2 回、3 学期学年末の 1 回」 課題点の内訳：課題点（グループワークや発表、ワークブックや板書、課題等を授業内で課す） 平常点（授業に取り組む姿勢）				
備 考					

高校 1 年 （家庭科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
家庭基礎	2	必修	AM・GL・FT	吉田結愛・小林

目 標	・人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 ・自分と家族の生活を守り、家庭生活の担い手として主体的に行動していくための知識と技術を身につける。 ・より良い生活の創造者として、地域社会や国際社会と主体的に協働できる実践的な態度を養う。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
育てたい力	・家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につける。 ・家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につける。	・家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につける。	・家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につける。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・生活設計 ・子どもの保育 ・高齢期の生活 ・共生社会	・家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中で捉え、将来の生活設計や自立について深く考えることができる。 ・現代の職業や就労の問題について基礎的な知識を身につけ、自らの将来のあるべき姿（職業観）について深く考えることができる。 ・仕事と子育てや介護の問題についての基礎的な知識を身につけ、理想の男女観（夫婦観）や国際的な視点から今後の家庭生活のあり方について深く考えることができる。
2 学期	・食生活 ・衣生活 ・住生活	・人間の体に必要な栄養素について、基礎的な知識を身につけ、それらを活かしながら、自分や家族が真に健康でいられるための生活改善を行うことができる。 ・調理の基礎的・基本的な知識と技術に触れながら、家庭生活の担い手として仲間と協働することができる。 ・自国の食文化に触れるとともに、現代の日本が抱える食糧事情を踏まえて、今後の日本のあるべき食生活の姿について考えることができる。 ・衣服の役割と機能についての基礎的な知識を身につけ、TPO に応じた着装を行うことができる。 ・自国の衣文化に触れるとともに、世界的な視点から持続可能な衣生活について考えることができる。 ・住居の役割と機能についての基礎的な知識を身につけ、自分や家族に最適な住環境について構想を練ることができる。
3 学期	・ホームプロジェクト ・消費生活・環境	・生活の課題を見つけ、その改善方法を考え、実践する。また、実践したことをまとめ、自らの生活全般を見つめ直し、その問題点を解決するための知識・技術を主体的に学ぶことができる。 ・18 歳で「大人」になるという自覚を持ち、成年（大人）と未成年の違いについて理解し、自立した消費者としてどのように行動したらよいかを考えることができる。 ・自分の消費行動が社会に与える影響について理解し、持続可能な社会のためにどう行動したらよいか考えることができる。

授業の形態	講義・問題解決を考えるグループワーク・調理実習・被服実習
教科書	『Survive!!高等学校家庭基礎-』教育図書
副教材	『LIFE おとなガイド家庭科』教育図書、『知っておきたい食べ物の話』教育図書、『おかねドリル』教育図書
評価の方法	定期考査 60 % + 平常点 40 % 定期考査：1 学期期末、2 学期期末（2 回） 3 学期は考査を実施せず、平常点のみで評価を行う 平常点：各種レポート課題・授業ノート
備 考	授業の約半分は、演習や実習形式の授業となるため、平常点の配分が大きい。そのため、授業への出席状況や課題提出状況が評価に大きな影響を与えることになるので要注意。

高校 1 年 （外国語科：英語）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
英語コミュニケーション I	5	必修	AM・GL	高瀬・上村・太田・梅本 Kali Pendle・Ashley Tisdale

目 標	- 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報やアイデアなどを的確に理解したり適切に伝えたりする態度を養う。 - 国際化社会に対応できる英語運用能力を高めるために、個人およびペア・グループでの様々な活動を通し、その基盤となる「読む」「聞く」「話す（発表・やりとり）」「書く」力を身につける。 - 相手の発言を受けて発言したり質問したりする活動など、英語を使ったやり取りを通して、自分の意見やアイデアを持ったり、吟味したりする力を養う。 - 英語でスピーチやプレゼンテーションなどを行うための基本的な技能や英語力・表現力を身につける。また、聴き手として発表について即興で質問するなど、積極的に話し手に関わるための英語力を高める。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	- 語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 - 場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢やイントネーションを知っている。 - 自分の興味や関心をもとに得た語彙や表現などを使いながら、自分が伝えたい内容などを他者と共有することを通して考察し、自分の学びとして知識・技能を身につける。	- 豊富な語彙や学習した表現を「聞く」「話す（やりとり・発表）」「読む」「書く」活動を通じて活用し、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとまった文章で表現したりできる。 - 日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解し考える。 - 論説文や物語文に慣れ、様々な英文の要旨を理解し、その内容や自らの問いについて深め、考える。	- 様々な分野の話題に興味・関心を持ち、自分の考えや価値判断の枠組みを組み換えようと、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。 - 自分で学びたいことや具体的方法を考え、実際にやってみるなかで方法を吟味して更新することができる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	- Pre Lesson - L1 The Blue White Shirt 和製英語に関する体験 - L2 Does It Spark Joy? 片付けコンサルタント近藤麻理恵氏 - L3 Hatching the Egg of Hope アーティストミヤザキ氏の活動	様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能の基礎基本を身に付ける。 ◆Listening / Reading - 様々なテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握をもとに的確に情報を得ることができる。また、関連する英文を主体的に読み、自ら問いを持って、理解を深めることができる。 ◆Speaking(やりとり・発表) / Writing - 自分の意見やアイデアと、その根拠となる情報をプレゼンテーション形式で伝えること、また、他者の発言を受けて考えを深めたり、質問したりすることなどを通して、協働的な話し合いをすることができる。さらに英文を読んだり、やりとりをしたりして得た情報をもとに、自らの考えなどを書くことができる。
2 学期	- L4 Digging into Mystery 縄文時代の謎についてのプレゼン - L5 Roots & Shoots 動物学者ジェーン・グドール博士 - L6 You and Your Smartphone スマートフォンの現状と懸念 - L7 Living in Alaska 写真家星野道夫さんとアラスカの自然 - L9 Our Lost Friend 博物館の文化財返還問題	
3 学期	- L8 Not So Long Ago 20 世紀を振り返る写真 - L10 Good Ol' Charlie Brown 漫画家チャールズ・シュルツ氏 - Find Your Own Donut 豊田章男氏からのメッセージ	

授 業 の 形 態	クラス授業及び TT 授業（ペアやグループでの言語活動を含む、学習者が主体となる授業） ＊ 5 単位中 1 単位は、ネイティブ教員 2 名との授業となる。
教 科 書	『CROWN English Communication I』三省堂
副 教 材	『総合英語 be 4th Edition』いっずな書店
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する。 （平常点は、単元テスト・パフォーマンステスト・課題提出など）
備 考	上記の他、オリジナル教材を使用する。

高校 1 年 （外国語科：英語）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
CU（キャッチアップ）	1（半期で週 2 単位）	必修	FT（中入生）	二宮

目 標	・高校英文法の基礎・基本の定着から、運用能力を高めるための基本的な活動を行い、高校での発展的な英語学習に必要な英語力を養う。 ・英語コミュニケーション I での学習内容を確実に自らの力に変えていくための input, intake 活動を通して、本文の理解をより深め、十分な言語活動に活かせるようにしていく。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	・語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 ・場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢、イントネーションを知っている。	・豊富な語彙や学習した表現を「聞く」「話す（やりとり・発表）」「読む」「書く」活動を通じて活用し、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとまった文章で表現したりできる。 ・日常的话题について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解し考える。	・様々な分野の話題に興味、関心を持ち、自分の考えや価値判断の枠組みを組み換えようと、更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
通年	・高校基礎英文法の整理と基本問題演習（中学学習内容の整理を含む）	・様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能の基礎基本を身につける。
1 学期	・英語の読み方 ・語彙力のつけ方 ・文法項目 品詞・文型・助動詞・態・準動詞	◆Basic Grammar (Writing) ・高校で学習する基本的な英文法の形や機能を理解する。 ・基本となる英文（単文）を正確に書くことができる。
2 学期	・文法項目 関係詞・比較・仮定法	◆Listening / Reading ・様々なテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握をもとに的確に情報を得ることができる。
3 学期	・英語コミュニケーション I での学習内容（1 学期～2 学期）の復習	

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『CROWN English Communication I』三省堂
副 教 材	『総合英語 be 4th Edition』いっずな書店
評 価 の 方 法	評価は行わない
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する。 ・受講については、原則中入生全員とするが、学習状況に応じて講座再編成を行うこともある。

高校 1 年 （外国語科：英語）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
英語コミュニケーション I	5	必修	FT	二宮・Kali Pendle・Ashley Tisdale

目 標	- 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報やアイデアなどを的確に理解したり適切に伝えたりする態度を養う。 - 国際化社会に対応できる英語運用能力を高めるために、個人およびペア・グループでの様々な活動を通し、その基盤となる「読む」「聞く」「話す（発表・やりとり）」「書く」力を身につける。 - 相手の発言を受けて発言したり質問したりする活動など、英語を使ったやり取りを通して、自分の意見やアイデアを持ったり、吟味したりする力を養う。 - 英語でスピーチやプレゼンテーションなどを行うための基本的な技能や英語力・表現力を身につける。また、聴き手として発表について即興で質問するなど、積極的に話し手に関わるための英語力を高める。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
育てたい力	- 語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 - 場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢やイントネーションを知っている。 - 自分の興味や関心をもとに得た語彙や表現などを使いながら、自分が伝えたい内容などを他者と共有することを通して考察し、自分の学びとして知識・技能を身につける。	- 豊富な語彙や学習した表現を「聞く」「話す（やりとり・発表）」「読む」「書く」活動を通じて活用し、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとまった文章で表現したりできる。 - 日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを考え理解する。 - 説明文や物語文に慣れ、様々な英文の要旨を理解し考える。	- 様々な分野の話題に興味、関心を持ち、自分の考えや価値判断の枠組みを組み換えようと、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。 - 自分で学びたいことや具体的方法を考え、実際にやってみるなかで方法を吟味して更新することができる。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	- Pre Lesson - L1 The Blue White Shirt 和製英語に関する体験 - L2 Does It Spark Joy? 片付けコンサルタント近藤麻理恵氏 - L3 Hatching the Egg of Hope アーティストミヤザキ氏の活動	様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能の基礎基本を身に付ける。 ◆Listening / Reading - 様々なテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握をもとに的確に情報を得ることができる。また、関連する英文を主体的に読み、自ら問いを持って、理解を深めることができる。 ◆Speaking(やりとり・発表) / Writing - 自分の意見やアイデアと、その根拠となる情報をプレゼンテーション形式で伝えること、また、他者の発言を受けて考えを深めたり、質問したりすることなどを通して、協働的な話し合いをすることができる。さらに英文を読んだり、やりとりをしたりして得た情報をもとに、自らの考えなどを書くことができる。
2 学期	- L4 Digging into Mystery 縄文時代の謎についてのプレゼン - L5 Roots & Shoots 動物学者ジェーン・グドール博士 - L6 You and Your Smartphone スマートフォンの現状と懸念 - L7 Living in Alaska 写真家星野道夫さんとアラスカの自然 - L9 Our Lost Friend 博物館の文化財返還問題	
3 学期	- L8 Not So Long Ago 20 世紀を振り返る写真 - L10 Good Ol' Charlie Brown 漫画家チャールズ・シュルツ氏 - Find Your Own Donut 豊田章男氏からのメッセージ	

授 業 の 形 態	クラス授業及び TT 授業（ペアやグループでの言語活動を含む、学習者が主体となる授業） ＊ 5 単位中 1 単位は、ネイティブ教員 2 名との授業となる。
教 科 書	『CROWN English Communication I』三省堂
副 教 材	『総合英語 be 4th Edition』いづな書店
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する。 （平常点は、単元テスト・パフォーマンステスト・課題提出など）
備 考	上記の他、オリジナル教材を使用する。

高校 1 年 （総合）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
Thinking Design	1	必修	AM・GL・FT	水野・児玉・國分・高瀬

目 標	- 科学的見地から、自ら問いを立てるなど、探究の手法を体得する。 - 根気強く考える、相手にわかるように伝える、チームの中で「思考」を練り上げる力を身につける。 - 探究プロセスの中で、自己の成長を客観視（メタ認知）できるようになり、異なる状況の中でも身につけた探究手法が活用できるようになる。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	これまでに身につけてきた数学・理科・国語・社会などの知識・スキルや経験をつなぎ合わせながら深く思考し、自ら立てた問いの解決方法を見出していく探究活動につなげていくことができる。	身の回りの事象を科学的、数学的に捉え、問題設定・問題解決の道筋を見つけ出す。ディスカッションやレポート作成など、協働的または探究的作業の中で、自らの思考の変化に気づき、論理的説明力、異なる状況への応用力などをブラッシュアップできる。	答えの簡単に出ない問題に対して、これまでの知識や経験の中から類推したり、具体例に当てはめたり、解決の糸口を根気強く探し、自分なりの考えや行動を導く姿勢を養う。協働的な学びの中で、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることができるようになる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	ガイダンス ①類推（見えないものを考える、思い込みに気づく） ②数理論理（現象を科学的に捉え根拠ある解決へ） ③論理的記述（論理の正しさ・曖昧さを見抜く） ④数学モデリング（現象のモデル化による探究の作法） ⑤ファクトフルネス（データを基に世界を正しく見る） 中間総括	- 高校 3 年間の探究学習の入り口として、探究的な学びに主体的に対話的に関わる意欲を培う。 10 テーマより 4 人の担当者が選んだ 8 テーマを 3 時間ずつの授業（24 回）を受講する。ガイダンスとまとめは全体指導を行い、科目の目標や到達度を共有する。 - テーマ別にオムニバス形式にて授業展開を行う。 - 探究課題に対して、8 つの異なる観点からアプローチしながら、その関連性や多様性を学び、科学的思考や探究手法の基礎である仮説の立て方や根拠をもって論理的に表現する手法を身につける。 - 毎時間「振り返り」を行うとともに、その都度、ワークシートなど取り組みのプロセスを確認し、成果物を蓄積する。各テーマの最終授業でその成果をまとめる。
2 学期 前半		
2 学期 後半	⑥仮説と検証（観察→仮説→根拠のプロセスを導く） ⑦発想法（多角的・協働的アプローチによる発散（アイデアの発想）と収束（アイデアの整理）） ⑧科学的分析（伝える・説明するための技術） ⑨修正と検証（見通しをもったトライアル＆エラー） ⑩グラフィックレコーディング（対話を「見える化」することで、場の活性化や相互理解を促す） まとめ：授業全体の振り返りや 2 年次共創探究 I・F への展望共有などを行う。	
3 学期		

授 業 の 形 態	約 20 名を単位とする授業／一斉授業・グループワーク・ディスカッションなど
教 科 書	なし
副 教 材	オリジナル教材
評 価 の 方 法	各テーマのワークシート・成果物・議論・発表・課題等から総合的に行う
備 考	

高校 2 年 （国語）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
現代国語	2	必修	AM AMs GL GLs	中北・河内・早瀬

目 標	・社会における諸問題を扱った評論文や小説などから、そこに描かれている事象を正しく読み取る力を養う。 ・論理的思考力を養う。 ・プレゼンテーション能力やコミュニケーション力、レポートを書く力を総合的に養う。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	・定期的に小テストに取り組むことで漢字や語彙について習熟する。 ・アカデミックライティングを基本としたレポートを書くことで、大学でも通用する文章の書き方を身につける。	・評論文や文学作品を読み解き、ディスカッション等を行うことで、自分の視野を広げる。 ・上記の内容を発表・執筆することによって、自分の考えを効果的に表現する力を身につける。	・定期的に出される課題を確実に提出することによって、継続的に学習する習慣を身につける。 ・事前課題に取り組むことを通して、主体的に作品に向かい合う姿勢を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・梨木香歩「プラスチック膜を破って」 ・高階秀爾「実体の美と状況の美」 発表	・対人関係や文化に言及されたエッセイ・評論文を読むことで自らの視野を広げ、作品から投げかけられた問いについて考える。 ・日本文化について調べ、発表することによって、西欧文化と日本文化の差異について深く理解し、国際化社会を生きるためのスキルを身につける。 ・発表を行うことで、プレゼンテーションスキルを身につける。
2 学期	・安部公房「鞆」「良識派」 ・中島敦「山月記」 ・中原中也「サーカス」	・古典的名作と言われる文学作品を詳細に読み解くことによって、通常の読書ではたどり着くことができない読み方を身につける。 ・様々な条件が課された問いに対して、根拠のある答えを考えることによって、説得力のある答えを考える姿勢を身につける。 ・近現代詩を鑑賞し、詩歌独特の技法や表現を分析することで、文学に対する自分なりの解釈を形成する力を身につける。
3 学期	・夏目漱石「私の個人主義」	・明治期という激動の時代に生きた作家の主張を読み解き、自分も同じような主張をすることを通して、激動の 2020 年代を生き抜く力を身につける。

授 業 の 形 態	講義／グループワーク／プレゼン発表等
教 科 書	『文学国語』筑摩書房
副 教 材	『読解を深める現代文単語 評論・小説』桐原書店・ジャパンナレッジ
評 価 の 方 法	定期考査 (50%) + 平常点 (50%) 提出物 (レポート、各授業の感想、下調べ、語句調べ等)、小テスト、中テスト等を総合して判断する。
備 考	定期テストは 1 学期末、2 学期末、学年末に実施する。

高校2年 (国語)

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
古典探究	2	必修	AM GL	國分・河内・主山

目 標	・適切に継承され、現代の言語生活に生かされるべき古典（古文・漢文）を読む能力を養う。 ・古典に表れている、人間・社会・自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	・古典を読解するための基本的な文法的知識を身につける。 ・作品の時代背景や歴史、文学史について知識を得る。 ・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえる。	・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。	・古典をめぐる社会や人物についての理解や関心を持つ。 ・古典の内容や表現の特色を理解し、読み味わう。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【古文】 ・『伊勢物語』「初冠」「月やあらぬ」「つひにゆく道」（歌物語） ・『古今著聞集』「能は歌詠み」（説話） 【漢文】 ・古詩五首『詩経』『文選』等（漢詩、古詩）	・既習の文法事項について再確認し、理解を深める。 ・用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・「歌」「詩」についての考えを深める。
2 学期	【古文】 ・『徒然草』「世に従はん人は」「あだし野の露消ゆる時なく」（随筆） ・『大鏡』「道真の左遷」（歴史物語） 【漢文】 ・『史記』「鴻門の会」「四面楚歌」「項王自刎」	・主体的に古典世界に触れ、文学的価値や魅力を互いに学びあう。 ・複数の作品の内容から、無常観について考えを深める。 ・古代中国の戦乱を生きた武将達のかけひきや生き様、そして死に様を読み、「人間の一生」について思いを深める。
3 学期	【古文】 ・『源氏物語』「桐壺」（物語） ・『更科日記』「門出」「物語」（日記） 【漢文】 ・「漱石枕流」（小話） ・「夜行逢鬼」（小説）	・古典文学の最高峰の位置づけを学び、高3への学びにつなげる。「語り」についての考えを深める。源氏物語の導入から、「物語」についての考えを深める。 ・中国の作品から読み取れる見方、考え方を捉える。 ・小説を読解し、創作物の力について考えを深める。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／グループワーク
教 科 書	『精選古典探究 古文編』東京書籍、『精選古典探究 漢文編』東京書籍
副 教 材	『解析古典文法 三訂版』桐原書店、『古文攻略マスタアイテム 76』桐原書店、『精説漢文』いづな書店、ジャパンナレッジ
評 価 の 方 法	定期テスト 50%＋平常点（小テスト、提出課題、授業内発表など） 50%
備 考	・定期テストは1学期末、2学期末、学年末に実施する。 ・上記の授業内容は予定であり授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校2年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
古典探究	2	必修	FT	堀井

目 標	・適切に継承され、現代の言語生活に生かされるべき古典（古文・漢文）を読む能力を養う。 ・古典に表れている、人間・社会・自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・古典を読解するための文法的知識を身につける。 ・古典の内容や表現の特色を理解し、読み味わう。 ・作品の時代背景や歴史、文学史について知識を得る。	・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえる。 ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・我が国の文化や特質、中国の文化との関係について理解を深める。	・古典をめぐる社会や人物についての理解や関心を持つ。 ・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【古文】 宇治拾遺物語『小野篁、広才のこと』 古今著聞集『能は歌詠み』 その他、教科書教材を中心に、問題演習および和歌・詩歌を含む作品読解 【漢文】 孟子「性之善也、猶水之就下」 荀子「人之性悪」	・既習の文法事項について再確認し、理解を深める。 ・用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・詩歌の鑑賞方法を体得すると共に、日本の詩歌文化の流れを理解する。 ・古典世界の文化や風俗について理解を深める。 ・漢文訓読法について再確認し、理解を深める。 ・既習の句形について復習し、理解する。 ・日本文化の形成に影響をもたらした中国思想について理解する。
2 学期	【古文】 枕草子『中納言参り給ひて』『二月つごもりに』 徒然草『花は盛りに』 その他、教科書教材を中心に、問題演習および和歌・詩歌を含む作品読解 【漢文】 思想 『孔子』『孟子』『荀子』『老子』『韓非子』『墨子』	・既習の文法事項について再確認し、理解を深める。 ・用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・内容を構成や展開に即して、的確に捉える。 ・史実および本文の内容から、登場人物の関係性や思惑を読み取る。 ・語句の意味、用法を理解し、人物関係や登場人物の心情を理解する。 ・日本文化の形成に影響をもたらした中国思想について理解を深める。 ・それぞれの思想家達が説く思想について理解するとともに、プレゼンテーションバトル形式で現代の事例と関連させた自身の意見として示すことが出来る。
3 学期	【古文】 源氏物語『光源氏の誕生』『若紫』 その他、教科書教材を中心に、問題演習および和歌・詩歌を含む作品読解	・主体的に古典世界に触れ、文学的価値や魅力を生徒相互に学びあう。 ・文法と敬語法の復習を行いつつ、古典文学における美意識や心理描写を味わわせてより深い読解に結びつける。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／グループワーク
教 科 書	『精選古典探究 古文編』東京書籍、『精選古典探究 漢文編』東京書籍
副 教 材	『解析古典文法 三訂版』桐原書店、『古文攻略マストアイテム 76』桐原書店 『基礎から学ぶ 解析古典文法』、『読んで見て覚える重要古文単語 315』桐原書店、『古文速読トレーニング 基礎』数研出版、桐原書店、『精説漢文』いっずな書店
評 価 の 方 法	平常点 100%（授業内テスト、提出課題、パフォーマンス課題、関心・意欲・態度）
備 考	上記の授業内容は予定であり、授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校 2 年 （国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
現代国語	2	必修	FT・FTs	都築

目 標	- 現代の国語/言語文化で培った知識、能力を活用し、散文（小説・評論）を読解するための技術を駆使する論理性と、韻文を正確に、且つ深く味わう豊かな感受性を涵養する。 - 漢字、熟語などの語彙の増強と、高等教育機関での議論に耐えうる知識の獲得を目指す。 - 複数テキストの比較、検討、考察にたえ得るような読解力、表現能力の伸長を目指す。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
育てたい力	- 研究者の執筆した論文を遅滞なく読めるレベルの語彙力を身につける。 - 文章を読んで、その構造を理解し、書き手の主張や意思を正確に捉えることができるようにする。	- 他者の著した作品や主張を正確に把握し、これに対する批判的思考や情動的想像力を培う。 - 人文科学的な分野からの視点のみならず、自然科学、社会科学的観点を身につけ、多角的に文章を読解する力を向上させる。	- 現代的な問題を取り上げた文章を読み、当事者意識を持ってそれら事象に対する自分の考えを構築する力を身につけさせる。 - 自分の考えをもとに、他者との対話を経て、意見を深化させられるような態度を育む。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	論理的文章 清岡卓行「ミロのヴィーナス」 立川健二「記号論のリアリティ」 文学的文章 中島敦「山月記」 その他生徒の状況に合わせて適宜選出する。	- 評論読解のために、言葉を正確に読むこと、すなわち「対比」「同義」「因果」という3つの関係を意識する。 - 他人の意見を聞き、互いに質疑応答できるように訓練する。 - 小説においては、研究者の執筆した文学研究論文にも触れつつ、作品論的/作家論的/コンテクスト的アプローチを意識して作品分析を行う力を養成する。 「山月記」に関連して、存在論、実存主義基本的な理念も紹介し、難解な哲学的評論、概念操作のための素地を構築する。
2 学期	論理的文章 高階秀爾「実体の美と状況の美」 九鬼周造『『いき』の構造』 文学的文章 川上弘美「神様」 その他生徒の状況に合わせて適宜選出する。	- 聞く力、話す力の向上をねらいとして、身の回りの事象や文学作品をテーマに問いを立て、探究する。必要に応じて、グループディスカッション、プレゼンテーションの技術を習得し、活用する。 - 文化論に関する評論/随想の読解を経て、日本文化や、文化を育んできた土壌について思いを巡らせ、それについて他者と意見を交わす能力を培う。
3 学期	論理的文章 谷崎潤一郎「陰影礼賛」 文学的文章 夏目漱石「こころ」 その他生徒の状況に合わせて適宜選出する。	- 評論、小説読解の技術を活用して理解した内容をもとに、持論を形成しプレゼンテーションができ、他者とディスカッションすることができるようになる。 「こころ」に関連して、「近代的自我」「個人主義」をはじめとする漱石の思想、及びそれらを生み出した時代背景について学び、日本近代文学の足跡をたどると共に、現代において文学を研究する意義について考察する力を育む。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／グループワーク／意見発表
教 科 書	筑摩書房『文学国語』
副 教 材	ジャパナレッジ、『読解を深める現代文単語』 桐原書店 三訂版『評論速読トレーニング 1500 冊子』 数研出版、『生きる漢字・語彙力』 駿台文庫
評 価 の 方 法	平常点 100%（授業内テスト、提出課題、パフォーマンス課題、関心・意欲・態度）
備 考	上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校2年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
国語演習A	1	必修	FTs	堀井

目 標	・適切に継承され、現代の言語生活に生かされるべき古典（古文・漢文）を読む能力を養う。 ・古典に表れている、人間・社会・自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・古典を読解するための文法的知識を身につける。 ・古典の内容や表現の特色を理解し、読み味わう。 ・作品の時代背景や歴史、文学史について知識を得る。	・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえる。 ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・我が国の文化や特質、中国の文化との関係について理解を深める。	・古典をめぐる社会や人物についての理解や関心を持つ。 ・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【古文】 宇治拾遺物語『小野篁、広才のこと』 古今著聞集『能は歌詠み』 その他、教科書教材を中心に、問題演習および和歌・詩歌を含む作品読解 【漢文】 孟子「性之善也、猶水之就下」 荀子「人之性悪」	・既習の文法事項について再確認し、理解を深める。 ・用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・詩歌の鑑賞方法を体得すると共に、日本の詩歌文化の流れを理解する。 ・古典世界の文化や風俗について理解を深める。 ・漢文訓読法について再確認し、理解を深める。 ・既習の句形について復習し、理解する。 ・日本文化の形成に影響をもたらした中国思想について理解する。
2 学期	【古文】 枕草子『中納言参り給ひて』『二月つごもりに』 徒然草『花は盛りに』 その他、教科書教材を中心に、問題演習および和歌・詩歌を含む作品読解 【漢文】 思想 『孔子』『孟子』『荀子』『老子』 『韓非子』『墨子』	・既習の文法事項について再確認し、理解を深める。 ・用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・内容を構成や展開に即して、的確に捉える。 ・史実および本文の内容から、登場人物の関係性や思惑を読み取る。 ・語句の意味、用法を理解し、人物関係や登場人物の心情を理解する。 ・日本文化の形成に影響をもたらした中国思想について理解を深める。 ・それぞれの思想家達が説く思想について理解するとともに、プレゼンテーションバトル形式で現代の事例と関連させた自身の意見として示すことが出来る。
3 学期	【古文】 源氏物語『光源氏の誕生』『若紫』 その他、教科書教材を中心に、問題演習および和歌・詩歌を含む作品読解	・主体的に古典世界に触れ、文学的価値や魅力を生徒相互に学びあう。 ・文法と敬語法の復習を行いつつ、古典文学における美意識や心理描写を味わわせてより深い読解に結びつける。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／グループワーク
教 科 書	『精選古典探究 古文編』東京書籍、『精選古典探究 漢文編』東京書籍
副 教 材	『解析古典文法 三訂版』桐原書店、『古文攻略マストアイテム 76』桐原書店 『基礎から学ぶ 解析古典文法』、『読んで見て覚える重要古文単語 315』桐原書店、『古文速読トレーニング 基礎』数研出版、『プレミアムカラー国語便覧』数研出版、『精説漢文』いっぴぐ書店
評 価 の 方 法	平常点 100%（授業内テスト、提出課題、パフォーマンス課題、関心・意欲・態度）
備 考	上記の授業内容は予定であり、授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校 2 年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
公共	2	必修	AM・AMs・GL・GLs	峯松・吉家・押淵・矢田

目 標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 - 諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	- よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 - 公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについて自覚する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	第 1 章「公共の扉」 1 公共と人 人は一人では生きられない 自由と正義の実現を目指して 日本の公共思想 2 公共と倫理 功利主義と義務論 地球温暖化問題 3 公共の基本原則 生徒会予算をどう分配するか 日本国憲法の三つの原理 基本的人権の尊重、平等、自由、義務	- 公共とは私的な欲望を保留し、広く全体を見渡すという意味を理解する。 - 社会を営む公共の存在があるのはなぜか理解する。一方社会の中で差別や分断が起こることについて考える。 - 理想の社会のあり方を考えた思想家について理解する。 - 人が共に生きる公共的空間において、どう行動するべきか、三人の哲学者の思想を基に倫理について考える。 - 地球温暖化をテーマに私たちがどう行動すべきか考える。 - 身近な生徒会をテーマに予算の配分や、民主主義について考える。 - 公共的な空間を作るために必要な原理を日本国憲法の三つの基本原則を通して考える。 - 基本的な権利を学んだ上で、実社会の問題について考える。
2 学期	第 2 章「現代社会の諸課題」 1 法と社会 多様な契約 消費者の権利と責任 日本の司法制度 国民の司法参加 2 政治 選挙と政治参加 国会と内閣 地方自治	- さまざまな種類の法があるが、法にはどのような特質があるのか道徳と法の関係について理解し、男女平等は法で実現できるか考える。 - 契約にはどのような権利と義務が発生するのか理解する。 - 日本の司法を理解した上で、民事裁判と刑事裁判の違いや、冤罪がなぜ起こるのか考える。 - 私たちが政治参加するための仕組みや選挙制度を理解した上で、若者の投票率の低さについて考える。 - 国会と内閣の関係性や国と地方自治の関係性について理解し、国民投票が本当にベストな方法か考える。
3 学期	国家主権と領土問題 安全保障と防衛 21 世紀の世界情勢 国際社会と日本 まとめ	- 国家間の争いを解決するための仕組みについて理解する。紛争解決のために国際法は有効なのか考える。 - 自衛隊と憲法の関係性について理解し、憲法 9 条と日本の防衛をどう両立させるか考える。 - テロや紛争がなくなる理由や世界で増えている難民問題について考える。 - 世界の中で日本はどのような立場にあるのか考える。 - 倫理・政治・法の複数のことから公共について考えてきた。これから私たちはどのように考え、社会参画のために行動していくのか考える。

授業の形態	協働学習、一斉講義 など
教科書	『公共』 教育図書
副教材	なし
評価の方法	平常点 100%（予習課題・振返課題・単元テスト・パフォーマンステストなど）
備 考	

高校2年（地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
世界史探究	3	選択	AM・GL	角原・吉家

目 標	・現代の国際社会で生きていくために最低限必要な世界各地の歴史と文化を、成立要因と過程に注目して捉える。 ・今日のグローバル化の起源を学び、国際的な諸課題について考察し知識・理解を深める。 ・多角的な世界の見方を学ぶことで、立命館の教学理念「平和と民主主義」についての理解を深める。		
育 っ た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	世界の歴史の諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける。	世界の歴史の諸事象を、現代世界とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察し、課題の解決を視野に入れて構想する力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを議論したりする力を養う。	世界の歴史の諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、「平和と民主主義」を教学理念に持つ立命館に学ぶものとしての自覚を深める。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	2 部 諸地域の歴史的特質の形成 1 章 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質 ・中華文明の形成 ・秦漢帝国と東アジア ・中央ユーラシアと遊牧国家 ・遊牧帝国の興亡と移動 ・ユーラシアの変動と東アジア 2 章 南アジア世界の形成 3 章 西アジアと地中海周辺の歴史的特質 ・オリエント文明の興亡 ・地中海周辺の国家形成 ・ヨーロッパへ広がるキリスト教	・1 学期パフォーマンス課題（個人探究レポート作成）の到達目標並びにテーマについて理解する。 ・人類誕生の流れを映像資料を元に考察し、探究学習としての基礎を学ぶ。 ・オリエント・地中海世界の特質を気候・地形などと関連させて捉えとと共にそれが統合され、ヨーロッパの原型が造られる様相を歴史的・地域的に理解する。 ・海洋と山に囲まれ、モンスーン気候の影響を大きく受けて、独自の文明世界を形成した南アジア世界の特色を理解し、同時に他地域への影響も捉える。 ・東南アジアや中央ユーラシア地域を含んだ国際関係を理解する。 ・北部の乾燥・畑作地域と南部の湿潤・稲作地域という 2 つの農耕世界を漢字文化が結びつけ、統一王朝が成立したことを理解する。 ・古代ギリシアや古代ローマの特質を学び、これらの地中海周辺地域がヨーロッパに与えた影響について理解する。
2 学期	3 章 西アジアと地中海周辺の歴史的特質 ・イスラームの誕生 3 部 諸地域の交流・再編 1 章 ユーラシア大交流圏の成立 ・イスラーム世界の拡大 ・ヨーロッパ封建社会の展開 ・東アジア諸地域の成長と自立 2 章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出 ・明の国際秩序と東・東南アジア ・世界帝国清とアジア諸国の成熟 ・スペインとポルトガルの進出	・2 学期パフォーマンス課題（グループ探究発表）の到達目標並びにテーマについて理解する。 ・交易を重視した都市生活を背景に生まれたイスラームが、単なる宗教にとどまらず、独自の世界を形成し、やがてヨーロッパとアジアを結びつける役割を果たしていくことを理解する。 ・封建社会の形成と変容、キリスト教世界の形成、十字軍の遠征と国王による中央集権化の進展について学び、地中海世界が解体し、ヨーロッパ世界が形成された過程を理解する。 ・モンゴル帝国が従来から内陸交易で結ばれていたユーラシアの農耕・牧畜両世界を政治的に統合したものであり、世界の一体化を進めていく一大画期となったことを理解する。 ・モンゴル帝国の後継国家としての明・清またはオスマン帝国などのイスラーム諸王朝が、独自の文明を発展させたことを理解する。
3 学期	3 章 主権国家体制の成立と交易の拡大 ・ルネサンスと宗教改革 ・主権国家形成と「17 世紀の危機」 ・イギリスとフランスの覇権争いと大西洋三角貿易 4 部 諸地域の結合・変容 ・世界で最初の工業化 ・アメリカの独立 ・フランス革命と国民国家の誕生	・3 学期パフォーマンス課題（個人探究レポート）の到達目標並びにテーマについて理解する。 ・「大航海」により、西欧を中核とする近代世界システムが形成され始めたこと及び西欧内部でもルネサンスや宗教改革を通じて主権国家体制構築に向けた動きにつながっていることを理解する。 ・イギリスで始まった産業社会から工業社会への移行について、またアメリカ独立・フランス革命に始まる国民国家形成の動きについて理解する。 ・ヨーロッパの世界進出の中、イスラーム世界は軍事的劣勢に立たされ、南アジア・東南アジアは植民地化され、東アジアも圧力を受けた状況を理解する。

授 業 の 形 態	講義形式 グループワークなど
教 科 書	『新詳 世界史探究』帝国書院
副 教 材	『最新世界史図説 タペストリー 二十三訂版』帝国書院
評 価 の 方 法	平常点 100%（レポート課題・パフォーマンス課題・単元テストなど）
備 考	

高校 2 年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
地理探究	3	選択	AM GL	伊吹・齋藤

目 標	・地理的思考の基礎となる「系統地理」分野と「地誌分野」を学ぶ。 ・現代世界の地理的な諸課題を地域性と結び付けて考察することで、地理的な見方や考え方を培い、グローバル化の加速する世界で主体的に生きる力を養う。 ・世界の文化や歴史を地理的に考察することで、「正義と倫理を持った地球市民」の育成を目指す。		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	・世界の諸事象の規則性や傾向性などを系統的に、世界の諸地域の構造や変容などを地誌的に考察する学習過程を前提に、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、地域的特色や課題などを理解する。	・社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する。	・地理的な課題を主体的に探究しようとする態度。 ・世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【系統地理分野】 ◆第 1 章「自然環境」 ・大地形、小地形 ・気候・環境問題 ◆第 2 章「資源と産業」 ・農林水産業 ・鉱産資源、エネルギー ・工業	・大地形や小地形の形成過程を理解する。侵食・堆積によって形成される局地的な地形と人間生活の関係を学ぶ。 ・気候をつくる根本原理を論理的に理解する。そしてその原理が実際の地球各地ではどのような傾向を持って現れるかをケッペンの気候区分法を用いて把握する。 ・自然的・社会的背景によって特徴的な分布を示す農林水産業を学ぶ。 ・大地形の復習を兼ねて鉱産資源とエネルギー資源の分布および新エネルギーの価値と各国の特徴について学ぶ。
2 学期	・第 3 次産業 ◆第 3 章「交通・通信と観光、貿易」 ・交通・通信 ・観光 ・貿易 ◆第 4 章「人口、村落・都市」 ・人口 ・村落・都市 ＊フィールドワーク ◆第 5 章「生活文化、民族・宗教」 ・民族・宗教 ・国家と領土問題	・交通について、水上・陸上交通が果たしてきた役割と、航空交通網が世界に与えた影響について理解し、今後の姿について考察する。 ・人口、都市・村落などに関わる事象を、その事象が見られる場所の地理的環境の共通点や相違点との関わりから捉える。 ・集落の形成過程について理解し、地形図から集落の形態を判別できるようにする。 ・都市・村落に関わる事象を実際のフィールドワークを通して、自らの身近な地域に落とし込むことができる。 ・都市化と都市問題について経済発展の観点から学び、消費行動の変化がもたらす行動空間の変化を分析できるようにする ・生活文化、民族・宗教に関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目しそれらの事象の規則性、傾向性を考察する。
3 学期	【地誌分野】 ◆第 1 章「現代世界の地域区分」 ◆第 2 章「現代世界の諸地域」	・現代世界の諸地域について、地域の結び付き、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。

授 業 の 形 態	クラス授業・一斉授業・講義形式・グループワーク・プレゼンテーション など
教 科 書	『地理探究』二宮書店
副 教 材	『高等地図帳』二宮書店
評 価 の 方 法	平常点 100% レポート課題・授業内プレゼン・単元テスト・主題図作成 など。
備 考	統計地図の作成などの様々なテーマ・課題学習も出される。与えられた課題に対し統計資料などをもとにして、常に自分で検討し、自分の結論を持ち積極的に表現すること。 ※1 年時の地理総合で学習した内容については、取り扱いを最小限にとどめる。

高校 2 年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
日本史探究	3	選択	AM GL	白尾・田辺・八反

目 標	・全時代における特定の事象に焦点をあて、史資料をもとに多角的な考察を深める中でその時代を概観することのできる歴史的思考力を養う。 ・わが国において、人間の権利と自由の尊重を獲得するまでの道のりを理解し、教学理念の「平和と民主主義」について理解を深める。		
育 っ た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ある事件の原因・動機・経過・結果の関連性を説明することができる。 ・さまざまな歴史状況における人々の考えや態度が、彼らを取り巻く環境と関連していることが認識できる。 ・ある時代の様々な特徴が、相互にどう関連しあっているかを説明することができる。	・歴史に関する諸解釈が、どのような資料選択に基づいているのかを判断することができる。 ・史料が生み出された経緯について言及することで、史料の信憑性や価値について判断することができる。 ・異なる集団や社会がなぜさまざまに歴史を解釈し、使用するのかを説明することができる。	・歴史的類推を現代の社会課題解決に応用することができる。 ・自分の生き方に身近な歴史学（人物史、地域史など）から、歴史を学ぶことの有意性を理解することができる。 ・日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を自覚することができる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	導入：「歴史とは何か」 フォーカス 1：人物史から時代を概観 第 1 部 原始・古代の日本と東アジア 第 1 章 日本文化のあけぼの 第 2 章 ヤマト政権の成立と古墳文化 フォーカス 2：下之郷史跡公園 FW① 第 3 章 律令国家の形成 第 4 章 古代の国家・社会の変容 フォーカス 3：仏像の見方 第 2 部 中世の日本と世界 第 1 章 荘園公領制の成立と院政 第 2 章 中世の国家・社会の展開 フォーカス 4：庶民の視点から見た鎌倉	・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立、また黎明期の日本列島における自然環境と人間の生活に関する問いに対して、複数の根拠を基に判断・表現することができる。 ・国家の形成と古墳文化、中国大陸・朝鮮半島との関係の変化に関する問いに対して、複数の根拠を基に判断・表現することができる。 ・律令体制の成立過程と諸文化の形成、中国王朝の関係と政治や文化への影響、貴族政治の展開、平安期の文化、武士の出現、東アジアとの関係の変化について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。 ・武家政権の成立や展開、産業の発達、宗教や文化の展開、武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の成立について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。
2 学期	第 3 章 中世の国家・社会の変容 フォーカス 5：映画『もののけ姫』分析 第 3 部 近世の日本と世界 第 1 章 東アジア世界の変容と天下統一 フォーカス 6：甲賀忍者に学ぼう！ 第 2 章 幕藩体制の成立と展開 フォーカス 7：守山宿探訪 第 3 章 近世の国家・社会の変容 フォーカス 8：下之郷史跡公園 FW② 第 4 部 近現代の地域・日本と世界 第 1 章 開国から討幕へ フォーカス 9：庶民の視点から見た幕末 第 2 章 明治維新 第 3 章 近代国家の形成 フォーカス 10：立命館創立物語	・織豊政権から 17 世紀初めの時期の政治・経済政策、アジア各地やヨーロッパ諸国との貿易や対外関係の変化、幕藩体制の確立、貿易の統制と対外関係、産業の発達、近世の社会と文化について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。 ・幕府政治の動揺と諸藩の動向、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。 ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、それにとまなう対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。 ・明治維新、立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容、産業の発展の経緯と近代の文化の特色について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。
3 学期	第 4 章 両大戦間の日本 第 5 章 十五年戦争と日本 第 6 章 戦後日本の形成 第 7 章 グローバル化のなかの現代日本 フォーカス 11：勝手にフォーカス！ まとめ：「なぜ日本史を学ぶのか」	・大正～昭和初期の政党政治、大衆社会の形成、恐慌と国際関係について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。 ・第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容、戦後の日本の再出発、その後の政治・社会の展開、それにとまなう国民生活の変容について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。

授業の形態	協働学習、一斉講義
教科書	『日本史探究』実教出版
副教材	なし
評価の方法	平常点 100%（予習課題・振り返り課題・単元テスト・パフォーマンス課題など）
備 考	

高校 2 年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
日本史探究	2	選択	FT	伊吹

目 標	・全時代における特定の事象に焦点をあて、史資料をもとに多角的な考察を深める中でその時代を概観することのできる歴史的思考力を養う。 ・わが国において、人間の権利と自由の尊重を獲得するまでの道のりを理解し、教学理念の「平和と民主主義」について理解を深める。			
育 っ て い た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・事件の原因・動機・経過・結果の関連性を説明することができる。 ・さまざまな歴史状況における人々の考えや態度が、彼らを取り巻く環境と関連していることが認識できる。 ・ある時代の様々な特徴が、相互にどう関連しあっているかを説明することができる。	・歴史に関する諸解釈が、どのような資料選択に基づいているのかを判断することができる。 ・史料が生み出された経緯に言及することで、史料の信憑性や価値について判断することができる。 ・異なる集団や社会がなぜさまざまに歴史を解釈し、使用するのかを説明することができる。	・歴史的類推を現代の社会課題解決に応用することができる。 ・自分の生き方に身近な歴史学（人物史、地域史等）から、歴史を学ぶ有意性を理解することができる。 ・日本の歴史に対する関心と課題意識を高め、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を自覚することができる。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	導入：「歴史とは何か」 フォーカス 1：人物史から時代を概観 第 1 部 原始・古代の日本と東アジア 第 1 章 日本文化のあけぼの 第 2 章 ヤマト政権の成立と古墳文化 フォーカス 2：下之郷史跡公園 FW① 第 3 章 律令国家の形成 第 4 章 古代の国家・社会の変容 フォーカス 3：仏像の見方 第 2 部 中世の日本と世界 第 1 章 荘園公領制の成立と院政 第 2 章 中世の国家・社会の展開 フォーカス 4：庶民の視点から見た鎌倉	・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立、また黎明期の日本列島における自然環境と人間の生活に関する問いに対して、複数の根拠を基に判断・表現することができる。 ・国家の形成と古墳文化、中国大陸・朝鮮半島との関係の変化に関する問いに対して、複数の根拠を基に判断・表現することができる。 ・律令体制の成立過程と諸文化の形成、中国王朝の関係と政治や文化への影響、貴族政治の展開、平安期の文化、武士の出現、東アジアとの関係の変化について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。 ・武家政権の成立や展開、産業の発達、宗教や文化の展開、武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の成立について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。
2 学期	第 3 章 中世の国家・社会の変容 フォーカス 5：映画『もののけ姫』分析 第 3 部 近世の日本と世界 第 1 章 東アジア世界の変容と天下統一 フォーカス 6：甲賀忍者に学ぼう！ 第 2 章 幕藩体制の成立と展開 フォーカス 7：守山宿探訪 第 3 章 近世の国家・社会の変容 フォーカス 8：下之郷史跡公園 FW② 第 4 部 近現代の地域・日本と世界 第 1 章 開国から討幕へ フォーカス 9：庶民の視点から見た幕末 第 2 章 明治維新 第 3 章 近代国家の形成 フォーカス 10：立命館創立物語	・織豊政権から 17 世紀初めの時期の政治・経済政策、アジア各地やヨーロッパ諸国との貿易や対外関係の変化、幕藩体制の確立、貿易の統制と対外関係、産業の発達、近世の社会と文化について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。 ・幕府政治の動揺と諸藩の動向、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。 ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、それにとまなう対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。 ・明治維新、立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容、産業の発展の経緯と近代の文化の特色について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。
3 学期	第 4 章 両大戦間の日本 第 5 章 十五年戦争と日本 第 6 章 戦後日本の形成 第 7 章 グローバル化のなかの現代日本 フォーカス 11：勝手にフォーカス！ まとめ：「なぜ日本史を学ぶのか」	・大正～昭和初期の政党政治、大衆社会の形成、恐慌と国際関係について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。 ・第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容、戦後の日本の再出発、その後の政治・社会の展開、それにとまなう国民生活の変容について、複数の根拠を基に判断・表現することができる。

授業の形態	協働学習、一斉講義
教科書	『日本史探究』実教出版
副教材	なし ※担当者が適宜用意する。
評価の方法	定期考査 60%（年 3 回） 平常点 40%（授業内課題、パフォーマンス課題、単元テストなど） 評定：評点 5：60 以上 4：50 以上 3：40 以上 2：30 以上 1：30 未満
備考	2 年「日本史探究」では通史を終えることを優先し、3 年「日本史演習」に備えることを目標とする。

高校 2 年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
公共	2	必修	FT・FTs	伊瀬

目 標	・人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・大学入学共通テストを中心とする大学入学試験に対応できる学力を養う。		
育 っ て い た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する ・諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能や活用する力を身に付ける ・概念用語を正しく理解し表現する力を身に付ける。	・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論し表現する力を養う。	・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 ・公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについて自覚する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	○公共の扉 1 公共的な空間をつくる私たち ・現代社会に生きる青年 2 公共的な空間における人間としての在り方・生き方 ・功利主義、義務論、公正の原理 3 公共的な空間における基本原理 ・公共的な空間における協働 ・民主主義、立憲主義、人権保障の意義 ○自立した主体として社会に参画する私たち 5 国際社会のなかで生きる私たち ・国際社会のルールとしくみ	・社会の諸課題を見だし、解決に向けて判断の手がかりとなる考え方や「公共的な空間」における基本原理を学ぶ。 ・青年期の特徴や発達課題を学び、自己形成の課題を考える。 ・差別や分断などの現代社会の課題や特質を考え、キャリア開発・シティズンシップの意義について理解する。 ・哲学者の思想を手がかりに、「自由と規律」「公共」の意味について考え、社会的存在としての人間について理解する。 ・哲学者の思想を手がかりに、身近なテーマから社会福祉や経済政策社会的公正について考える。これらの考えを応用して環境倫理や生命倫理について学ぶ。 ・国際法の意義と役割、国際社会における主体の変化をふまえて実際の国際課題について考える。
2 学期	・国際社会と平和主義 1 民主政治と私たち ・地方自治、統治機構 ・政治参加と選挙、メディアと世論 2 法の働きと私たち ・法や規範の意義と役割 ・市民生活と私法 ・国民の司法参加	・国際連合の役割について学び、国際安全保障や核軍縮が進まない理由、日本の役割について議論し考える。 ・法の支配や近代立憲主義の意義、立憲主義と民主主義の関係、人間の尊厳と平等、統治機構について学ぶ。 ・選挙と地方自治を通して民主主義の課題を考える。・校則などをテーマに法と道徳、慣習などの規範の特性を学び、生活における法について考える。 ・刑事／民事裁判の報道や裁判例を軸に法の成立と適用について学ぶ。 ・契約や売買のトラブル事例等から私法の理解を深める。
3 学期	3 経済社会で生きる私たち ・現代の経済と市場 ・市場経済における金融の働き ・財政の役割と持続可能な社会保障制度 4 私たちの職業生活 ・働くことの意義と職業選択 ・労働者の権利と雇用・労働問題 5 国際社会のなかで生きる私たち ・グローバル化する国際経済 ○持続可能な社会づくりに参画するために ・課題探究	・産業構造の変化について理解し、働くことや社会生活における意義や役割、これからのキャリア形成について考える。 ・労働法令や労働契約に関する理解を深める。 ・貿易理論を中心に国際経済の基本的理解を深める。 ・グローバル化に伴う国際経済秩序の課題について考える。 ・現代の諸課題について自らテーマを設定し、課題解決に向けた仮説づくりを行い表現する。 ・事業規制をテーマに経済活動の自由・公正について考える。 ・機械費用、トレードオフといった経済学の基本概念を学び、市場経済や経済循環、金融、財政について理解する。 ・社会保障制度を理解し、課題について考える。

授 業 の 形 態	一斉講義 協同学習
教 科 書	『公共』東京書籍
副 教 材	『最新公共資料集プラスウェブ』（第一学習社）『4 ステージ演習公共』（数研出版）
評 価 の 方 法	定期考査 60%（年 3 回）平常点 40%（授業内レポート課題、パフォーマンス課題、小テスト） 評定：評点 5：60 以上 4：50 以上 3：40 以上 2：30 以上 1：30 未満
備 考	

高校2年（地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
世界史探究	2	選択	FT	山本

目 標	・現代の国際社会で生きていくために最低限必要な世界各地の歴史と文化を、成立要因と過程に注目して捉える。 ・今日のグローバル化の起源を学び、国際的な諸課題について考察し知識・理解を深める。 ・多角的な世界の見方を学ぶことで、立命館の教学理念「平和と民主主義」についての理解を深める。		
育 成 意 図	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	世界の歴史の諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を正確に読み取り、適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の諸事象を、時代性を把握し、資料などの根拠に立脚して、多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題の解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを議論したりする力を養う。	世界の歴史の諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、「平和と民主主義」を教学理念に持つ立命館に学ぶものとしての自覚を深める。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	1 部 世界史へのまなざし 2 部 諸地域の歴史的特質の形成 1 章 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質 1 節 中華文明の形成 2 節 秦漢帝国と東アジア 3 節 中央ユーラシアと遊牧国家 4 節 遊牧帝国の興亡と移動 5 節 ユーラシアの変動と東アジア	・北部の乾燥・畑作地域と南部の湿潤・稲作地域という2つの農耕世界を漢字文化が結びつけ、統一王朝が成立したことを理解する。同時に周囲の国家形成の様相も捉える。 ・中央ユーラシア地域を含んだ国際関係を理解する。 ・東アジア世界の状況を総合的に捉えるとともに、周縁世界の自立を理解する。
2 学期	2 章 南アジアと東南アジアの歴史的特質 1 節 南アジアの文明と国家形成 2 節 東南アジアの社会と国家形成 3 章 西アジアと地中海周辺の歴史的特質 1 節 オリент文明の興亡 2 節 地中海周辺の国家形成 3 節 地中海周辺と西アジアの帝国 4 節 ヨーロッパへ広がるキリスト教 5 節 イスラームの誕生 3 部 諸地域の交流・再編 1 章 ユーラシア大交流圏の成立 1 節 イスラーム世界の拡大 2 節 ヨーロッパ封建制の展開 3 節 東アジア諸地域の成長と自立	・オリент・地中海世界の特質を気候・地形などと関連させて捉えると共にそれが統合され、ヨーロッパの原型が造られる様相を歴史的・地域的に理解する。 ・海洋と山に囲まれ、モンスーン気候の影響を大きく受けて、独自の文明世界を形成した南アジア世界の特色を理解し、同時に他地域への影響も捉える。 ・東南アジアや中央ユーラシア地域を含んだ国際関係を理解する。 ・交易を重視した都市生活を背景に生まれたイスラームが、単なる宗教にとどまらず、独自の世界を形成し、やがてヨーロッパとアジアを結びつける役割を果たしていくことを理解する。 ・封建社会の形成と変容、キリスト教世界の形成、十字軍の遠征と国王による中央集権化の進展について学び、地中海世界が解体し、ヨーロッパ世界が形成された過程を理解する。 ・キリスト教とイスラームの思想内容とつなげて当時の社会を理解する。 ・封建社会の形成と変容、キリスト教世界の形成、十字軍の遠征と国王による中央集権化の進展について学び、地中海世界が解体し、ヨーロッパ世界が形成された過程を理解する。 ・キリスト教とイスラームの思想内容とつなげて当時の社会を理解する。
3 学期	4 節 ユーラシア大帝国の出現 2 章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出 1 節 明の国際秩序と東・東南アジア 2 節 世界帝国清とアジア諸国の成熟 3 節 スペインとポルトガルの進出 4 節 イスラーム世界の成熟	・モンゴル帝国（元）を中心としてユーラシアが一つに結びられ、最初のグローバル化が始まったことを理解する。 ・モンゴル帝国が滅びた後に、各地に生まれた諸帝国が、どのように混乱を収め、新たな秩序をもたらしたかを理解する。 ・アジア諸国が形成した国際交易秩序に、西欧諸国やイスラーム諸勢力がどのように関わったかを理解する。

授 業 の 形 態	講義形式 グループワークなど
教 科 書	『新詳 世界史探究』帝国書院
副 教 材	『最新世界史図説 タペストリー 二十二訂版』帝国書院
評 価 の 方 法	定期考査60％（年3回）平常点40％（授業内レポート課題、パフォーマンス課題、小テスト） 評定：評点 5：60以上 4：50以上 3：40以上 2：30以上 1：30未満
備 考	

高校2年（数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学Ⅱ	4	必修	AM GL	大木達・廣瀬・吉川

目 標	・いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。 ・問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する力を養う。		
育 っ て い たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	・数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を養う。 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につける。 ・関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力を養う。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

時 期	学 習 内 容 ・ 項 目	ね ら い ・ 目 標
1 学期	数学Ⅱ 第1章 式と証明 (3次式の展開と因数分解/二項定理/多項式の割り算/分数式とその計算/恒等式/等式の証明/不等式の証明) ※数学Ⅰで先取り学習した単元の続きからはじめる。	・基本的な式の計算をできるようにする。 ・様々な式の見方ができるような力を培い，式の計算や実数の様々な性質を活用して，等式の証明や不等式の証明ができるようにする。
	数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式 (複素数とその計算/2次方程式の解/解と係数の関係/剰余の定理と因数定理/高次方程式)	・数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し，複素数の計算ができるようにする。 ・高次方程式を，因数分解などの方法でより低い次数の方程式に帰着することで解いたり，その解について考察したりできるようにする。
2 学期	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式 (直線上の点/平面上の点/直線の方程式/2直線の関係/円の方程式/円と直線/2つの円/軌跡と方程式/不等式の表す領域)	・座標や式を用いて，点や直線についてその性質や関係を数学的に表現できるようにする。 ・円についてその性質を数学的に表現できるようにし，直線との関係，円どうしの関係など事象の考察に活用できるようにする。 ・軌跡や領域を事象の考察に活用できるようにする。
	数学Ⅱ 第4章 三角関数 (角の拡張/三角関数/三角関数の性質/三角関数のグラフ/三角関数の応用/加法定理/加法定理の応用)	・三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について理解し，それらを多面的に考察できるようにする。
	数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 (指数の拡張/指数関数/対数とその性質/対数関数/常用対数)	・指数を実数まで拡張する意義を理解し，指数関数を事象の考察に活用できるようにする。 ・指数関数や対数関数の性質を理解し，事象の考察に活用できるようにする。
3 学期	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 (微分係数/導関数とその計算/接線の方程式/関数の増減と極大・極小/関数の増減・グラフの応用/不定積分/定積分/定積分と面積)	・微分係数や導関数の意味について理解し，関数のグラフの接線が求められるようにする。 ・関数のグラフをかいたり，さらにグラフを様々な事象の考察に活用したりできるようにする。 ・不定積分や定積分について理解し，それらの有用性を認識するとともに，定積分を用いてグラフで囲まれた図形の面積が求められるようにする。

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『NEXT 数学Ⅱ』数研出版
副 教 材	『CONNECT 数学Ⅱ+B』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（小テスト，提出課題など）
備 考	

高校2年（数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学Ⅱ	4	必修	AMs GLs	廣瀬・平林

目 標	・いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。 ・問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する力を養う。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	・数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を養う。 ・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につける。 ・関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力を養う。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学Ⅱ 第1章 式と証明 (3次式の展開と因数分解/二項定理/多項式の割り算/分数式とその計算/恒等式/等式の証明/不等式の証明) ※数学Ⅰで先取り学習した単元の続きからはじめる。	・基本的な式の計算をできるようにする。 ・様々な式の見方ができるような力を培い、式の計算や実数の様々な性質を活用して，等式の証明や不等式の証明ができるようにする。
	数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式 (複素数とその計算/2次方程式の解/解と係数の関係/剰余の定理と因数定理/高次方程式)	・数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し，複素数の計算ができるようにする。 ・高次方程式を，因数分解などの方法でより低い次数の方程式に帰着することで解いたり，その解について考察したりできるようにする。
2 学期	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式 (直線上の点/平面上の点/直線の方程式/2直線の関係/円の方程式/円と直線/2つの円/軌跡と方程式/不等式の表す領域)	・座標や式を用いて，点や直線についてその性質や関係を数学的に表現できるようにする。 ・円についてその性質を数学的に表現できるようにし，直線との関係，円どうしの関係など事象の考察に活用できるようにする。 ・軌跡や領域を事象の考察に活用できるようにする。
	数学Ⅱ 第4章 三角関数 (角の拡張/三角関数/三角関数の性質/三角関数のグラフ/三角関数の応用/加法定理/加法定理の応用)	・三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について理解し，それらを多面的に考察できるようにする。
	数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 (指数の拡張/指数関数/対数とその性質/対数関数/常用対数)	・指数を実数まで拡張する意義を理解し，指数関数を事象の考察に活用できるようにする。 ・指数関数や対数関数の性質を理解し、事象の考察に活用できるようにする。
3 学期	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 (微分係数/導関数とその計算/接線の方程式/関数の増減と極大・極小/関数の増減・グラフの応用/不定積分/定積分/定積分と面積)	・微分係数や導関数の意味について理解し，関数のグラフの接線が求められるようにする。 ・関数のグラフをかいたり，さらにグラフを様々な事象の考察に活用したりできるようにする。 ・不定積分や定積分について理解し，それらの有用性を認識するとともに，定積分を用いてグラフで囲まれた図形の面積が求められるようにする。

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『NEXT 数学Ⅱ』数研出版
副 教 材	『CONNECT 数学Ⅱ+B』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（小テスト，提出課題など）
備 考	

高校 2 年 （数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学 B	2	必修	AMs GLs	大木達・廣瀬

目 標	数列，統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。			
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活との関わりについて認識を深め，事象を数値化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数値化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学 B 第 1 章 数列 第 1 節 等差数列と等比数列 （数列と一般項・等差数列・等差数列の和・等比数列・等比数列の和） 第 2 節 いろいろな数列 （和の記号 Σ ・階差数列・いろいろな数列の和）	・数列やその一般項の表し方について理解する。また，基本的な数列として，等差数列と等比数列を，両者を比較しながら理解し，それらの和を，公式が導出される過程を理解した上で求められるようにする。また，これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 ・和の記号 Σ の表し方や性質を理解し，活用できるようにする。 ・いろいろな数列について，その一般項や和を求めたり，和から一般項を求めたりできるようにする。
2 学期	数学 B 第 1 章 数列 第 3 節 漸化式と数学的帰納法 （漸化式・数学的帰納法） 数学 B 第 2 章 統計的な推測 第 1 節 確率分布 （確率変数と確率分布・確率変数の期待値と分散・確率変数の和と積・二項分布・正規分布）	・数列の帰納的な定義について理解し，漸化式から一般項が求められるようにするとともに，複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また，数学的帰納法の仕組みを理解し，様々な命題の証明に活用できるようにする。 ・確率変数と確率分布について理解し，期待値や分散，標準偏差などを求めることを通じて，分布の特徴を把握できるようにする。また，連続型確率変数についても理解し，正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。
3 学期	第 2 節 統計的な推測 （母集団と標本・標本平均の分布・推定・仮説検定）	・母集団と標本，標本調査について理解し，特に標本平均については，それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また，母平均や母比率の推定，正規分布を用いた仮説検定ができるようにし，それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『NEXT 数学 B』数研出版
副 教 材	『CONNECT 数学Ⅱ+B』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（小テスト，提出課題など） ただし，1 学期は期末考査のみ実施。
備 考	

高校 2 年 （数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学Ⅱ	4	必修	FT	古山

目 標	- ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、平面図形・空間図形の問題解決に活用できるようにする。 - 事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識し、それらを活用する態度を身につける。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 数理的に考察し処理することのよさや既習事項などを体系的に整理し活用できる。 - 構成した数学的知識の意味を考え、見いだした数学的知識を活用できる。 - 文化や社会生活において数学の役割を理解している。	- 具体的な計算など文字を用いて一般化し考察する。 - 科学的考察に積極的に関数を利用し、論理的に表現することができる。	問題解決の過程を考察し深め、他に解法がないか、評価・改善しようとする態度をもつ。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学 B 第 1 章 数列 （漸化式と数列） 数学 C 第 1 章 平面上のベクトル （平面上のベクトル、ベクトルの演算、成分、内積、ベクトルと図形、ベクトル方程式） 第 2 章 空間のベクトル （空間座標、空間のベクトル、空間のベクトルの成分、内積、位置ベクトル、空間座標における直線・平面・球面の方程式）	- 漸化式について理解し、漸化式で表された数列について、一般項を求めること、漸化式を事象の考察に活用することができる。 - ベクトルの意味を理解し、位置ベクトルの考え方を身に付け、図形の性質を考えることができる。 - ベクトル方程式を理解し、作成することができる。 - 平面座標にもう 1 本直交する座標を導入することで座標・ベクトルの考えが空間に拡張できることを知る。 - 空間でも平面と同じように、ベクトルの成分や内積、位置ベクトルを考えることができることを理解し、図形の性質の考察に活用できる。
2 学期	「図形と計量」、「三角関数」、「指数関数・対数関数」の復習 （復習内容は一例であり、アンケートを取るなど生徒の状況に応じて適切に変更することがある）	- 既習範囲の復習を通して苦手分野に取り組む。 - 公式を用いた問題、簡単な記述問題に習熟し、共通テストに備える。 - 毎回の課題を通して、規則正しく学習する習慣を身につける。 - 高 3 から入試問題に取り組むための数学の土台を確立する。
3 学期	「図形と方程式」の復習 （復習内容は一例であり、アンケートを取るなど生徒の状況に応じて適切に変更することがある）	- 既習範囲の復習を通して苦手分野に取り組む。 - 公式を用いた問題、簡単な記述問題に習熟し、共通テストに備える。 - 毎回の課題を通して、規則正しく学習する習慣を身につける。 - 高 3 から入試問題に取り組むための数学の土台を確立する。

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『NEXT 数学 B』、『NEXT 数学 C』数研出版
副 教 材	『新課程スタンダード数学Ⅱ+B』、『新課程スタンダード数学 C』数研出版 『Focus Gold 5thEdition 数学Ⅰ+A』、『Focus Gold 5thEdition 数学Ⅱ』 『Focus Gold 5thEdition 数学 B+C』啓林館
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（小テスト、提出課題など） ただし、2 学期は期末考査のみ実施。
備 考	・夏季・冬季・春季休業中に特別授業を行う。

高校 2 年 （数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学 B	2	必修	FT	中川

目 標	- 統計的な推測について、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに次の事項を身につける。 - 事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識し、それらを活用する態度を身につける。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 標本調査の考え方について理解を深めること - 確率変数と確率分布について理解すること - 二項分布と正規分布の性質や特徴について理解すること - 正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解すること	- 確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察すること - 目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察すること	問題解決の過程を考察し深め、他に解法がないか、評価・改善しようとする態度をもつこと

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学 B 第 2 章 統計的な推測 (母集団と標本、標本平均の分布、推定、仮説検定) 整数の性質の復習 (復習内容は一例であり、アンケートを取るなど生徒の状況に応じて適切に変更することがある)	- 母集団と標本、標本調査について理解し、標本平均については、それが確率変数であることを理解し、考察することができる。 - 母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定を正しく行い、それらを日常の事象の考察や様々な判断に活用できる。 - 既習範囲の復習を通して総合的な学力の向上を目指す。 - 公式を用いた問題、簡単な記述問題に習熟し、共通テストに備える。 - 毎回の課題を通して、規則正しく学習する習慣を身につける。 - 高 3 から入試問題に取り組むための数学の土台を確立する。
2 学期	微分とその応用の復習 (復習内容は一例であり、アンケートを取るなど生徒の状況に応じて適切に変更することがある)	- 既習範囲の復習を通して総合的な学力の向上を目指す。 - 公式を用いた問題、簡単な記述問題に習熟し、共通テストに備える。 - 毎回の課題を通して、規則正しく学習する習慣を身につける。 - 高 3 から入試問題に取り組むための数学の土台を確立する。
3 学期	積分とその応用の復習 (復習内容は一例であり、アンケートを取るなど生徒の状況に応じて適切に変更することがある)	- 既習範囲の復習を通して総合的な学力の向上を目指す。 - 公式を用いた問題、簡単な記述問題に習熟し、共通テストに備える。 - 毎回の課題を通して、規則正しく学習する習慣を身につける。 - 高 3 から入試問題に取り組むための数学の土台を確立する。

授業の形態	クラス授業
教科書	『NEXT 数学 B』数研出版
副教材	『新課程スタンダード数学Ⅱ+B』数研出版 『Focus Gold 5thEdition 数学Ⅰ+A』、『Focus Gold 5thEdition 数学Ⅱ』, 『Focus Gold 5thEdition 数学B+C』啓林館
評価の方法	定期考査 60%+平常点 40% (小テスト、提出課題など) ただし、2 学期は期末考査のみ実施。 評定「5」: 評点 60 点以上、評定「4」: 評点 50 点以上、評定「3」: 評点 40 点以上 評定「2」: 評点 30 点以上、評定「1」: 評点 30 点未満 とする。
備 考	・夏季・冬季・春季休業中に特別授業を行う。

高校 2 年（数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学Ⅱ	4	必修	FTs	中山

目 標	- 微分法、積分法、いろいろな関数及び極限について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 - 上記の内容について、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識し、それらを活用する態度を身につける。		
育 っ た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 数理的に考察し処理することのよさや既習事項などを体系的に整理し活用できる。 - 構成した数学的知識の意味を考え、見いだした数学的知識を活用できる。 - 文化や社会生活において数学の役割を理解している。	- 具体的な計算など文字を用いて一般化し考察する。 - 科学的考察に積極的に関数を利用し、論理的に表現することができる。	問題解決の過程を考察し深め、他に解法がないか、評価・改善しようとする態度をもつ。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学 B 第 2 章 統計的な推測 (母集団と標本、標本平均の分布、推定、仮説検定) 数学 C 第 4 章 式と曲線 (放物線/楕円/双曲線/2 次曲線の平行移動/2 次曲線と直線/2 次曲線と離心率/曲線の媒介変数表示/極座標と曲方程式) 数学Ⅲ 第 1 章 関数 (分数関数/無理関数/逆関数と合成関数) 第 2 章 極限 (数列の極限/無限等比数列/無限級数/関数の極限/三角関数と極限/関数の連続性)	- 母集団と標本、標本調査について理解し、標本平均については、それが確率変数であることを理解し、考察することができる。 - 母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定を正しく行いそれらを日常の事象の考察や様々な判断に活用できる。 - 複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解し、それらを事象の考察に活用する。 - ド・モアブルの定理について理解し、複素数の諸演算が平面上の図形の移動などと関連付けられることを認識するとともに、極形式による表現の良さを理解する。 - 分数関数と無理関数及びそれらのグラフの特徴について理解できる。 - 合成関数や逆関数の意味を理解し、それらを求められる。 - 数列の極限について理解し、求め、事象の考察に活用できる。 - 無限級数の収束・発散について理解し、無限等比級数などの簡単な無限級数の和を求め、事象の考察に活用できる。 - 関数の極限について理解し、求めることができる。 - 関数の連続性について理解する。
2 学期	第 3 章 微分法 (微分係数と導関数/導関数の計算/いろいろな関数の導関数/第 n 次導関数/関数のいろいろな表し方と導関数) 第 4 章 微分法の応用 (接線と法線/平均値の定理/関数の値の変化/関数の最大と最小/関数のグラフ/方程式不等式への応用)	- 微分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できる。 - 関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和、差、積及び商の導関数を求められる。 - 合成関数の導関数について理解し、合成関数の導関数を求められる。 - 三角関数、指数関数及び対数関数の導関数を求められる。 - 導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求め、色々な関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べ、グラフの概計をかける。またそれらを事象の考察に活用できる。
3 学期	第 5 章 積分法 (不定積分とその基本的性質/置換積分法/部分積分法/いろいろな関数の不定積分/定積分とその基本的性質/定積分の置換積分/定積分の部分積分/定積分の種々の問題面積/体積/曲線の長さ・速度と道のり)	- 積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できる。 - いろいろな関数についての積分を工夫して求められるようになるとともに、置換積分法や部分積分法などの活用もできるようにする。 - いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積及び曲線の長さについて定積分を利用して求める。

授業の形態	クラス授業
教科書	『NEXT 数学 B』、『NEXT 数学Ⅲ』、『NEXT 数学 C』数研出版
副教材	『新課程スタンダード数学Ⅱ+B』、『新課程スタンダード数学Ⅲ+C』数研出版、 『Focus Gold 5thEdition 数学Ⅲ』、『Focus Gold 5thEdition 数学 B+C』啓林館
評価の方法	定期考査 60%+平常点 40% (小テスト、提出課題など) ただし、2 学期は期末考査のみ実施。 評定「5」: 評点60点以上、評定「4」: 評点50点以上、評定「3」: 評点40点以上 評定「2」: 評点 30 点以上、評定「1」: 評点 30 点未満 とする。
備考	・夏季・冬季・春季休業中に特別授業を行う。

高校 2 年 (数学科)

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学 B	2	必修	FTs	中山

目 標	- ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、平面図形・空間図形の問題解決に活用できるようにする。 - 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 数理的に考察し処理することのよさや既習事項などを体系的に整理し活用できる。 - 構成した数学的知識の意味を考え、見いだした数学的知識を活用できる。 - 文化や社会生活において数学の役割を理解している。	- 具体的な計算など文字を用いて一般化し考察する。 - 科学的考察に積極的に関数を利用し、論理的に表現することができる。	問題解決の過程を考察し深め、他に解法がないか、評価・改善しようとする態度をもつ。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学 B 第 1 章 数列 (漸化式と数列) 数学 C 第 1 章 平面上のベクトル (平面上のベクトル、ベクトルの演算、成分、内積、ベクトルと図形、ベクトル方程式)	- 漸化式について理解し、漸化式で表された数列について、一般項を求めること、漸化式を事象の考察に活用することができる。 - ベクトルの意味を理解し、位置ベクトルの考え方を身に付け、図形の性質を考えることができる。 - ベクトル方程式を理解し、作成することができる。
2 学期	第 2 章 空間のベクトル (空間座標、空間のベクトル、空間のベクトルの成分、内積、位置ベクトル、空間座標における直線・平面・球面の方程式)	- 平面座標にもう 1 本直交する座標を導入することで座標・ベクトルの考えが空間に拡張できることを知る。 - 空間でも平面と同じように、ベクトルの成分や内積、位置ベクトルを考えることができることを理解し、図形の性質の考察に活用できる。
3 学期	第 3 章 複素数平面 (複素数平面、複素数の極形式と乗法・除法、ド・モアブルの定理、複素数と図形)	- 複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解し、それらを事象の考察に活用する。 - ド・モアブルの定理について理解し、複素数の諸演算が平面上の図形の移動などと関連付けられることを認識するとともに、極形式による表現の良さを理解する。

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『NEXT 数学 B』, 『NEXT 数学 C』 数研出版
副 教 材	『新課程スタンダード数学Ⅱ+B』, 『新課程スタンダード数学Ⅲ+C』 数研出版 『Focus Gold 5th Edition 数学 B+C』, 『Focus Gold 5th Edition 数学Ⅲ』 啓林館
評 価 の 方 法	定期考査 60% + 平常点 40% (小テスト、提出課題など) ただし、2 学期は期末考査のみ実施。 評定「5」: 評点 60 点以上、評定「4」: 評点 50 点以上、評定「3」: 評点 40 点以上 評定「2」: 評点 30 点以上、評定「1」: 評点 30 点未満 とする。
備 考	・夏季・冬季・春季休業中に特別授業を行う。

高校 2 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
物理基礎	2	必修	AM・GL	水野・齋藤孝・高橋大和

目 標	・日常生活や社会との関連を図りながら、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
	知識・技能 ・物理学の基本的な概念や原理・法則を正しく理解する力を育む。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験の技能を育む。	思考・判断・表現 ・物理的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を育む。	主体的に学習に取り組む態度 ・物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究する力を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・物体の運動 ・力と運動	○目的に応じて観察や実験を適切に実施する力の育成 ・物理的な事物・現象から問題を見だし、科学的に探究するために明らかにすべき事項を整理できる。 ・実験目的を達成するための実験方法を検討できる。 ・実験を適切に実施し、実験データを取得できる。
2 学期	・仕事とエネルギー ・熱とエネルギー ・波の性質 ・音	○観察や実験の結果を科学的に分析する力の育成 ・観察や実験の結果を第三者にも伝わるように表やグラフを利用して、まとめることができる。 ・観察や実験の結果が期待される結果に対して妥当であるかどうかの検討を行い、見通しをもつことができる。また、必要に応じて自発的に再実験や追加実験を行うことができる。 ○観察や実験の分析結果を物理の観点から論理的に考察する力の育成
3 学期	・静電気と電流 ・交流と電磁波 ・エネルギーとその利用 ・物理学が拓く世界	○物理法則を一般的・抽象的な場面に適用する力の育成 ・物理学の基本的な概念や原理・法則から考えられる結果と比較することで得られた実験データの正当性や物理法則の正当性を吟味できる。 ・実験結果の考察からより良い実験方法の提案や実験の実施ができる。 ○物理法則を一般的・抽象的な場面に適用する力の育成 ・具体例を通じて学習したり探究したりして獲得した物理法則を異なる実験や問題集の問題に適用し、課題を解決することができる。

授 業 の 形 態	講義・実験など
教 科 書	『高等学校 考える物理基礎』啓林館
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期試験 0%＋平常点 100%（授業内小テスト・単元テスト・レポート・パフォーマンス課題など）
備 考	

高校 2 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
化学	3	必修	AMs・GLs	中尾・池内

目 標	・化学的な事物・現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。		
育 て たい 力	知識・技能 ・化学の基礎・基本となる原理・概念・法則を正しく理解する。 ・実験・観察、探究活動を通して、基本操作を習得するとともに、それらの過程を記録、整理し、科学的に探究する。	思考・判断・表現 ・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。 ・与えられた情報を適切に考察・運用し、未知の事柄を推論できる。	主体的に学習に取り組む態度 ・実生活と化学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	＝物質の状態＝ ・粒子の結合と結晶 ・物質の状態変化 ・気体 ・溶液	・気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
2 学期	＝物質の変化＝ ・化学反応とエネルギー ・（電池と電気分解） ・化学反応の速さとしくみ ・化学平衡	・化学反応における熱及び光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差から生じることを理解する。 ・観察、実験などを通して、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる。 ・化学反応に伴うエネルギーの出入り、反応速度及び化学平衡を観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
3 学期	＝無機物質＝ ・金属と非金属 ・金属元素	・元素を周期表に基づいて族ごとに分類し、性質が似た元素の単体や化合物ごとに、実験・観察を通して、その性質を理解する。 ・実験計画、実験操作の習得、実験記録と整理、考察等、科学的な探究法を身につける。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教 科 書	『化学』数研出版
副 教 材	『新課程版セミナー化学』第一学習社
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（実験レポート、問題演習、小テスト・課題など）
備 考	・基礎基本の習得を確実にする為に授業課題・小テスト等を実施する。 ・実験観察を重視し、自ら実験結果・考察をまとめる力を育成する為に実験レポートを課する。 ・科学館・企業・大学などへの見学や自由研究などを勧める。

高校 2 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
物理基礎	2	必修	AMs・GLs	水野・齋藤孝・高橋大和

目 標	・日常生活や社会との関連を図りながら、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。			
	知識・技能 ・物理学の基本的な概念や原理・法則を正しく理解する力を育む。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験の技能を育む。	思考・判断・表現 ・物理的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を育む。	主体的に学習に取り組む態度 ・物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究する力を育む。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・物体の運動 ・力と運動	○目的に応じて観察や実験を適切に実施する力の育成 ・物理的な事物・現象から問題を見だし、科学的に探究するために明らかにすべき事項を整理できる。 ・実験目的を達成するための実験方法を検討できる。 ・実験を適切に実施し、実験データを取得できる。
2 学期	・仕事とエネルギー ・熱とエネルギー ・波の性質 ・音	○観察や実験の結果を科学的に分析する力の育成 ・観察や実験の結果を第三者にも伝わるように表やグラフを利用して、まとめることができる。 ・観察や実験の結果が期待される結果に対して妥当であるかどうかの検討を行い、見通しをもつことができる。また、必要に応じて自発的に再実験や追加実験を行うことができる。 ○観察や実験の分析結果を物理の観点から論理的に考察する力の育成
3 学期	・静電気と電流 ・交流と電磁波 ・エネルギーとその利用 ・物理学が拓く世界	○物理学の基本的な概念や原理・法則から考えられる結果と比較することで得られた実験データの正当性や物理法則の正当性を吟味できる。 ・実験結果の考察からより良い実験方法の提案や実験の実施ができる。 ○物理法則を一般的・抽象的な場面に適用する力の育成 ・具体例を通じて学習したり探究したりして獲得した物理法則を異なる実験や問題集の問題に適応し、課題を解決することができる。

授 業 の 形 態	講義・実験など
教 科 書	『高等学校 物理基礎』啓林館
副 教 材	『改訂版 リード light ノート 物理基礎』数研出版
評 価 の 方 法	定期試験 70% + 平常点 30%（授業への取り組み・レポートなど）
備 考	

高校 2 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
物理基礎	2	必修	FT・FTs(生物選択者)	水野

目 標	・日常生活や社会との関連を図りながら、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。			
	知識・技能 ・物理学の基本的な概念や原理・法則を正しく理解する力を育む。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験の技能を育む。	思考・判断・表現 ・物理的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を育む。	主体的に学習に取り組む態度 ・物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究する力を育む。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・物体の運動 ・力と運動	○目的に応じて観察や実験を適切に実施する力の育成 ・物理的な事物・現象から問題を見だし、科学的に探究するために明らかにすべき事項を整理できる。 ・実験目的を達成するための実験方法を検討できる。 ・実験を適切に実施し、実験データを取得できる。
2 学期	・仕事とエネルギー ・熱とエネルギー ・波の性質 ・音	○観察や実験の結果を科学的に分析する力の育成 ・観察や実験の結果を第三者にも伝わるように表やグラフを利用して、まとめることができる。 ・観察や実験の結果が期待される結果に対して妥当であるかどうかの検討を行い、見通しをもつことができる。また、必要に応じて自発的に再実験や追加実験を行うことができる。 ○観察や実験の分析結果を物理の観点から論理的に考察する力の育成
3 学期	・静電気と電流 ・交流と電磁波 ・エネルギーとその利用 ・物理学が拓く世界	○物理法則を一般的・抽象的な場面に適用する力の育成 ・物理学の基本的な概念や原理・法則から考えられる結果と比較することで得られた実験データの正当性や物理法則の正当性を吟味できる。 ・実験結果の考察からより良い実験方法の提案や実験の実施ができる。 ○物理法則を一般的・抽象的な場面に適用する力の育成 ・具体例を通じて学習したり探究したりして獲得した物理法則を異なる実験や問題集の問題に適用し、課題を解決することができる。

授 業 の 形 態	講義・実験など
教 科 書	『高等学校 物理基礎』啓林館
副 教 材	『新課程版 セミナー 物理基礎』第一学習社
評 価 の 方 法	1 学期：定期試験 70% + 平常点 30%（授業への取り組み・レポートなど） 2 学期：定期試験 35% + 平常点 65%（単元テスト・授業への取り組み・レポートなど） 3 学期：定期試験 70% + 平常点 30%（授業への取り組み・レポートなど）
備 考	

高校 2 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
化学	3	必修	FTs	宮嶋

目 標	・化学的な事物・現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。		
育 っ た い 力	知識・技能 ・化学の基礎・基本となる原理・概念・法則を正しく理解する。 ・実験・観察、探究活動を通して、基本操作を習得するとともに、それらの過程を記録、整理し、科学的に探究する。	思考・判断・表現 ・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。 ・与えられた情報を適切に考察・運用し、未知の事柄を推論できる。	主体的に学習に取り組む態度 ・実生活と化学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	＝物質の状態＝ ・化学結合と結晶 ・物質の三態と熱運動 ・気体の性質 ・溶液の性質	・気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。
2 学期	＝物質の変化と平衡＝ ・物質とエネルギー ・化学反応の速さ ・化学平衡 ・電離平衡 ＝無機物質＝ ・金属元素 ・非金属元素	・化学反応における熱及び光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差から生じることを理解する。 ・観察、実験などを通して、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる。 ・化学反応に伴うエネルギーの出入り、反応速度及び化学平衡を観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。 ・金属元素の単体と化合物の性質や反応について理解する。 ・非金属元素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連づけて理解する。
3 学期	＝有機化合物＝ ・脂肪族化合物 ・芳香族化合物	・有機化合物の性質や反応を、構造と関連づけて理解する。 ・観察、実験などを通して、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる。 ・有機化合物の性質や反応を、構造と関連づけて理解する。 ・観察、実験などを通して、それらを日常生活や社会と関連づけて考察できる。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教 科 書	『化学』数研出版
副 教 材	『リードα化学』数研出版、『進研 WINSTEP 化学』ラーズ
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（実験レポート、授業プリント、小テスト、授業態度等） ただし、2 学期は定期考査が期末考査だけになるため、定期考査 35%＋平常点 65%とし、平常点の中に授業内テストの点を含むこととする。 評定「5」：評点 60 点以上，評定「4」：評点 50 点以上，評定「3」：評点 40 点以上， 評定「2」：評点 30 点以上，評定「1」：評点 30 点未満 とする。
備 考	・基礎基本の習得を確実にする為に小テストを実施する。 ・実験観察を重視し、自ら実験結果・考察をまとめる力を育成する為に実験レポートを課する。 ・科学館・企業・大学などへの見学や自由研究などを勧めます。

高校2年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
生物	3	選択	FTs	山本唱

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。		
育 て た い 力	知識・技能 ・生物の知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。実験・観察、探究活動を通して習得した科学的に探究する方法と能力を高める。	思考・判断・表現 ・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。 ・与えられた情報を適切に考察・運用し、未知の事柄を推論できる。	主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	生物の進化	・地球の誕生から、無機物から有機物、有機物から生命の発生を理解する。 ・遺伝子の変化を学び、多様性が生まれる仕組みを理解する。 ・進化の仕組みを理解し、ヒトを含めた生物の進化系統を理解する。
2 学期	生命現象と物質 ①細胞と分子 ②代謝 遺伝情報の発現と発生	・細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解する。 ・多様なタンパク質が、様々な生命活動を支えていることを理解する。 ・代謝を通してエネルギーの出入りを理解する。 ・呼吸と発酵、光合成の仕組みを理解する。 ・DNA の構造とその複製の仕組みを理解する。 ・遺伝情報発現の仕組み及び発現調節の概要を理解する。
3 学期	動物の反応と行動	・発生と遺伝子の発現が調整される仕組みの概要を理解する。 ・遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性と課題を理解する。 ・動物における、刺激の受容から反応するまでのしくみ、動物個体の行動について理解する。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教 科 書	『生物』数研出版
副 教 材	『ニューステージ新生物図表』浜島書店、『改訂版 リードα 生物』数研出版
評 価 の 方 法	1、3 学期 定期考査 70％＋平常点 30％（実験レポート、提出物、授業態度等） 2 学期 定期考査 40％＋平常点 60％（実験レポート、提出物、授業態度等） ※2 学期は中間考査は実施せず、代替考査を実施します。 評定「5」：評点 60 点以上、評定「4」：評点 50 点以上、評定「3」：評点 40 点以上、 評定「2」：評点 30 点以上、評定「1」：評点 30 点未満 とする。
備 考	理科系大学（特に医学・薬学・理学・農学）に対応できる力を養成する内容を重点的に学習させ、実験データを応用的にレポートに纏める能力の涵養を目指す。

高校 2 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
物理	3	選択	FTs（物理選択）	齋藤孝

目 標	- 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。 - 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 - 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
育てたい力	- 物理学の基本的な概念や原理・法則を正しく理解する力を育む。 - 科学的に探究するために必要な観察、実験の技能を育む。	物理的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を育む。	物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究する力を育む。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
2 学期	・ 剛体のつり合い	○目的に応じて観察や実験を適切に実施する力の育成 - 物理的な事物・現象から問題を見だし、科学的に探究するために明らかにすべき事項を整理できる。 - 実験目的を達成するための実験方法を検討できる。 - 実験を適切に実施し、実験データを取得できる。 ○観察や実験の結果を科学的に分析する力の育成
	・ 運動量と力積	
	・ 円運動と単振動	
	・ 万有引力 ・ 気体分子の運動	
3 学期	・ 波の性質 ・ 音 ・ 光	- 観察や実験の結果を第三者にも伝わるように表やグラフを利用して、まとめることができる。 - 観察や実験の結果が期待される結果に対して妥当であるかどうかの検討を行い、見通しをもつことができる。また、必要に応じて自発的に再実験や追加実験を行うことができる。 ○観察や実験の分析結果を物理の観点から論理的に考察する力の育成 - 物理学の基本的な概念や原理・法則から考えられる結果と比較することで得られた実験データの正当性や物理法則の正当性を吟味できる。 - 実験結果の考察からより良い実験方法の提案や実験の実施ができる。 ○ 物理法則を一般的・抽象的な場面に適用する力の育成 - 具体例を通じて学習したり探究したりして獲得した物理法則を異なる実験や問題集の問題に適用し、課題を解決することができる。
	・ 電界と電位 ・ 電流	
	・ 電流と磁界 ・ 電磁誘導	
	・ 交流	

授 業 の 形 態	講義・実験など
教 科 書	『高等学校 物理』啓林館
副 教 材	『新課程版 セミナー物理基礎＋物理』第一学習社
評 価 の 方 法	2 学期 定期考査 20%＋平常点 80%、 3 学期 定期考査 30%＋平常点 70% （平常点内訳は、単元テスト・課題・レポートなど） 評定「5」：評点 60 点以上、評定「4」：評点 50 点以上、評定「3」：評点 40 点以上、 評定「2」：評点 30 点以上、評定「1」：評点 30 点未満 とする。
備 考	2 学期より開講する。

高校 2 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
物理基礎	2	必修	FTs（物理選択）	齋藤孝

目 標	・日常生活や社会との関連を図りながら、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
育 っ た い 力	知識・技能 ・物理学の基本的な概念や原理・法則を正しく理解する力を育む。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験の技能を育む。	思考・判断・表現 ・物理的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を育む。	主体的に学習に取り組む態度 ・物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究する力を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・物体の運動 ・力と運動	○目的に応じて観察や実験を適切に実施する力の育成 ・物理的な事物・現象から問題を見だし、科学的に探究するために明らかにすべき事項を整理できる。 ・実験目的を達成するための実験方法を検討できる。 ・実験を適切に実施し、実験データを取得できる。
	・仕事とエネルギー ・熱とエネルギー ・波の性質 ・音	○観察や実験の結果を科学的に分析する力の育成 ・観察や実験の結果を第三者にも伝わるように表やグラフを利用して、まとめることができる。 ・観察や実験の結果が期待される結果に対して妥当であるかどうかの検討を行い、見通しをもつことができる。また、必要に応じて自発的に再実験や追加実験を行うことができる。
	・静電気と電流 ・交流と電磁波 ・エネルギーとその利用 ・物理学が拓く世界	○観察や実験の分析結果を物理の観点から論理的に考察する力の育成 ・物理学の基本的な概念や原理・法則から考えられる結果と比較することで得られた実験データの正当性や物理法則の正当性を吟味できる。 ・実験結果の考察からより良い実験方法の提案や実験の実施ができる。
		○物理法則を一般的・抽象的な場面に適用する力の育成 ・具体例を通じて学習したり探究したりして獲得した物理法則を異なる実験や問題集の問題に適用し、課題を解決することができる。

授 業 の 形 態	講義・実験など
教 科 書	『高等学校 物理基礎』啓林館
副 教 材	『新課程版セミナー 物理基礎＋物理』第一学習社
評 価 の 方 法	定期考査 40%＋平常点 60%（単元テスト・授業への取り組み・レポートなど） 評定「5」：評点 60 点以上、評定「4」：評点 50 点以上、評定「3」：評点 40 点以上、 評定「2」：評点 30 点以上、評定「1」：評点 30 点未満 とする。
備 考	1 学期で終了する。

高校 2 年 （保健体育科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
体育	2	必修	AM AMs GL GLs FT FTs	前田・川端・樋口・脇屋敦

目 標	- 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 - 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (各種目でワークシートを作成し、課題設定と自己評価を行う) - 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。		
	知識・技能 - 技術の名称や行い方を理解する力 - 技能や身につけた動きをより高め、記録や技に挑戦する力 - 自己のねらいに応じて体力の向上をはかる力 - 各種目課題設定を行う	思考・判断・表現 - 運動を継続する意義を理解する力 - 体力の高め方を理解する力 - 自分の体調に気付く力 - レポート課題の発表や相互評価を行う。	主体的に学習に取り組む態度 - 自主的に取り組む力 - ルールやマナーを守る力 - 道具や施設を大切に扱う力 - 互いの違いや良さを認め合う力 - 自己の責任を果たす力

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	- オリエンテーション - 立守ダンス - 集団行動 - 新体力テスト - 男子：陸上競技・ラクロス - 女子：陸上競技・ラクロス - 体育理論	- 体育館やグラウンドの使用マナー、授業内でのルールを再確認。 - 安全かつ円滑に授業ができるようにする。 - 新体力テストを実施し、自己の能力や課題について知る。 - 陸上競技を通して自己の目標にチャレンジする。 - オリンピック種目にも決定しているラクロスを体験して生涯スポーツの大切さを知る。 - 立守ダンスのポイントを明確にし、日常の学習活動が効果的に進められるようにする。 - 体育理論については運動やスポーツについての理解を深める。
2 学期	- 男子：バレーボール・ソフトボール - 女子：ダンス・ソフトテニス	- 球技…運動やスポーツについての理解を深める。 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、 仲間と連携してゲームが展開できるようにする。 - ダンス…体を使って表現する楽しさを味わう。
3 学期	- 男子：持久走 サッカー - 女子：持久走 バレーボール - 体育理論	持久走…一定のペースを持続できるようにする。 自己の記録にチャレンジする。

授 業 の 形 態	3 クラス合同男女別授業（一部共修 4 講座展開）
教 科 書	『現代高等保健体育』 大修館書店
副 教 材	『現代高等保健体育ノート』 大修館書店
評 価 の 方 法	- 評価点 100%（実技 100 点） - 実技…運動能力だけでなく、自主的・積極的に参加する姿勢や規範意識の姿勢を重視する。 - 出席…欠課 1 につき 2 点、遅刻や忘れ物 1 回につき 1 点を差し引く。
備 考	- 体づくり運動を通年実施し、体力の維持・向上をはかる。 - 指定の体操服を着用し（見学者も同様）、体育館更衣室で着替えること。 - 見学の場合は、筆記用具持参の上、必ず授業時間前に体育準備室の教員に申し出ること。 - 途中でケガや気分が悪くなった場合は必ず担当教員に申し出ること。 - 身体的理由で長期間の見学が必要な場合は、担当教員の指示に従う。

高校 2 年 （芸術科：音楽）

科目	単位数	種 別	対象生徒	担当教諭
音楽 I	2	選択 (AM, AMs, GL, GLs) ・ 必修 (FT, FTs)	AM AMs GL GLs FT FTs	西川

目 標	・ 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質能力を育成する。		
育 っ た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的情景の関わり及び音楽の多様性について理解すると共に、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。	・ 自己のイメージを持って音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	・ 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽に親しみ、音楽文化によって社会を明るく豊かにしていく態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・ 授業開き ・ 歌唱 学園歌 ・ 歌唱 日本の歌 ・ 鑑賞 ポピュラー音楽 ・ 創作 カップミュージック ・ 器楽 リコーダーマスター	・ 学習内容や学習方法を確認しよう ・ 立命館守山高校の一員として学園歌を歌えるようにしよう ・ 曲想と歌詞の関わりを理解し、表現を工夫しよう ・ 身近な音楽の歴史やセクションを歌詞から紐解こう ・ コップを使った奏法を工夫し、アンサンブルしよう ・ 自分のレベルに応じた課題曲に取り組み、表現を工夫しよう
2 学期	・ 鑑賞 世界の諸民族の音楽発見 ・ 創作・器楽 ジャズセッション ・ 鑑賞 舞台芸術 ・ 器楽 ウクレレ ・ 歌唱 歌曲	・ 世界の様々な音楽や楽器を体験・調査し、紹介しよう ・ ジャズらしさを探求しながら曲を創り、好きな楽器で演奏しよう ・ 世界の舞台芸術を比較鑑賞し、それぞれの良さをまとめよう ・ ウクレレらしい音色や奏法を研究し、演奏しよう ・ 言葉の発音を大切にした歌声で楽曲分析をし、表現を工夫しよう
3 学期	・ 鑑賞 音楽史 ・ 鑑賞・創作 サウンドロゴ・BGM・通知音 ・ 鑑賞・器楽・創作 水の音楽 ・ 歌唱 混声合唱	・ 音楽のルーツを学び、身近な音楽との関わりを考えよう ・ 身近な音楽の成り立ちを学び、立命館守山の魅力を発信する音楽を創ろう ・ 様々な楽器の音色を生かした表現について学び、箏で水をイメージした音楽を創ろう ・ 曲のイメージと表現方法を話し合い、合唱しよう

授 業 の 形 態	講義 個人 グループワーク
教 科 書	『MOUSA1』 教育芸術社
副 教 材	学習プリント
評 価 の 方 法	実技（歌唱・器楽・創作）80%＋平常点 20%
備 考	

高校２年 （芸術科：書道）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
書道Ⅰ	2	選択	AM AMs GL GLs	田中眞

目 標	・書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てると共に、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。		
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解する。 - 書写能力を向上させると共に、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現する為の基礎的な技術を身に付け、表す様にする。	- 書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫する。 - 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えられる様にする。	主体的に書の幅広活動に取り組み、生涯に渡り書を愛好する心情を育むと共に、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<表現Ⅰ 臨書> ・オリエンテーション ・漢字の成立と変遷 ・古典に基づく学習（楷書） 「九成宮醴泉銘」 「孔子廟堂碑」 「雁塔聖教序」 ・古典に基づく学習（隸書） ・鑑賞作品鑑賞	- 漢字の成立と変遷について理解する。 - 臨書の意味や方法を理解し関連する書道用語について学習する。 - 楷隸書の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、練習する。 - 古典を臨書する意義について理解する。 - 古典を鑑賞し、その美について理解する。 - 古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。
2 学期	<表現Ⅱ 創作> ・篆刻と落款 ・創作（漢字仮名交じりの書）	- 落款の意味や種類について理解する。 - 篆刻の用具用材や落款印の手順について理解する。 - 篆刻の作品を鑑賞する。 - 古典の特徴を生かしたり、用具用材の使い方や種類を変えたりすることで表現に変化をつけられる事を理解する。 - 文字の大きさや配列など、紙面の構成を工夫することで表現に変化をつけられることを理解する。 - 書き方の工夫によって様々な表現が出来る事を理解し、どのような表現をしたいかという意図に合うかどうか考える。
3 学期	<表現Ⅲ 仮名> ・平仮名の単体 ・変体仮名 ・連綿 ・臨書「蓬萊切」 「高野切第三種」 <表現Ⅳ 生活に広げる>	- 仮名の基本的な線について理解し、練習する。 - 平仮名の単体の特徴について理解し、練習する。 - 変体仮名について理解し、練習する。 - 連綿について理解し、練習する。 - 平安時代の代表的な古筆を臨書する意義について理解する。 - 古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。 - 便箋や封筒の宛名、履歴書など、改まった場面で使われる書式について理解し、場面に応じて書く。 - 街中で身近な生活の中で生かされている書を探し、自分たちの生活でどのように生かす事が出来るかについて考える。

授業の形態	講義と個人制作
教科書	『書Ⅰ』光村図書
副教材	なし
評価の方法	・作品・平常点（８０％）提出物（２０％）
備 考	

高校2年（芸術科：美術）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
美術 I	2	選択	AM AMs GL GLs	田村

目 標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<表現Ⅰ> ・オリエンテーション ・クロッキー ・アイデアスケッチ ・Adobe Photoshop ・Adobe illustrator <鑑賞Ⅰ> ・参考作品鑑賞・中間講評(レポート) ・最終講評(レポート)	・Adobe Photoshop と illustrator の基礎を life is Teck で学習する。 ・形や色彩・構図の特性を理解し表現する力をつける。 ・自他の取り組みおよび作品を客観的に振り返り、作品のよさや努力、互いの価値観を認め合うことができる。 ・鑑賞や制作を通して感じたことを言語化し、自己認識を深める※鑑賞の内容・狙い・目標は1. 2. 3 学期共通
2 学期	<表現Ⅱ> 映像Ⅰ～伝える①～ <鑑賞Ⅱ> ・参考作品鑑賞・中間講評	・グループのテーマと考察を元に、作品の構想を練る。 ・共同制作の意味を理解し、それぞれの個性を生かして計画的にひとつのものを作り上げる。 ・映像の基礎を知る。
3 学期	<表現Ⅲ> 映像Ⅰ～伝える②～ <鑑賞Ⅲ> ・作品鑑賞・相互評価	・鑑賞や制作を通して感じたことを言語化し、お互いの価値観の認識を深める。

授 業 の 形 態	・講義、個人制作、作品発表と相互鑑賞・相互評価、グループワーク
教 科 書	『美術Ⅰ』光村図書
副 教 材	・学習プリント
評 価 の 方 法	・作品・平常点（80％）提出物・レポート（20％）
備 考	・効果的な参考作品や、映像教材を準備する

高校 2 年（外国語科：英語）

科 目	単位数	種別	対象生徒	担当教諭
Expression I	2	必修	AM・AMs	Romel Barrow・Andrew Carter・Geoffrey Grant 中村暢・山菅・由谷

目 標	- 基本的な発表の仕方を学び、堂々と人前で自分の意見や考えを発表できる力を身につける。 - テーマについて深く考え、根拠に基づいた論理的で偏りのない思考や、自己の思考・感情を意識的に振り返る内省的な思考を行う力を身につける。 - 場面や状況にあった適切な表現を使って円滑に会話をするための幅広い言語運用能力を伸ばす。 - 与えられたトピックに対して、即興的に話す即自的な力を伸ばす。 - プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の多様な言語活動を通して、英語を用いて意見やアイデアをやりとりするための英語運用能力を養う。		
	知識・技能 - 英語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解する。 - 自分の興味や関心をもとに得た語彙や表現などを使いながら、自分が伝えたい内容などを他者と共有することを通して考察し、自分の学びとして知識・技能を身につける。 - さまざまな分野の知識を増やし、幅広い視点で物事を考えられるようになる。	思考・判断・表現 豊富な語彙や学習した表現を「聞く」「話す（やりとり・発表）」「読む」「書く」活動を通じて活用し、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとまった文章で表現したりできる。	主体的に学習に取り組む態度 - 様々な分野の話題に興味、関心を持ち、自分の考えや価値判断の枠組みを組み換えようと、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。 - 自分で学びたいことや具体的方法を考え、実際にやってみるなかで方法を吟味して更新することができる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	Speaking - expanded conversation - persuasive speech (constructive, rebuttal, and summary) - presentation - review of paragraph writing	◆Thinking - 身の回りにある問題や社会性のある課題に関して、論理的に思考することができる。 - 独自のアイデアを創ることができる。 - 物事の優劣を比較検討することができる。 ◆Reading - 日常生活での実用的な文章の要点や意図を理解できる。 - 社会性のある分野について書かれた文章の概要を把握し、その要点や意図を理解できる。 ◆Listening - 日常生活の話題や、社会性のある分野について話された一定の長さの内容・会話を聞いて、全体把握することができる。 ◆Speaking - 日常生活の話題や、社会性のある分野について、場面や目的に応じて一定の長さで自分の意志と理由を述べることができる。 - 準備なしで即興的に発表したり、やりとりしたりすることができる。 - 読んだり聞いたりしたことを受けて、即興的に質問したり、質問に対応することができる。 ◆Writing - 論理的に考え、根拠に基づいて、一貫性のある文章を書くことができる。 - 言語の使用場面と働きを理解し、状況に応じて適切な表現を正しく使うことができる。 ◆Vocabulary - 様々な活動のなかで必要とされる表現を積極的に活用しながら、語彙を豊かにすることができる。 ◆Presentation / Discussion / Debate - 聞き手の興味を引き付け、考えや意図を効果的に伝えられるプレゼンテーションができる。 - 情報を整理し、自分の意見や価値観を積極的に意見し、共有することができる。 - 論題に対し、根拠をベースに論理的に思考し、英語で相手を説得することができる。
2 学期	Essay writing essay format (introduction, body and conclusion)	
3 学期	Expanded Expression - presentations - discussion - paragraph writing	

授 業 の 形 態	クラス授業（日本人教員とネイティブ教員による、アウトプットを主体とした授業）
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する （単元テスト、課題提出、スピーチやプレゼンテーション、ディベートなどのパフォーマンス課題など）
備 考	・オリジナル教材を使用する

高校2年（外国語科：英語）

科 目	単位数	種 別	対象生徒	担当教諭
英語コミュニケーションⅡ	4	必修	AM・AMs・GL・GLs	田中海登・大矢・辻・久野

目 標	- 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報やアイデアなどを的確に理解したり適切に伝えたりする態度を養う。 - 国際化社会に対応できる英語運用能力を高めるために、個人およびペア・グループでの様々な活動を通し、その基盤となる「読む」「聞く」「話す（発表・やりとり）」「書く」力を身につける。 - 相手の発言を受けて発言したり質問したりする活動など、英語を使ったやり取りを通して、自分の意見やアイデアを作ったり、吟味したりする力を養う。 - 英語でスピーチやプレゼンテーションなどを行うための基本的な技能や英語力・表現力を身につける。また、聴き手として発表について即興で質問するなど、積極的に話し手に関わるための英語力も高める。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	- 語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 - 場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢やイントネーションを知っている。 - 自分の興味や関心をもとに得た語彙や表現などを使いながら、自分が伝えたい内容などを他者と共有することを通して考察し、自分の学びとして知識・技能を身につける。	- 豊富な語彙や学習した表現を「聞く」「話す（やりとり・発表）」「読む」「書く」活動を通じて活用し、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。 - 日常的な話題について、英語を聞いたたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解し考える。 - 論説文や物語文に慣れ、様々な英文の要旨を理解し考える。	- 様々な分野の話題に興味、関心を持ち、自分の考えや価値判断の枠組みを組み換えようと、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。 - 自分で学びたいことや具体的方法を考え、実際にやってみるなかで方法を吟味して更新することができる。

時期	学習内容・項目		ねらい・目標
1 学期	使用する教材を以下の5つのユニット「異文化理解」「国際貢献」「スポーツ・芸術」「環境」「現代社会」に分け、それぞれのタームで取り扱う項目について、より深い読みを進めていく。なお[I]の表記は、[英語コミュニケーションⅠの教科書単元]を意味し、必要に応じて扱う。		様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能を身に付ける。また、トピックについては、必要に応じて英語コミュニケーションⅠで既習のものにも触れながら、各単元の内容を主体的に深めていくことを目標とする。 ◆Listening / Reading - 様々なテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握をもとに的確に情報を得ることができる。また、関連する英文を主体的に読み、理解を深めることができる。 ◆Speaking(会話・発表) - 自らの考えと、その根拠となる情報をプレゼンテーション形式で伝えることができる。また相手の発言等に即興で質問することができる。 ◆Writing - 英文を読んだり、やりとりをして得た情報をもとに、自らの考えなどを一定量の英文で書くことができる。 ◆Discussion - 課題に対して、協働的に話し合い、やりとりをすることにより、課題解決を提案したり、自らの意見を再構築したりすることができる。
	ターム 1 ・異文化・多様性を考える	・L1 Lost in Translation 翻訳できない言葉について ・L3 Accessible Japan 障害者のために活動するジョシュ氏	
	ターム 2 ・国際貢献のあり方を考える	・L2 One Book Can Empower a Child アジアの子供に絵本を届ける活動・[I] L3 Hatching the Egg of Hope Miyazaki Kensuke 氏の活動 ・L4 Crossing the Border 国境なき医師団 貫戸朋子氏の活動 ・夏課題 1 学期の学びを深めるプレゼンテーション	
	ターム 3 ・スポーツや芸術を通し物の考え方や思考について考える	・L5 Mental Toughness スポーツにおけるメンタルタフネス ・L6 Walking in Gaudi's Footsteps サグラダファミリアの彫刻師 外尾悦郎氏の経験	
2 学期	ターム 4 ・自然の力・自然との共生について考える	・L7 Why Biomimicry? 自然と人間の共生 ・[I] Roots & Shoots 学者 Jane Goodall 氏の活動	
	ターム 5 ・現代社会のあり方や新しい様式について考える	・L8 Invisible No Longer フェアトレード カカオ農園の女性たち ・冬課題 1 年間の学びをもとにしたスピーチ	
	3 学期	・L9 Nudges 人々のより良い選択を手助けする仕組み	

授 業 の 形 態	クラス授業（ペアやグループでの言語活動を含む、学習者が主体となる授業）
教 科 書	『CROWN English CommunicationⅡ』三省堂
副 教 材	『総合英語 be 4th Edition』いっずな書店
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する (平常点は、単元テスト・パフォーマンステスト・プレゼン・スピーチ・課題提出など)
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する

高校 2 年（外国語科：英語）

科 目	単位数	種別	対象生徒	担当教諭
Expression I	2	必修	FT・FTs	Andrew Carter・Geoffrey Grant・辻

目 標	・基本的な発表の仕方を学び、堂々と人前で自分の意見や考えを発表できる力を身につける。 ・テーマについて深く考え、根拠に基づいた論理的で偏りのない思考や、自己の思考・感情を意識的に振り返る内省的な思考を行う力を身につける。 ・場面や状況にあった適切な表現を使って円滑に会話をするための幅広い言語運用能力を伸ばす。 ・与えられたトピックに対して、即興的に話す即自的な力を伸ばす。 ・プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の多様な言語活動を通して、英語を用いて意見やアイデアをやりとりするための英語運用能力を養う。		
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・英語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解する。 ・自分の興味や関心をもとに得た語彙や表現などを使いながら、自分が伝えたい内容などを他者と共有することを通して考察し、自分の学びとして知識・技能を身につける。 ・さまざまな分野の知識を増やし、幅広い視点で物事を考えられるようになる。	・豊富な語彙や学習した表現を「聞く」「話す（やりとり・発表）」「読む」「書く」活動を通じて活用し、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとまった文章で表現したりできる。	・様々な分野の話題に興味、関心を持ち、自分の考えや価値判断の枠組みを組み換えようと、更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。 ・自分で学びたいことや具体的方法を考え、実際にやってみるなかで方法を吟味して更新することができる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	Speaking ・ expanded conversation ・ persuasive speech (constructive, rebuttal, and summary) ・ presentation ・ review of paragraph writing	◆Thinking ・身の回りにある問題や社会性のある課題に関して、論理的に思考することができる。 ・独自のアイデアを創ることができる。 ・物事の優劣を比較検討することができる。 ◆Reading ・日常生活での実用的な文章の要点や意図を理解できる。 ・社会性のある分野について書かれた文章の概要を把握し、その要点や意図を理解できる。 ◆Listening ・日常生活の話題や、社会性のある分野について話された一定の長さの内容・会話を聞いて、全体把握することができる。
2 学期	Essay writing ・ essay format (introduction, body and conclusion)	◆Speaking ・日常生活の話題や、社会性のある分野について、場面や目的に応じて一定の長さで自分の意志と理由を述べることができる。 ・準備なしで即興的に発表したり、やりとりしたりすることができる。 ・読んだり聞いたりしたことを受けて、即興的に質問したり、質問に対応することができる。 ◆Writing ・論理的に考え、根拠に基づいて、一貫性のある文章を書くことができる。 ・言語の使用場面と働きを理解し、状況に応じて適切な表現を正しく使うことができる。
3 学期	Expanded Expression ・ presentations ・ discussion ・ paragraph writing	◆Vocabulary ・様々な活動のなかで必要とされる表現を積極的に活用しながら、語彙を豊かにすることができる。 ◆Presentation / Discussion / Debate ・聞き手の興味を引き付け、考えや意図を効果的に伝えられるプレゼンテーションができる。 ・情報を整理し、自分の意見や価値観を積極的に意見し、共有することができる。 ・論題に対し、根拠をベースに論理的に思考し、英語で相手を説得することができる。

授 業 の 形 態	クラス授業（日本人教員とネイティブ教員による、アウトプットを主体とした授業）
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する （単元テスト、課題提出、スピーチやプレゼンテーション、ディベートなどのパフォーマンス課題など）
備 考	・オリジナル教材を使用する

高校2年（外国語科：英語）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
英語コミュニケーションⅡ	4	必修	FT・FTs	二宮

目 標	・英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報やアイデアなどを的確に理解したり適切に伝えたりする態度を養う。 ・国際化社会に対応できる英語運用能力を高めるために、個人およびペア・グループでの様々な活動を通し、その基盤となる「読む」「聞く」「話す（発表・やりとり）」「書く」力を身につける。 ・相手の発言を受けて発言したり質問したりする活動など、英語を使ったやり取りを通して、自分の意見やアイデアを作ったり、吟味したりする力を養う。 ・英語でスピーチやプレゼンテーションなどを行うための基本的な技能や英語力・表現力を身につける。また、聴き手として発表について即興で質問するなど、積極的に話し手に関わるための英語力も高める。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	・語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 ・場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢やイントネーションを知っている。 ・自分の興味や関心をもとに得た語彙や表現などを使いながら、自分が伝えたい内容などを他者と共有することを通して考察し、自分の学びとして知識・技能を身につける。	・豊富な語彙や学習した表現を「聞く」「話す（やりとり・発表）」「読む」「書く」活動を通じて活用し、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。 ・日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解し考える。 ・論説文や物語文に慣れ、様々な英文の要旨を理解し考える。	・様々な分野の話題に興味、関心を持ち、自分の考えや価値判断の枠組みを組み換えようと、更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での学習に取り組む姿勢を身につける。 ・自分で学びたいことや具体的方法を考え、実際にやってみるなかで方法を吟味して更新することができる。

時期	学習内容・項目		ねらい・目標
1 学期	・使用する教材を以下の5つのユニット「異文化理解」「国際貢献」「スポーツ・芸術」「環境」「現代社会」に分け、それぞれのタームで取り扱う項目について、より深い読みを進めていく。なお[I]の表記は、[英語コミュニケーションⅠの教科書単元]を意味し、必要に応じて扱う。		様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能を身に付ける。また、トピックについては、必要に応じて英語コミュニケーションⅠで既習のものにも触れながら、各単元の内容を主体的に深めていくことを目標とする。 ◆Listening / Reading ・様々なテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握をもとに的確に情報を得ることができる。また、関連する英文を主体的に読み、理解を深めることができる。 ◆Speaking(会話・発表) ・自らの考えと、その根拠となる情報をプレゼンテーション形式で伝えることができる。また相手の発言等に即興で質問することができる。 ◆Writing ・英文を読んだり、やりとりをして得た情報をもとに、自らの考えなどを一定量の英文で書くことができる。 ◆Discussion ・課題に対して、協働的に話し合い、やりとりをすることにより、課題解決を提案したり、自らの意見を再構築したりすることができる。
	ターム 1 ・異文化・多様性を考える	・L1 Lost in Translation 翻訳できない言葉について ・L3 Accessible Japan 障害者のために活動するジョシュ氏	
	ターム 2 ・国際貢献のあり方を考える	・L2 One Book Can Empower a Child アジアの子供に絵本を届ける活動・[I] L3 Hatching the Egg of Hope Miyazaki Kensuke 氏の活動 ・L4 Crossing the Border 国境なき医師団 貫戸朋子氏の活動 ・夏課題 1 学期の学びを深めるプレゼンテーション	
	ターム 3 ・スポーツや芸術を通し物の考え方や思考について考える	・L5 Mental Toughness スポーツにおけるメンタルタフネス ・L6 Walking in Gaudi's Footsteps サグラダファミリアの彫刻師 外尾悦郎氏の経験	
2 学期	ターム 4 ・自然の力・自然との共生について考える	・L7 Why Biomimicry? 自然と人間の共生 ・[I] Roots & Shoots 学者 Jane Goodall 氏の活動	
	ターム 5 ・現代社会のあり方や新しい様式について考える	・L8 Invisible No Longer フェアトレード カカオ農園の女性たち ・冬課題 1 年間の学びをもとにしたスピーチ	
3 学期		・L9 Nudges 人々のより良い選択を手助けする仕組み	

授 業 の 形 態	クラス授業（ペアやグループでの言語活動を含む、学習者が主体となる授業）
教 科 書	『CROWN English CommunicationⅡ』三省堂
副 教 材	『総合英語 be 4th Edition』いっぴぐ書店
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する (平常点は、単元テスト・パフォーマンステスト・プレゼン・スピーチ・課題提出など)
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する

高校2年（外国語科：英語）

科 目	単位数	種別	対象生徒	担当教諭
Critical Thinking I	2	必修	GL・GLs	Andrew Carter・Geoffrey Grant・田中海登・大矢

目 標	- 複数の視点から吟味し、問い、よく考える知的な営み（Critical Thinking）を通して、根拠に基づいた論理的で偏りのない思考や、自己の思考・感情を意識的に振り返る内省的な思考を行う力を身につける。 - プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の多様な言語活動を通して、英語を用いて意見やアイデアをやりとりするための基礎・基本的な言語運用能力を身につける。		
	知識・技能 - 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 - 英語の論説文や物語文に慣れ、長短さまざまな英文の要旨を理解できる。 - 英語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解する。 - さまざまな分野の知識を増やし、幅広い視点で物事を考えられるようにする。	思考・判断・表現 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動を通じてさまざまなトピックに関する情報や自分の意見を英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。 - 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連を考える。	主体的に学習に取り組む態度 - さまざまな分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での英語学習に取り組む姿勢を身につける。

学習内容・項目	ねらい・目標
年間を通して様々なテーマに基づく単元学習を設定し、以下のような活動を行うことを通して、各テーマについての思考を深める。 【単元と活動の一例】 単元名：学力差問題 ① グループ・ディスカッション 「学力差を解決するにはどうすれば良いか」という問いについてフリー・ディスカッションを行う。 ② グループ・プレゼンテーション ディスカッションで出たアイデアをもとにグループで解決策を提案する。 ③ ディベート 各グループが提案した解決策に関し、その是非について、様々な形式でディベートを行う（1対1、グループ、準備型、即興型等）。 ④ ライティング ディベートでの学びを生かして、自分の意見を一定の量の英文で書く。	◆Thinking - 社会が直面する様々な問題について、論理的に思考を深めることができる。 - 自ら問いを持ち、探究し、独自のアイデアを創ることができる。 - 情報の信頼度について検証・判断し、必要な情報を的確に獲得できる。 ◆Reading - 日常生活での実用的な文章の要点や意図を理解できる。 - 社会性のある分野について書かれた文章の概要を把握し、その要点や意図を理解できる。 - 前提や論理を疑いながら読み、自らの意見やアイデアを持つことができる。 ◆Listening - 日常生活の話題や、社会性のある分野について話された一定の長さの内容・会話を聞いて、全体把握することができる。 - 前提や論理を疑いながら聞き、自らの意見やアイデアを持つことができる。 ◆Speaking - 日常生活の話題や、社会性のある分野について、場面や目的に応じて一定の長さで自分の意志と理由を述べることができる。 - 準備なしで即興的に発表したり、やりとりしたりすることができる。 - 読んだり聞いたりしたことを受けて、自らの意見やアイデアを不自然な間を置くことなく話すことができる。 - 読んだり聞いたりしたことを受けて、即興的に質問したり、質問に対応することができる。 ◆Writing - 論理的に考え、根拠に基づいて、一貫性のある文章を書くことができる。 - 語彙や文構造に多様性を持たせた文章を書くことができる。 ◆Vocabulary - 様々な活動のなかで積極的に活用しながら、語彙表現を豊かにすることができる。 - 語彙テストを通して、語彙の偏りを意識しながら、補強することができる。

授 業 の 形 態	クラス授業（ネイティブ教員による、アウトプットを主体とした授業）
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する （語彙テスト、レポート、プロジェクト課題、プレゼンテーション、ディスカッションなど）
備 考	・オリジナル教材を使用する

高校2年（情報科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
情報 I	2	必修	AM AMs GL GLs FT FTs	藤井・伊藤

目 標	・情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。 ・様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 ・情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	授業ごとに情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	第1編 情報社会の問題解決 第3編 コンピュータとプログラミング	・情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けを適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えている。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解している。 ・情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解し適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察している。 ・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解している。 ・情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解し、それらを目的や状況に応じて適切に選択することができる。 ・効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解するとともに、表現する技能を身に付けている。 ・コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算に関する限界について理解している。
2 学期	第3編 コンピュータとプログラミング 第4編 情報通信ネットワークとデータの活用	・アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し技能を身に付け、目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用するとともに、その過程を評価し改善することができる。 ・社会や自然などにおける事象をモデル化する方法、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解している。 ・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解し、情報セキュリティを確保する方法について考えている。 ・データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解し切に選択し、実行し、評価し改善することができる。 ・データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付け適切に選択し、実行し、評価し改善することができる。
3 学期	第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第4編 情報通信ネットワークとデータの活用	

授 業 の 形 態	授業の形態： ・基礎技能定着のためのタイピング（5分） ・講師からのポイント説明（10～15分） ・各自の続きから各課題やオンラインコースに取り組む（30～35分）
教 科 書	『高等学校 情報 I』 数研出版
副 教 材	・紙面副教材：『新課程 高等学校情報 I サポートノート』（数研出版） ・FTのみ：『ベストフィット 情報 I』（実教出版） ・デジタル副教材：LifeisTech Lesson と Progate (Python) など
評 価 の 方 法	・実技：筆記＝7：3を基本とする（若干の誤差あり） ・1学期：2学期：3学期＝1：1：1ではなく、積み上げ加点方式を採用するため、各学期で評点満点の差が生じ、厳密には1学期：2学期：3学期＝1：1：1ではない。 ・定期試験、実技試験（1学期末、2学期末、3学期末）の結果などを中心に作品・課題評価、タイピングスコア、授業への取組、LifeisTech Lesson、Progate の取り組みログなど取捨選択の上、総合的に評価する
備 考	・毎時間ごとに30-60分程度の授業前の課題、復習を前提に授業を行います。 ・粘り強い取組と学びの自己調整のための小テスト、演習、Web アプリケーションを用いた個別講義、講義の組み合わせを基本の授業とする。

※上記内容は、2025年1月24日現在の予定であり、内容の変更等が生じる場合がある。

高校 2 年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
共創探究 I	2	必修	AM・AMs・GL・GLs	峯松・澤田・古山 他 10 名

目 標	・自分や社会を知ることを通して、一人ひとりが「知りたい」「やってみたい」と思える探究テーマ・問いを探ることができる。 ・探究テーマについて様々な方法を用いて調査することを通して、具体的な課題を設定することができる。 ・他者からの質問や助言をもらうことによって、課題に対する理解を深めることができる。 ・設定した課題に対して、他者と協働しながらアクションや研究を行い、解決できる。 ・活動を振り返り、自分自身の在り方・生き方を考えることができる。		
育 て た い 力	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性等
	・自分の興味や関心を知るための手法を身につける。 ・漠然とした興味関心の中から、自分自身が解決したいと思える具体的な課題を設定する手法を身につける。	・設定した課題を解決するための方法を、他者と協働しながら考え、実行する力を養う。 ・自身の取り組んできた探究活動を、聞き手の理解状況に合わせて、分かりやすく伝える力を養う。	・考えた課題解決方法を粘り強く実行し、解決の糸口を探ろうとする態度を養う。 ・目標設定と振り返りを通して、活動を自己調整しながら進めていく力を養う。 ・振り返りを通して、自らの学びを今後の人生にも活かせるように抽象化する力を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	探究テーマの設定 ・自分や社会を知ることを通して、興味関心のある探究テーマを見つける。 ・共通の興味関心を持つ人とグループを作り、探究テーマに関する情報を収集する。 ・探究課題交流会の実施 ・フィールドワークに行き、探究テーマを深める。	・これまでの人生を振り返り、言語化しておくことで自分自身の興味関心や価値観について知ることができる。 ・社会の課題を知ること、自分自身と社会を結びつけることができる。 ・興味関心と社会課題を結び付けることで、自分自身が関心のある探究テーマを決定できる。 ・探究テーマについて様々な方法（文献・ネット検索・実験・フィールドワークなど）を用いて情報を集め、手法ごとの良し悪しを学ぶ。 ・集めた情報をもとに設定した課題を交流し、質疑応答を通して課題の解像度を上げる。
2 学期	・課題解決の実行 1. 解決の方法を考え、計画を立てる。 2. 課題解決に向けて行動（アクションや研究）する。 3. 結果をまとめて考察し、結論を導く。 4. 考察をもとに、新たな問いを作り、探究のサイクルを回す。 ・中間発表会（探究活動相談会）の実施	・課題を解決するための計画を立て、アクションや研究を実行することができる。 ・必要な情報を適宜集め、他者と協働しながらアクションや研究を行い、解決できる。 ・結果を分析、考察することで得られた新たな問いをもとに、より良く課題解決するための方法を考えることができる。 ・これまでの探究活動を交流し、聴衆とともにより良い探究活動になるようにアイデアを交流する。
3 学期	・最終発表会の実施 ・振り返り	・探究活動の内容をまとめ、発表することができる。 ・1 年間の探究活動を通して学んだことを言語化し、自身の在り方生き方を考えることができる。

授 業 の 形 態	テーマ別ゼミ(半学級)を単位とする授業・一斉授業・グループワーク・フィールドワークなど
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	ワークシート・成果物・振り返り・発表 等 100%
備 考	評価については授業内で随時説明する

高校 2 年 （総合）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
共創探究 F	2	必修	FT・FTs	峯松・澤田・古山 他 10 名

目 標	・自分や社会を知ることを通して、一人ひとりが「知りたい」「やってみたい」と思える探究テーマ・問いを探すことができる。 ・探究テーマについて様々な方法を用いて調査することを通して、具体的な課題を設定することができる。 ・他者からの質問や助言をもらうことによって、課題に対する理解を深めることができる。 ・設定した課題に対して、他者と協働しながらアクションや研究を行い、解決できる。 ・活動を振り返り、自分自身の在り方・生き方を考えることができる。		
	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力、人間性等
育てたい力	・自分の興味や関心を知るための手法を身につける。 ・漠然とした興味関心の中から、自分自身が解決したいと思える具体的な課題を設定する手法を身につける。	・設定した課題を解決するための方法を、他者と協働しながら考え、実行する力を養う。 ・自身の取り組んできた探究活動を、聞き手の理解状況に合わせて、分かりやすく伝える力を養う。	・考えた課題解決方法を粘り強く実行し、解決の糸口を探ろうとする態度を養う。 ・目標設定と振り返りを通して、活動を自己調整しながら進めていく力を養う。 ・振り返りを通して、自らの学びを今後の人生にも活かせるように抽象化する力を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	探究テーマの設定 ・自分や社会を知ることを通して、興味関心のある探究テーマを見つける。 ・共通の興味関心を持つ人とグループを作り、探究テーマに関する情報を収集する。 ・探究課題交流会の実施 ・フィールドワークに行き、探究テーマを深める。	・これまでの人生を振り返り、言語化しておくことで自分自身の興味関心や価値観について知ることができる。 ・社会の課題を知ること、自分自身と社会を結びつけることができる。 ・興味関心と社会課題を結び付けることで、自分自身が関心のある探究テーマを決定できる。 ・探究テーマについて様々な方法（文献・ネット検索・実験・フィールドワークなど）を用いて情報を集め、手法ごとの良し悪しを学ぶ。 ・集めた情報をもとに設定した課題を交流し、質疑応答を通して課題の解像度を上げる。
2 学期	・課題解決の実行 1. 解決の方法を考え、計画を立てる。 2. 課題解決に向けて行動（アクションや研究）する。 3. 結果をまとめて考察し、結論を導く。 4. 考察をもとに、新たな問いを作り、探究のサイクルを回す。 ・中間発表会（探究活動相談会）の実施	・課題を解決するための計画を立て、アクションや研究を実行することができる。 ・必要な情報を適宜集め、他者と協働しながらアクションや研究を行い、解決できる。 ・結果を分析、考察することで得られた新たな問いをもとに、より良く課題解決するための方法を考えることができる。 ・これまでの探究活動を交流し、聴衆とともにより良い探究活動になるようにアイデアを交流する。
3 学期	・最終発表会の実施 ・振り返り	・探究活動の内容をまとめ、発表することができる。 ・1 年間の探究活動を通して学んだことを言語化し、自身の在り方生き方を考えることができる。

授 業 の 形 態	テーマ別ゼミ(半学級)を単位とする授業・一斉授業・グループワーク・フィールドワークなど
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	ワークシート・成果物・振り返り・発表 等 100%
備 考	評価については授業内で随時説明する

高校3年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
現代国語	2	必修	AM AMs GL GLs	中條・主山・早瀬

目 標	・社会における諸問題を扱った評論文や小説などから、そこに描かれている事象を正しく読み取る力を養う。 ・論理的思考力を養い、それを文章で表す力を養う。 ・プレゼンテーション能力やコミュニケーション力を総合的に養う。		
	育 っ た い 力	知識・技能 ・定期的に小テストに取り組むことで漢字や語彙について習熟する。 ・アカデミックライティングを基本としたレポートを書くことで、大学でも通用する文章の書き方を身につける。	思考・判断・表現 ・評論文や文学作品を読み解き、ディスカッション等を行う中で、自分の視野を広げる。 ・上記の内容を発表することによって、自分の考えを効果的に表現する力を身につける。
		主体的に学習に取り組む態度 ・定期的に出される課題を確実に提出することによって、継続的に学習する習慣を身につける。 ・下調べ等をする中で自由に考えることで、主体的に作品に向かい合う姿勢を身につける。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	「である」ことと「する」こと (後半より舞姫)	・筆者が述べている日本の伝統的な「である」価値観と近代化を迎えたことによって生じた「する」価値観を現在起こっている社会問題と絡めて分析、発表する。 ・本文の的確な理解ができる。 ・社会問題に目を向け、自分たちの視野を広げる。
2 学期	小説「舞姫」森鴎外 明治近代のエリートのお考え方を知ること、自分の生き方について考える (後半より「ころろ」)	・日本の近代化の渦中で描かれた作品を読むことで、作品の登場人物の心理変化について考察する。 ・明治近代のエリートのお考え方に触れることで、日本を背負うという感覚について考えることができる。 ・登場人物の行動を批判的に読むことによって、新しいモノの見方を身につける。
3 学期	小説「ころろ」夏目漱石 教科書以外の資料を読むことによって視野を広げ、明治近代の個人が抱えた問題について考える。	・日本の近代化の渦中で描かれた作品を読むことで、作品の登場人物の心理変化や作者が伝えたかったことについて考察する。 ・思想家としての側面から夏目漱石を理解し、作品を読解し、理解を深めることができる。 ・対話活動の中から自身や他者へのメタ的な視座を獲得し、自身の進路選択について思考を深めることができる。

授 業 の 形 態	クラス授業 主に班学習
教 科 書	『文学国語』筑摩書房
副教材・昨比	『読解を深める現代文単語』桐原書店、ジャパンナレッジスクール
評 価 の 方 法	定期テスト 50%、平常点 50% （発表、提出物等） 1 学期期末・2 学期中間調査・3 学期学年末調査
備 考	

高校3年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
古典探究	3	必修	AM GL	有賀・中北

目 標	・適切に継承され、現代の言語生活に生かされるべき古典（古文・漢文）を読む能力を養う。 ・古典に表れている、人間・社会・自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・古典を読解するための文法的知識を身につける。 ・古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。 ・作品の時代背景や歴史、文学史について知識を得る。	・古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえる。 ・我が国の文化や特質、中国の文化との関係について理解を深める。 ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。	・古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。 ・古典をめぐる社会や人物についての理解や関心を深め、将来の人生の指針の一つとする。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【 古文 】 随筆 ・『源氏物語』「若紫」 ・『源氏物語玉の小櫛』もののあはれの論 【漢文】 史話 ・『貞観政要』 【古文】 評論 ・『難波土産』より「虚実皮膜論」 【漢文】 史伝 ・『史記』より『荊軻伝』 「風蕭蕭兮易水寒」「図窮而七首見」	・世界的にも評価の高い古典文学作品である『源氏物語』を読み、平安貴族の生活や精神性について理解を深める。 ・『源氏物語』に関する評論を読み俯瞰的な立場から鑑賞し直すことによって、『源氏物語』を評価し直す。 ・古来より帝王学として学ばれてきた『貞観政要』を題材にして、現代を生きるための組織マネジメント論やリーダー論、経営論について理解を深め、探究活動を行う。 ・江戸時代の観劇について論じた文章を読み、自らの芸術鑑賞の経験と繋げて文化祭での表現活動を豊かにする。 ・秦王による暴政に対し、荊軻という一人の男が燕の太子の命を受けて暗殺を計画するもののあと少しのところで失敗するという物語から、「任侠」という生き方に理解を深め、一人の男が志をもって最期を迎えるにいたるまでのドラマを読み味わう。
2 学期	【漢文】 思想 ・『孔子』『孟子』『荀子』『老子』『韓非子』『墨子』 【古文・漢文】 探究古典 ・「花鳥風月」	・日本にも大きな影響を与えた中国思想について理解する。 ・それぞれの思想家達が説く思想について理解するとともに、プレゼンテーションバトル形式で現代の事例と関連させた自身の意見として示すことが出来る。 ・高校3年間の古典学習の集大成として古代から近世までの和漢の古典作品すべてを対象として探究活動を行うことで、古代から現代に至る日本文化や言語文化の変遷を概括し理解を深める。 ・さまざまな古典作品に描かれた自然の描写や人々の思いや考え方などについてそれぞれの興味に基づき探究することで、生徒自身の思考の幅を広くし、これからの人生を豊かにする。 ・授業内容については1学期冒頭の段階で告知し、年間を通した長期プロジェクトとすることで、生徒の授業に取り組む姿勢や知的探究心をより深めることを目指す。
3 学期	【古文】 歌論・俳論 『俊賴髓脳』『正徹物語』	・古代から近世までを貫く日本文化の中心としての位置づけを持つ和歌・俳諧に関する評論を読むことで、高校古典の学びの集大成とするとともに古典的素養の完成をめざす。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／グループワーク
教 科 書	『精選古典探究 古文編』東京書籍、『精選古典探究 漢文編』東京書籍
副 教 材	『解析古典文法 四訂版』桐原書店、『読んで見て覚える重要古文単語3 1 5』桐原書店、『精説漢文』いっずな書店、『プレミアムカラー国語便覧』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査点 50％、平常点 50％(探究活動、授業内発表、レポート課題、小テスト、授業態度等)
備 考	上記の授業内容は予定であり授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校3年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
古典探究	2	必修	FT	山本

目 標	・生涯にわたる社会生活に応用できる言葉の知識や技能を身につけ、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・古典に表れている、先人のものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・現代社会の諸問題を考えるために、古典に込められた作者の思想を活かそうとする姿勢を身につける。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、それらの知識を読解と考察に応用する。 ・古典の文章の構成や展開の仕方について理解を深め、文章を俯瞰的に捉える。 ・読解した内容を基に、我が国の文化の特質、外国との関係について理解を深める。	・作品の成立した背景や他の作品との関係を踏まえながら古典を解釈し、社会、自然などに対する思想や感情を多角的かつ多面的に捉える。 ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。	・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、それらを応用して他者や社会への理解を深めようとする態度を身につける。 ・古典をめぐる社会や人物についての理解や関心を持つ。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・共通テスト過去問題 ・国公立2次試験過去問題 古文・漢文の良質な入試問題を精選し、生徒の学力と志望校に合わせて演習する。	・古典を読解するための文法、句形知識を身につける。 ・主語や目的語を補い、文章の構成や展開の仕方を理解しながら読解を進める力を身につける。
2 学期		・入試問題の出典に関係した複数テキストの読解を通し、成立年代や時代背景、他の作品との関係を考えながら作品を解釈する力を身につける。 ・受験の有無を問わず、良質な古典のテキストとしての入試問題に触れ、その解釈を考えることで論理的に考える力や他者への想像力を育む。
3 学期	・共通テスト対策	・自己の課題を意識しながら、知識の総復習と問題演習を行うことで社会生活に必要な国語の知識や技能を育む総仕上げを行う。

授 業 の 形 態	一斉授業／講義形式／グループワーク／ペアワーク
教 科 書	なし
副 教 材	教員配布のプリント各種、共通テスト過去問題集
評 価 の 方 法	平常点100%（授業内テスト、提出課題、関心・意欲・態度）
備 考	上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校3年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
現代国語	2	必修	FT・FTs	山本

目 標	・実社会に必要な国語の知識や技能をもとに、論説文や実用的な文章を、論理的・批判的に読解する力を身につける。 ・漢字や熟語などの語彙の増強と大学や社会での議論に堪えうる知識の獲得を目指す。 ・一般常識の力を増強するため、社会問題にも関心を向けさせる。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・筆者の用いている語句には必ず、一定の「意図」があることを意識し、その思考を丁寧に理解することを目指す。	・自己の観点は「主観」に過ぎず、社会や学問においては「客観」が求められることと、一見客観性が保てているように思われる言説もまた、批判的思考の対象であることを意識する。	・基礎となる知識や思考力といった要素を積極的に身につけ、社会問題や現代思想、自らが学びたい学問分野に結びつけて視野を広げていこうとする姿勢を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・センター試験／共通テスト過去問題 ・国公立2次試験過去問題 評論・小説の良質な入試問題を精選し、生徒の学力と志望校に合わせて演習する。	・実社会や学術的な基礎に関する事柄について、立場の異なる読み手を説得するために、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫する力を身につける。 ・文章の内容や構成、論理の展開、資料との関係性などを的確に捉え、要旨を把握した上で、文章の書き手や出題者といった、そのテキストの背後にいる人間の意図をくみ取ろうとし、テキストを多面的な視点から解釈する力を身につける。 ・人間、社会、自然などについての題材に関連する複数の文章や資料を基に、情報を関連付けて考えを深める力を身につける。
2 学期		
3 学期	・共通テスト対策	・知識の総復習と問題演習を行うことで個々の知識の漏れを確認し、社会生活に必要な国語の知識や技能を育む総仕上げを行う。

授 業 の 形 態	一斉授業／講義形式／グループワーク／ペアワーク
教 科 書	なし
副 教 材	教員配布のプリント各種、共通テスト過去問題集
評 価 の 方 法	平常点100%（授業内テスト、提出課題、関心・意欲・態度）
備 考	上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校3年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
国語演習B	2	選択	FT・FTs	堀井

目 標	・国公立二次試験や共通テストの読解素地となる知の体系を、副教材や過去問の要約などを通して身につける。 ・日本の思想の流れをたどることを通して、現在を生きる私たちの問題について、自分なりの展望をもつ。 ・計画的・段階的な記述指導を通して、読解力と記述力とを身につける。		
育 っ た い 力	知識・技能 ・問われたことに対し、対応する形式と内容を言葉で表現する力を身につける。 ・知の体系や読解内容を踏まえた考察を、論理的に表現する力を習得する。	思考・判断・表現 ・古典中心の記述演習を通して、先人たちが困難な状況の中でどのように展望を拓いてきたのか、体系的に理解する力を身につける。	主体的に学習に取り組む態度 ・様々な文章の読解を通して、自分を取り囲む今日的な問題について意見をもてるようになる。 ・様々な文章を読み、筆者と作問者の意図を読み解くことを通して、国語を学ぶ楽しさを発見できる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・古典文法と古文常識の復習。 ・生徒の受験大学・学部に応じた過去問の演習と添削。	・読解するための素地となる知の体系を理解する。 ・日本の思想の流れをたどることを通して、現在を生きる私たちの問題について、自分なりの展望をもつ。 ・計画的・段階的な記述指導を通して、読解力と記述力とを身につける。 ・文章の筆者の主張や作問者の意図を読み解くことを通して、国語を学ぶ楽しさを発見する。
2 学期		
3 学期	・大学入試演習、講義、個別添削。	・自己の課題を意識しながら、知識の総復習と問題演習を行うことで社会生活に必要な国語の知識や技能を育む総仕上げを行う。

授 業 の 形 態	クラス一斉講義形式／個別指導形式
教 科 書	なし
副 教 材	教員配布のプリント各種
評 価 の 方 法	平常点100%(レポート課題、小テスト、授業態度など)
備 考	本授業は小論文の授業と並行して開講する。複数の教員により、それぞれの授業で小論文問題への対策と国語の文章問題演習を実施し、生徒が自らのニーズに合わせて受講する講座を選択する。 授業進度と生徒の到達度に合わせて個別添削の機会を設け、学力向上の一助とする。 上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校3年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
小論文	2	選択	FT・FTs	山本・都築

目 標	・小論文を書くための素地となる一般教養や現代思想を、副教材や過去問の要約などを通して会得する。 ・身近な体験や実感から抽象的な論の方向へと段階的に書かせることで、書く楽しみや自己の思いを客観視する姿勢を体得する。 ・現代思想の流れをたどることを通して、現在を生きる私たちの問題について、自分なりの展望をもつ。 ・小論文の授業内容から発展させ、計画的・段階的な記述指導を通して、読解力と記述力とを身につける。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・問われたことに対し、対応する形式と内容を言葉で表現する力を身につける。 ・小論文において、知の体系を踏まえた自分なりの考察を、論理的に展開する力を習得する。	・小論文課題や記述演習を通して、先人たちが困難な状況の中でどのように展望を拓いてきたのか、体系的に理解する力を身につける。	・様々な文章の読解を通して、自分を取り囲む今日的な問題について意見をもてるようになる。 ・様々な文章を読み、筆者や作問者の意図を読み解くことを通して、国語を学ぶ楽しさを発見できる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・他者に自分の意見を伝えるための文章が書けるようになるための技術習得。 ・生徒の受験大学と学部に応じた過去問の演習と添削。	・小論文を書くための素地となる一般教養や現代思想を理解する。 ・現代思想の流れをたどることを通して、現在を生きる私たちの問題について、自分なりの展望をもつ。 ・計画的・段階的な記述指導を通して、読解力と記述力とを身につける。 ・文章の筆者の主張や作問者の意図を読み解くことを通して、国語を学ぶ楽しさを発見する。
2 学期		
3 学期	・大学入試演習、講義、個別添削。	・文章を論理的に読解する力と、事象を的確に説明し、読み手に自分の考えを効果的に伝える表現力を身につける。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義形式／個別指導
教 科 書	なし
副 教 材	教員配布のプリント各種
評 価 の 方 法	平常点 100% (レポート課題、小テスト、授業態度など)
備 考	・本授業は国語演習Bの授業と並行して開講する。複数名の教員により、それぞれの授業で小論文問題への対策と国語の文章問題演習を実施し、生徒が自らのニーズに合わせて受講する講座を選択する。 ・上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。 ・個々の習熟度に応じて書き直し等を個別に求める。ただし、小論文という受験科目、推薦入試対策という特性上、提出物や授業をおろそかにした生徒については、全体とは別の課題を与えることがある。

高校3年（国語科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
国語演習A	2	必修	FTs	山本

目 標	・生涯にわたる社会生活に応用できる言葉の知識や技能を身につけ、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・古典に表れている、先人のものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・現代社会の諸問題を考えるために、古典に込められた作者の思想を活かそうとする姿勢を身につける。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、それらの知識を読解と考察に応用する。 ・古典の文章の構成や展開の仕方について理解を深め、文章を俯瞰的に捉える。 ・読解した内容を基に、我が国の文化の特質、外国との関係について理解を深める。	・作品の成立した背景や他の作品との関係を踏まえながら古典を解釈し、社会、自然などに対する思想や感情を多角的・多面的に捉える。 ・古典を読んで、内容を構成や展開に即して的確に捉える。	・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、それらを応用して他者や社会への理解を深めようとする態度を身につける。 ・古典をめぐる社会や人物についての理解や関心を持つ。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・センター試験／共通テスト過去問題 ・国公立2次試験過去問題 古文や漢文の良質な入試問題を精選し、生徒の学力と志望校に合わせて演習する。	・古典を読解するための文法・句形知識を身につける。 ・主語や目的語を補い、文章の構成や展開の仕方を理解しながら読解を進める力を身につける。
2 学期		・入試問題の出典に関係した複数テキストの読解を通し、成立年代や時代背景、他の作品との関係を考えながら作品を解釈する力を身につける。 ・受験の有無を問わず、良質な古典のテキストとしての入試問題に触れ、その解釈を考えることで論理的に考える力や他者への想像力を育む。
3 学期	・共通テスト対策	・自己の課題を意識しながら、知識の総復習と問題演習を行うことで社会生活に必要な国語の知識や技能を育む総仕上げを行う。

授 業 の 形 態	一斉授業／講義形式／グループワーク／ペアワーク
教 科 書	なし
副 教 材	教員配布のプリント各種、共通テスト過去問題集
評 価 の 方 法	平常点 100%（授業内テスト、提出課題、関心・意欲・態度）
備 考	上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校3年（地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
政治・経済	2	必修	AM・GL	高尾・峯松

目 標	・経済の基礎知識を身に付けることで世の中の動きを理解し、自分たちの生活と結びつけて論理的に考える力を養う。 ・教材を通じて投資や会社経営などを体験することで、経済やお金に関する事柄を身近に感じ、今後の実生活に生かす。（この授業では「公共」と授業内容の重複を避けるため、経済分野に特化した内容を行なう）		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・社会の動きを認識するのに必要な最低限の経済的知識を理解し、批判的意見を述べる事が出来る能力を養う。	・経済の問題について様々な面から考え客観的・論理的な判断力をつけ、問題解決能力を養う。 ・株取引などを通じて、資料を読みデータを分析する能力を養い、さらにそれを他者へ説明する能力を養う。	・現代社会の動きに目を向け、新聞記事やニュースの内容について興味、関心を持ち、解決策を考える力を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・現代経済の仕組みと特質 ・経済社会の発展 ・経済主体と経済活動 ・市場経済の機能と限界 ・経済成長と景気変動 ・物価の動き ・株式	・経済の最も重要な役割は何なのか、資本主義経済の特質と問題点は何なのかを、資本主義経済はどのような変容を経て現在に至っているのかを考える。また、経済の三主体を元に、互いにどのような役を果たしているのかを株式会社の仕組みや株主の権利を学ぶとともに企業の社会的責任を学ぶ。 ・投資に関するゲームを行い、物価の動きや世界情勢を理解し、現在の経済状況の実態を学ぶ。
2 学期	・金融のしくみとはたらき ・労働問題 ・社会保障制度の充実 ・財政教育プログラム ・国際経済のしくみ ・国際協調と国際経済機関の役割 ・地域的経済統合	・金融のはたらきと銀行の役割について考え、金融政策は経済にどのような影響を与えているか学ぶ。 ・日本の財政事情を考え、今後の日本について考える。 ・外部機関の方と連携し、授業を展開する。 ・日本の経済を学んだうえで、国際的な経済について理解を深める。またEUの成り立ちや、グローバル化が進む中で地域的経済統合がどのような過程で作られたのかを理解する。
3 学期	・民主政治の基本原理解（地方自治制度） ・政党政治と選挙制度 ・模擬選挙	・身の回りの社会で、政治はどのようなはたらきをしているのか、地方自治の本旨に基づいた政治とはどういうものか、今後の地方自治のあり方と解決すべき課題を見つけ出す。 ・民主政治における政党の役割、日本の選挙制度はどのような特徴を持っているのかを学習する。 ・実際の選挙に合わせて選挙の必要性や若年層の投票率の低さについて考える。また、海外との投票率の違いにも触れ、日本の投票率を上げる方法を考えると同時に、自身の考えに近い政党を調べ模擬選挙を行う。

授 業 の 形 態	クラス授業／講義形式／グループワーク／プレゼンテーション
教 科 書	『高等学校 改訂版 政治・経済』第一学習社
副 教 材	
評 価 の 方 法	・平常点100% 単元テスト・小テスト・レポート・発表
備 考	・平常点の内訳は授業担当者が決定するものとする。 ・経済的分野にとどまらず、幅広い時事問題を扱うこともある。

高校３年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
日本史演習	4	選択	FT	清水

目 標	・ 既習の日本史探究及び歴史総合を基に、必要に応じて講義等で学習事項の補完を図り、単元別及び大学入試共通テスト（以下、共通テスト）演習を通して、大学入学共通テストや国公立個別試験の受験に対応する学力・実践力を養成する。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 日本史探究及び歴史総合の基本事項を正しく理解し、社会生活や日常生活の中から課題を発見し、解決方法を構想する思考や判断、表現等に実際に使える知識を身につける。	・ 日本史の構造と展開が、現代に与えた影響について、歴史的事象の比較や相互の関連性及び、現代とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる力。	・ 現代的課題を発見し、解決方法を構想することや、史資料やデータ等を基に考察しようとする態度。 ・ 世界の中の日本であることを自覚し、多様性を尊重する態度。 ・ 考察、構想したことを効果的に説明しそれらを基に議論する態度。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	第 1 部 原始・古代の日本と東アジア 第 1 章 日本文化のあけぼの 第 2 章 大和政権の成立と古墳文化 第 3 章 律令国家の形成 第 4 章 古代の国家・社会の変容 第 2 部 中世の日本と世界 第 1 章 荘園公領制の成立と院政 第 2 章 中世の国家・社会の展開 第 3 章 中世の国家・社会の変容 第 3 部 近世の日本と世界 第 1 章 東アジア世界の変容と天下統一 第 2 章 幕藩体制の成立と展開 第 3 章 近世の国家・社会の変容	・ 過去問や予想問題に取り組み、共通テストや国公立大個別試験に対応する学力、思考力を高める。 ・ 日本史の事象を、多面的・多角的に考察する過程を重視し、用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する。 ・ 歴史的事象に関する深い理解に基づいて、共通テストにおいて、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付けて考え、仮説を立て資料に基づいて根拠を示したり検証したりする問題や歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などに対応する実践力を身につける。
2 学期	第 4 部 近現代の地域・日本と世界 第 1 章 開国から討幕へ 第 2 章 明治維新 第 3 章 近代国家の形成 第 4 章 両大戦の日本 第 5 章 十五年戦争と日本 第 6 章 戦後日本の形成 第 7 章 グローバル化のなかの現代日本	

授 業 の 形 態	講義形式・演習
教 科 書	『日本史探究』実教出版、『明解 歴史総合』帝国書院
副 教 材	なし（適宜プリントを配布）
評 価 の 方 法	定期考査 90%＋平常点 10% （※1 学期期末考査：2 学期中間考査、考査は年間 2 回の実施予定） 単元別テストなどを平常点に含む予定
備 考	

高校 3 年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
公民演習	3	選択	FT FTs	伊瀬

目 標	・人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。 ・高 2 公共（政治経済分野）の既習内容を踏まえ、倫理分野の学習進めつつ、単元別及び総合演習をととして大学入試共通テストの公共・政治経済・倫理受験に対応する学力を養成する。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育 て たい 力	・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する ・概念用語を正しく理解し表現する力を身に付ける。 ・大学入試で問われる基礎的知識を習得する。	・諸課題に関わる事項に関する様々な資料を読み取り、その中から有益な情報を自主的に選択、活用する力を身につける。 ・事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、さまざまな知識を統合し、現代の課題の考察に応用して活用する力を養う。	・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 ・時事問題に関心を持つとともに、日常生活の中から課題を発見し、解決方法を構想することや資料やデータ等を基に考察する姿勢を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	公共のうち倫理分野 ・源流思想 ・西洋思想 ・日本思想 ・応用倫理	・人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。 ・文章や資料を読み解きながら、先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を養成する。 ・倫理的諸課題について、倫理的な見方や考え方を働かせて、思考したり、批判的に吟味したりする問題や、原典資料等、多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題に対応できる学力を養成する。
2 学期	公民演習（公共・政治経済・倫理）	・文章や資料を的確に読み解きながら、各分野の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を養う。 ・多様な統計・図版・資料を用いて、様々な立場から考察する問題などに対応する学力を養成する。 ・過去問や予想問題に取り組み、公共・政治経済・倫理科目の解答力を養成する。

授 業 の 形 態	演習・講義・グループワーク
教 科 書	『公共』東京書籍
副 教 材	『最新公共資料集 プラスウェブ』第一学習社、『テオリア最新倫理資料集』第一学習社、 『4 ステージ演習公共』数研出版、大学入試予想問題集
評 価 の 方 法	定期考査 90%（1 学期期末、2 学期期末の 2 回）、平常点 10%（授業内課題、小テスト）
備 考	授業内容や形態等については、受講者に対しアンケートを実施するなどして、柔軟に対応する。

高校 3 年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
地理探究	3	選択	FT FTs	山本

目 標	・「大学入学共通テスト（以下、共通テスト）」演習を行い、実戦力を身につける。 ・現代世界の地理的な諸課題を地域性と結び付けて考察することで、地理的な見方や考え方を培い、グローバル化の加速する世界で主体的に生きる力を養う。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・世界の諸事象の規則性や傾向性などを系統的に考察する学習過程を前提に、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、地域的特色や課題などを理解する。	・社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察する。	・地理的な課題を主体的に探究しようとする態度。 ・世界の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	【系統地理分野】 ・農林水産業、鉱産資源、エネルギー ・工業、第 3 次産業、交通 ・人口、村落都市、生活文化、民族・宗教 【地誌分野】 ・「アジア」 ・「アフリカ」 ・「ヨーロッパ」 ・「ロシアと周辺諸国」 ・「アングロアメリカ」 ・「ラテンアメリカ」 ・「オセアニア・太平洋諸島」	・国公立大学の 2 次試験（論述）や、共通テスト・センター試験の過去問を活用して、地理的思考力を高める。 ・気候・地形・土壌の分布から世界各地の農牧林業分布を規定しなおすとともに、社会的理由によって特徴的な分布を示す農業も学ぶ。 ・大地形の復習を兼ねて鉱産資源とエネルギー資源の分布および新エネルギーの現在の価値と各国の特徴について学ぶ。 ・民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。 ・アジア：現代の変わりゆくアジアの姿について歴史的背景をふまえながら学習する。 ・アフリカ：自然環境の確認を中心に行う。 ・ヨーロッパ：主要民族の構成を、気候・宗教の分布から把握する。また、EU 形成の歴史と農業政策に絡めて主要国の工業を学ぶ。 ・ロシアと周辺諸国：社会主義の概要を押さえた上で東ヨーロッパ諸国を俯瞰的に捉え、周辺諸国とロシアの関係を経済的観点から理解する。 ・アングロアメリカ：地形と気候配置から合衆国の農業国的側面を理解する。また、産業の高度化に伴う工業地域の変遷も名称と共に理解する。 ・ラテンアメリカ：アンデス山脈が気候の分布に特徴を与えていることを理解し、同時に植生分布を把握する。ブラジル・メキシコの工業も学ぶ。 ・オセアニア：地域区分を把握したあと、オーストラリアの自然環境を学ぶ。また、オーストラリアとニュージーランドの農牧業の傾向も学ぶ。
2 学期	【共通テスト演習】 ・共通テスト・センター過去問演習 ・各予備校発行の共通テスト問題演習	・共通テスト・センター試験の過去問題などを中心に新テストの演習問題に取り組み、地理の応用力を深め、実践的な力を養う。
3 学期	【共通テスト演習】 ・共通テスト直前対策問題	・各予備校の予想問題を解いて、弱点を把握し、克服する。

授 業 の 形 態	クラス授業/一斉授業/講義形式 等
教 科 書	『新詳地理探究』『新詳高等地図』 帝国書院
副 教 材	なし（適宜プリントを配付）
評 価 の 方 法	定期考査 90% ＋ 平常点 10% （※ 1 学期末考査：2 学期中間考査、考査は年間 2 回の実施予定） 課題学習 などを平常点に含む予定
備 考	

高校 3 年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
地理公民演習	1	必修	FTs	伊瀬

目 標	・ 高 1 地理総合・高 2 公共（政治経済）の既習内容を踏まえて、単元別及び総合演習をとおして知識の理解の質を問う大学入試共通テストの地理総合・公共・政治経済科目受験に対応する学力を養成する。		
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 地理についての基本的な事柄あるいは公共・政治経済の基本事項を正しく理解し、その知識を身につける。 ・ 諸課題に関わる事項に関する様々な資料の中から有益な情報を自主的に選択、活用する力を身につける。	・ 地理、政治、経済的課題を身近な問題として捉え、考察し解決の糸口を見出し、広い視野に立つて多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する力を養う。	・ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 ・ 時事問題に関心を持つとともに、日常生活の中から課題を発見し、解決方法を構想することや資料やデータ等を基に考察することを重視する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標	
1 学期	地理（地理総合・地理探究） 公民（公共・政治経済）	地理総合・地理探究 ・ 1 年次の既習内容を踏まえ、現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う。	公共・政治経済 ・ 現代における政治、経済、国際関係等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。
2 学期	地理（地理総合） 公民（公共・政治経済）	・ 多様な統計・資料を用いて、様々な立場から考察する問題などに対応する学力を養成する。 ・ 初見の資料から得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などに対応する学力を養成する。	・ 現代における政治、経済、国際関係等の客観的な理解を基礎として、文章や資料を的確に読み解きながら、政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を養う。 ・ 多様な統計・資料を用いて、様々な立場から考察する問題などに対応する学力を養成する。 ・ 初見の資料から得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や時事的なテーマについて考察する問題などに対応する学力を養成する。

授業の形態	大学受験へ向けての演習
教科書	『高等学校 地理総合』帝国書院、『新詳高等地図』帝国書院、『公共』東京書籍
副教材	大学入試予想問題集
評価の方法	平常点 100%（小テスト、授業内課題） 定期考査は実施しない。
備 考	授業内容や形態等については、受講者に対しアンケートを実施するなどして、柔軟に対応する。

高校 3 年 （地歴公民科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
世界史演習	4	選択	FT	伊瀬

目 標	・既習の世界史探究及び歴史総合について、必要に応じて講義等で学習事項の補完を図りつつ、単元別及び総合演習をととして大学入学共通テストや国公立個別試験の受験に対応する学力を養成する。		
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・世界史探究及び歴史総合についての基本事項を正しく理解し、思考や判断、表現等に実際に使える知識を身につける。	- 世界の歴史の大きな構造とその展開の事象、それらが現代に残した影響について、その意味や特色などを、時代や推移、比較や相互の関連性や、現代とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる力。 - 上記のように考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる力。	- 社会生活や日常生活の中から課題を発見し、解決方法を構想することや、資料やデータ等を基に考察することができる力。 - 自身の学力を判断し、それを主体的に改善していく力。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	3 部 諸地域の交流・再編 3 章 主権国家体制の成立と交易の拡大 4 部 諸地域の結合・変容 1 章 環大西洋革命 2 章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設 3 章 世界の一体化の進展とアジアの変容	- 世界史探究及び歴史総合に関わる事象を、多面的・多角的に考察する。 - 用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察できるようになる。 - 共通テストの、事象に関する深い理解に基づき、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などに対応できるようになる。 - 過去問や予想問題に取り組み、共通テストや国公立大個別試験に対応できるようになる。
2 学期	4 章 世界の一体化の完成とその影響 5 章 世界大戦の時代 5 部 地球世界の課題 1 章 冷戦の展開と平和の模索 2 章 グローバル化する国際経済とその課題 3 章 情報と科学技術によって結びつく世界 4 章 地球世界の課題の探究	

授業の形態	講義・演習
教科書	『新詳 世界史探究』帝国書院、『明解 歴史総合』帝国書院
副教材	『最新世界史図説 タペストリー』帝国書院、大学入試予想問題集
評価の方法	定期考査 90%（1 学期期末、2 学期期末の 2 回）、平常点 10%（演習課題、リフレクションシートなど）
備 考	授業内容や形態等については、受講者に対しアンケートを実施するなどして、柔軟に対応する。

高校 3 年 （数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学 B	3	必修	AM GL	佐藤・吉川

目 標	数列，統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活との関わりについて認識を深め，事象を数値化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数値化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	数学 B 第 1 章 数列 第 1 節 等差数列と等比数列 (数列と一般項・等差数列・等差数列の和・等比数列・等比数列の和) 第 2 節 いろいろな数列 (和の記号 Σ ・階差数列)	- 数列やその一般項の表し方について理解する。また，基本的な数列として，等差数列と等比数列を，両者を比較しながら理解し，それらの和を，公式が導出される過程を理解した上で求められるようにする。また，これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 - 和の記号 Σ の表し方や性質を理解し，活用できるようにする。 - いろいろな数列について，その一般項や和を求めたり，和から一般項を求めたりできるようにする。
2 学期	第 3 節 漸化式と数学的帰納法 (漸化式・数学的帰納法) 数学 B 第 2 章 統計的な推測 第 1 節 確率分布 (確率変数と確率分布・確率変数の期待値と分散・確率変数の和と積・二項分布・正規分布)	- 数列の帰納的な定義について理解し，漸化式から一般項が求められるようにするとともに，複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また，数学的帰納法の仕組みを理解し，様々な命題の証明に活用できるようにする。 - 確率変数と確率分布について理解し，期待値や分散，標準偏差などを求めることを通じて，分布の特徴を把握できるようにする。また，連続型確率変数についても理解し，正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。
3 学期	第 2 節 統計的な推測 (母集団と標本・標本平均の分布・推定・仮説検定)	母集団と標本，標本調査について理解し，特に標本平均については，それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また，母平均や母比率の推定，正規分布を用いた仮説検定ができるようにし，それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『NEXT 数学 B』数研出版
副 教 材	『CONNENT 数学Ⅱ+B』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（小テスト，提出課題など） ただし，1 学期は期末考査のみ実施。
備 考	

高校 3 年（数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学Ⅲ	4	必修	AMs GLs	東前・平林

目 標	極限、微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	第1章 関数 (分数関数/無理関数/逆関数と合成関数) ※数学Ⅱで先取り学習した単元の続きからはじめる。	・ 分数関数や無理関数の性質を理解し、それを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また、関数の一般的な性質として逆関数や合成関数などについて理解し、事象の考察に活用できるようにする。
	第2章 極限 (数列の極限/無限等比数列/無限級数/関数の極限/三角関数と極限/関数の連続性)	・ 数列の極限の概念を理解し、様々な数列の極限が求められるようにする。無限級数については、その極限と各項の極限との関係を理解し、正しく考察できるようにする。 ・ 数列の極限と関連させて関数の極限について理解し、関連して関数の連続性についても理解するとともに、それらを様々な関数の考察に活用できるようにする。
	第 3 章 微分法 (微分係数と導関数/導関数の計算/いろいろな関数の導関数/第 n 次導関数/曲線の方程式と導関数)	・ 微分係数や導関数の定義を理解し、導関数についての様々な性質や公式を導き、それらを導関数の計算に活用できるようにする。 ・ 導関数の定義や公式を適用して、いろいろな関数の導関数を導き、それを用いて関数を微分できるようにする。また、陰関数や媒介変数で表された関数の微分もできるようにし、それらを事象の考察に活用できるようにする。
2 学期	第4章 微分法の実用 (接線の方程式/平均値の定理/関数の値の変化/関数のグラフ/方程式・不等式への応用/速度と加速度/近似式)	・ 導関数を、接線、関数の増減、グラフなどに活用できるようにするとともに、積極的に導関数を活用しようとする姿勢を育てる。 ・ 関数のグラフを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また、点の運動や近似式についても理解し、導関数を様々な方法で活用する姿勢を育てる。
	第5章 積分法とその応用 (不定積分とその基本性質/置換積分法と部分積分法/いろいろな関数の不定積分/定積分とその基本性質/置換積分法と部分積分法/定積分のいろいろな問題)	・ 様々な関数の不定積分やその計算法則を、導関数をもとにして考え、それをもとに不定積分を求められるようにする。 ・ 様々な関数の定積分を求められるようにする。また、定積分を面積として捉え、様々な事象の考察に活用できるようにする。
3 学期	第5章 積分法とその応用 (面積/体積/道のり/曲線の長さ/微分方程式)	・ 定積分を活用して、面積、体積、曲線の長さなどを求められるようにし、またそれらを通じて定積分の理解をさらに深める。

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『NEXT 数学Ⅲ』数研出版
副 教 材	『CONNECT 数学Ⅲ＋C』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60％＋平常点 40％（小テスト、提出課題など）
備 考	

高校 3 年 （数学科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学C	2	必修	AMs GLs	北村・佐藤

目 標	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。また，大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統一的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。		
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統一的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	第 1 章 平面上のベクトル 第 1 節 ベクトルとその演算 ベクトル/ベクトルの演算/ベクトルの成分/ベクトルの内積 第 2 節 ベクトルと平面図形 位置ベクトル/ベクトルの図形への応用/図形のベクトルによる表示	・向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し，成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また，ベクトルの内積について理解し，平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。 ・位置ベクトルについて理解し，位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また，図形をベクトルを用いて表せることを理解し，基本的な図形のベクトル方程式を求めたり，ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。
2 学期	第 2 章 空間ベクトル 空間の点/空間のベクトル/ベクトルの成分/ベクトルの内積/ベクトルの図形への応用/座標空間における図形	・平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え，空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また，それに関連して，座標空間における点や図形について考察できるようにする。
3 学期	第 3 章 複素数平面 複素数平面/複素数の極形式/ド・モアブルの定理/複素数と図形	・複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し，複素数の計算を図形を用いて考察するとともに，図形の考察に複素数の計算を活用できるようにする。
3 学期	第 4 章 式と曲線 第 1 節 2 次曲線 放物線/楕円/双曲線/2 次曲線の平行移動/2 次曲線と直線/2 次曲線と離心率 第 2 節 媒介変数表示と極座標 曲線の媒介変数表示/極座標と極方程式/コンピュータの利用	・放物線，楕円，双曲線の定義や性質を理解し，それらを図示したり，問題の解決に活用したりできるようにする。また，離心率を用いて 2 次曲線を統一的に捉えられるようにする。 ・曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解し，様々な曲線の媒介変数表示について考察できるようにする。また，極座標の仕組みについて理解し，図形を極方程式で表したり，極方程式が表す図形を求めたりできるようにする。さらに，コンピュータを用いるなどして，様々な曲線についてその方程式や概形について，主体的に考察しようとする姿勢を養う。

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	『NEXT 数学C』数研出版
副 教 材	『CONNECT 数学Ⅲ+C』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（小テスト，提出課題など） ただし，1 学期は期末考査のみ実施。
備 考	

高校 3 年 (数学科)

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学演習	3	必修	FT	中山

目 標	「大学入学共通テスト」対策の問題演習を通して、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの学習内容における基礎・標準的な問題を解けるようにする。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につけている。 - 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などを身につけている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	- 問題解決の過程を考察し深め、他に解法がないか、評価・改善しようとする態度をもつ。 - 自分の進路実現のために発展的な問題に取り組む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	『2026 共通テスト対策【実力養成】重要問題演習 数学』 「大学入学共通テスト」に出題されると予想されるタイプの問題を、分野別に基礎から応用まで体系的に復習することにより、「大学入学共通テスト」に対応できる学力を養成する。	「大学入学共通テスト」対策の問題演習を通して、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの学習内容における基礎・標準的な問題を解けるようにする。
2 学期	『2026 共通テスト対策【実力完成】直前問題演習 数学ⅠA』ラーンズ 『2026 共通テスト対策【実力完成】直前問題演習 数学ⅡBC』ラーンズ 1 回 70 分の「大学入学共通テスト」予想問題テキストを用いて、演習とポイント解説を繰り返し、「大学入学共通テスト」本番で高得点を取れるようにする。	

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	なし
副 教 材	『2026 共通テスト対策【実力養成】重要問題演習 数学』ラーンズ 『2026 共通テスト対策【実力完成】直前問題演習 数学ⅠA』ラーンズ 『2026 共通テスト対策【実力完成】直前問題演習 数学ⅡBC』ラーンズ
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40%（提出課題など）
備 考	

高校 3 年 (数学科)

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学 C	3	必修	FT FTs	古山・中山

目 標	・難関国公立大学、私立大学の 2 次試験突破に向けた力を身につける。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 1 つの問題を様々な観点から考えようとする。 ・問題を正確に処理し、多様な方法で解決できる。 ・応用問題を解決するとき、既知の知識と関連付けて問題の意味や計算方法が理解できる。	・具体的な計算など文字を用いて一般化し考察する。 ・科学的考察に積極的に関数を利用し、論理的に表現することができる。	・問題解決の過程を考察し深め、他に解法がないか、評価・改善しようとする態度をもつ。 ・自分の進路実現のために発展的な問題に取り組む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	スタンダード数学演習 I II ABC の入試問題演習 I. 数と式 II. 関数の方程式・不等式 III. 式と証明、論理 IV. 整数の性質	・受験編問題集を用いて、入試問題の良問に数多く触れる。 ・教科書レベルと入試基本レベルのギャップを埋めるための基本的な問題解決方法を扱う。 ・図形問題を中心とした複数分野を関連付けた問題の基本的解法のアプローチを習得する。 ・標準から発展レベルの入試問題を解くことによって、総合力を養う。 ・別解も数多く取り上げ、多面的な理解を促す。 ・大学入試問題を通じて数学における公式、諸性質が暗記的理解ではなく、論理的理解、図的理解ができるようにする。 ・毎回の添削を通して、論述の力を身につける。 ・毎回の添削を通して、間違いやすいポイントを自覚する。 ・公式の導出や解き方など暗記しなければならない項目と、思考力によって解決しなければならない項目を分類できるようになり、粘り強く取り組む姿勢を身に付ける。 ・無理のない答案作成の方法を学び(模範解答の発想は無理がある)、自由に解答できるようになる。 ・受験問題集を仕上げることで、2 次試験に対する自信を身につける。
2 学期	V. 場合の数と確率 VI. 図形の性質 VII. 図形と式 VIII. 三角・指数・対数関数 IX. 微分法・積分法 X. 数列	
3 学期	XI. ベクトル XII. 統計	

授 業 の 形 態	1 クラス 2 展開授業
教 科 書	なし
副 教 材	『新課程 2025 スタンダード数学演習 I・II・A・B・C(ベクトル) 受験編』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60% + 平常点 40% (小テスト、提出課題など)
備 考	・ FT・FTs 合同で難易度別授業を実施 ・夏期休暇中・3 学期に特別授業を行う。

高校 3 年 (数学科)

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
数学Ⅲ	4	必修	FTs	中川

目 標	・ 数学Ⅲ・C 分野の大学入試個別学力試験に対応できる計算力・思考力・論理力を習得する。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 1 つの問題を様々な観点から考えようとする。 ・ 微積分の意味をふまえ、計算を処理することができる。 ・ 問題を正確に処理し、多様な方法で解決できる。	・ 具体的な計算など文字を用いて一般化し考察する。 ・ 科学的考察に積極的に関数を利用し、論理的に表現することができる。	・ 問題解決の過程を考察し深め、他に解法がないか、評価・改善しようとする態度をもつ。 ・ 微積分の考えを既習の内容と関連付ける、物理などに活用する。 ・ 自分の進路実現のために発展的な問題に取り組む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	オリジ・スタン数学演習Ⅲ・C I 複素数平面 / II 式と曲線 / III 関数 IV 極限 / V 微分法とその応用 VI 積分法 / VII 積分法の実用 ＊印の問題	・ 受験編問題集を用いて、入試問題の良問に数多く触れる。 ・ 教科書傍用問題集では十分に扱われなかった内容で、数学的に重要な事項を理解する機会とする。(確率漸化式の極限や直線周りの回転体の体積など) ・ 毎回の添削を通して、論述の力を身につける。 ・ 毎回の添削を通して、間違いやすいポイントを自覚する。 ・ 公式の導出や解き方など暗記しなければならない項目と、思考力によって解決しなければならない項目を分類できるようになり、粘り強く取り組む姿勢を身につける。 ・ 無理のない答案作成の方法を学び(模範解答の発想は無理がある)、自由に解答できるようになる。
2 学期	オリジ・スタン数学演習Ⅲ・C I 複素数平面 / II 式と曲線 / III 関数 IV 極限 / V 微分法とその応用 VI 積分法 / VII 積分法の実用 ＊印以外の問題 生徒の学力に応じて、別教材で対応することもある。	・ また、必要に応じて別解を学び、様々な数学分野を複合的に用いることができることを学ぶ。 ・ 本番と同様に模範解答がない問題を長時間(1 問 30 分程度)考える力を養い、毎日入試問題を解く習慣を身につける。 ・ 1 学期までに数学受験編は一通り完成し、2 学期以降に志望校の過去問に取り組むための素地を作る。 ・ また、数学以外の科目(特に理科)の受験勉強も同時に進めることに配慮し、2 学期以降は数学に余裕をもって取り組めるようにする。
3 学期	12 月以降は共通テスト演習	・ 受験問題集を仕上げることで、2 次試験に対する自信を身につける。

授 業 の 形 態	クラス授業
教 科 書	なし
副 教 材	『新課程 オリジ・スタン数学演習Ⅲ・C』数研出版 『2025 共通テスト対策【実力完成】直前問題演習 数学ⅠA』ラーンズ 『2025 共通テスト対策【実力完成】直前問題演習 数学ⅡBC』ラーンズ
評 価 の 方 法	定期考査 60%＋平常点 40% (小テスト、提出課題など)
備 考	夏期休暇中・3 学期に特別授業を行う。

高校3年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
生物	4	選択	AMs GLs	脇田・八木

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。		
育 成 意 図	知識・技能 ・生物の知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。実験・観察、探究活動を通して習得した科学的に探究する方法と能力を身につける。	思考・判断・表現 ・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。 ・与えられた情報を適切に考察・運用し、未知の事柄を推論できる。	主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	生命現象と物質 ・細胞と分子 ・代謝 生物の進化	・細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解する。 ・多様なタンパク質が、様々な生命活動を支えていることを理解する。 ・代謝を通してエネルギーの出入りを理解する。 ・呼吸と発酵、光合成の仕組みを理解する。 ・地球の誕生から、無機物から有機物、有機物から生命の発生を理解する。 ・遺伝子の変化を学び、多様性が生まれる仕組みを理解する。 ・進化の仕組みを理解し、ヒトを含めた生物の進化系統を理解する。
2 学期	遺伝情報の発現と発生 生物の環境応答 ・動物の反応と行動 ・植物の環境応答	・DNA の構造とその複製の仕組みを理解する。 ・遺伝情報発現の仕組み及び発現調節の概要を理解する。 ・発生と遺伝子の発現が調節される仕組みの概要を理解する。 ・遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性と課題を理解する。 ・受容器が刺激を受け取り、効果器が反応するしくみを理解する。 ・ニューロンに興奮が生じるしくみを理解し、ヒトの神経系について理解する。 ・様々な動物の行動について理解する。 ・植物の成長や反応に植物ホルモンがどのように関わっているか理解する。 ・植物の器官の分化が起こるしくみについて理解する。
3 学期	生態と環境 ・生物群集と生態系	・生態系における生物どうしの関係について理解する。 ・人間生活による生態系への影響を理解する。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・グループ学習・実験
教 科 書	『生物』数研出版
副 教 材	『ニューステージ新生物図表』浜島書店、『リードLight ノート生物』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60％＋平常点 40％（実験レポート、提出物、授業態度等）
備 考	

高校 3 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
物理	4	選択	AMs・GLs	水野・水谷

目 標	- 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。 - 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 - 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
育 っ た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 物理学の基本的な概念や原理・法則を正しく理解する力を育む。 - 科学的に探究するために必要な観察、実験の技能を育む。	物理的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を育む。	物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究する力を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	- 剛体のつり合い - 運動量と力積	○ 観察や実験を目的に応じて適切に実施する力の獲得 - 物理的な事物・現象から問題を見だし、科学的に探究するために明らかにすべき事項を整理できる - 実験目的を達成するための実験方法を検討できる - 実験を適切に実施し、実験データを取得できる ○ 観察や実験の結果を科学的に分析する力の獲得
	円運動と単振動	
	- 万有引力 - 気体分子の運動	
2 学期	- 電界と電位 - 電流	・観察や実験の結果を第三者にも伝わるように表やグラフを利用して、まとめることができる ・観察や実験の結果が期待される結果に対して妥当であるかどうかの検討を行い、見通しをもつことができる。また、必要に応じて自発的に再実験や追加実験を行うことができる ○ 観察や実験の分析結果を物理の観点から論理的に考察する力の獲得 - 物理学の基本的な概念や原理・法則から考えられる結果と比較することで得られた実験データの正当性や物理法則の正当性を吟味できる - 実験結果の考察からより良い実験方法の提案や実験の実施ができる ○ 物理法則を一般的・抽象的な場面に適用する力の獲得
	- 電流と磁界 - 電磁誘導	
	交流	
3 学期	- 波の性質 - 音 - 光	・具体例を通じて学習したり探究したりして獲得した物理法則を異なる実験や問題集の問題に適用し、課題を解決することができる
	- 電子と光 - 原子・原子核・素粒子	

授 業 の 形 態	講義・実験など
教 科 書	『高等学校 物理』啓林館
副 教 材	『改訂版 リードα 物理』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 60% + 平常点 40% (授業への取り組み、レポートなど)
備 考	

高校3年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
化学	2	必修	AMs・GLs	藤田

目 標	・化学的な事物・現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に、かつ他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・化学の基礎・基本となる原理・概念・法則を正しく理解する。 ・実験・観察、探究活動を通して、基本操作を習得するとともに、それらの過程を記録、整理し、科学的に探究する。	・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。 ・与えられた情報を適切に考察・運用し、未知の事柄を推論できる。	・実生活と化学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	＝有機化合物＝ ・有機化合物の基礎 ・有機化合物の特徴と構造 ・脂肪族炭化水素 ・酸素を含む有機化合物	・有機化合物の性質や反応を、構造と関連づけて理解する。 ・主な有機化合物について、構造や性質を理解し、それらの化合物が生活と深く関わっている事を理解する。 ・学習内容を実験・観察を通して確認し、理解を深めるとともに、探究の方法を身につける。
2 学期	＝有機化合物＝ ・芳香族化合物 ＝高分子化合物＝ ・天然高分子化合物	・主な芳香族化合物について、構造や性質を理解し、それらの化合物が生活と深く関わっている事を理解する。 ・高分子化合物の特徴を理解するとともに、生命現象や食品、繊維、樹脂、薬品など身近な高分子化合物と関連付けて考察できるようにする。 ・学習内容を実験・観察を通して確認し、理解を深めるとともに、探究の方法を身につける。
3 学期	・合成高分子化合物	（2 学期と同様）

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・実験・グループワーク
教 科 書	『化学』数研出版
副 教 材	『新課程版セミナー化学』第一学習社
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（実験レポート、課題演習、小テストなど）
備 考	・基礎基本の習得を確実にする為に授業課題・小テスト等を実施する。 ・実験観察を重視し、自ら実験結果・考察をまとめる力を育成する為に実験レポートを課する。

高校３年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
理科基礎演習(化学基礎演習)	2	必修	FT	江島

目 標	- 日常生活や社会と関連の深い物質を通して、物質の具体的な性質や反応の理解を基に、観察・実験の結果から課題を解決する力や、物質が適切に利用され、化学が果たしている役割を理解する力を養う。 - 大学入学共通テストにおいて90%以上の正解率を目指して、演習力を身につける。		
育 っ て い た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	演習を通して、 - 化学の基礎・基本となる知識・概念を正しく理解し、身につける。 - 実験・観察、探究活動を通して、基本操作を習得するとともに、それらの過程を記録、整理し、科学的に探究する。	演習を通して、 - 学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。 - 与えられた情報を適切に考察・運用し、未知の事柄を推論できる。	演習を通して、 実生活と科学との関わりへの興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	=教科書の内容確認・入試問題演習= 分野別（物質の構成、物質の構成粒子、粒子の結合、物質量と化学反応式、酸と塩基、酸化と還元）に基礎事項の確認と基礎的な問題の演習	- 教科書の内容について総復習を行い、基本・基礎となる知識や概念を確認するとともに、問題演習によって与えられた情報を適切に考察・運用する技術の習得を目指す。 - 問題を解く上で必要な知識を総合的にとらえる。 - 基礎知識を活用して、論理的に考える力を養う。
2 学期	=入試問題演習= 分野別（物質の構成、物質の構成粒子、粒子の結合、物質量と化学反応式、酸と塩基、酸化と還元）および分野融合した思考力、判断力等を確かめるためのより発展的な問題の演習	- 基礎的な知識や理解を組み合わせながら思考判断できる力を養う。 - 制限時間内に要領よく解く技術も身につける。
3 学期		

授 業 の 形 態	一斉授業／講義・演習ゼミ
教 科 書	『化学基礎』数研出版（購入済み：1年次使用）
副 教 材	『大学入学共通テスト対策 チェック&演習 化学基礎』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（確認テスト、ノート、問題演習、小テスト）
備 考	- 予習課題の入試問題を、生徒もしくは教師が解説をする。 - 既習内容を整理したり、場合によっては、実験で確認したりしながら授業を進める。 - 目標達成のためには、予習をしていくことが前提であり、この作業が極めて重要である。 - 模試の過去問や大学入学共通テスト・センター過去問を利用する。 - スタディサブリの活用を薦める。

高校3年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
理科基礎演習（生物基礎演習）	2	選択	FT	山本唱

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観を育成する。		
育 て た い 力	知識・技能 ・生物の知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。実験・観察、探究活動を通して科学的に探究する方法と能力を身につける。	思考・判断・表現 ・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。 ・与えられた情報を適切に考察・運用し、未知の事柄を推論できる。	主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	総復習 ・生物の特徴 ・遺伝子とそのはたらき ・ヒトの体内環境の維持 ・生物の多様性と生態系 計算問題演習	全範囲の総復習を行い、重要な生命現象を再確認する。 副教材を活用しながら視覚的に生命現象を捉えられるようにする。 小テストを毎週実施することで知識の定着を確認する。 各模擬試験前に過去問を解き出題形式に慣れる。 計算問題を解くうえでの基本的な知識や考え方を確認し、基本的な数字の扱い方を学ぶ。
2 学期 3 学期	入試問題演習	センター試験や共通テストの過去問演習を行う。 共通テストでの実験考察問題を通して、実験データの見方や考え方を身に着ける。 基礎学力の定着および受験レベルへの学力向上を図る。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教 科 書	『生物基礎』数研出版
副 教 材	『ニューステージ新生物図表』浜島書店、『リードα生物基礎』数研出版 『進研 WINSTEP 生物基礎』ラーンズ
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（レポートを含む提出物・授業態度等を総合的に評価）
備 考	共通テストに対応できる考察力や推察力を身に着け、得点率 90%を目指す。

高校 3 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
理科基礎演習（物理基礎演習）	2	選択	FT	2025 年度 不開講

目 標	- 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。 - 観察、実験などを行い科学的に探究する力、物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。 - 自ら学習を振り返り、自己調整学習ができる力を身につける。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	- 物理学の基本的な概念や原理・法則を正しく理解する力を育む。 - 科学的に探究するために必要な観察、実験の技能を育む。	物理的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を育む。	- 物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究する力を育む。 - 自ら学習目標を設定し、振り返りをしながら、学習する力を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
----	---------	--------

1 学期	物理基礎実験 教科書の内容を中心に観察、実験などを行い、知識の理解に加えて、得られた結果を分析して解釈し、表現する。	科学的に探究する力の育成 2 年次の物理基礎と同様に、物理的な事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行う。実験で得られた結果を分析して解釈し、表現する活動を通して、思考・判断・表現力を身につける。
2 学期	- 理解度に応じた学習の展開 既習内容に対する各自の理解度に応じて自ら学習を設計し、物理学の基本的な概念や原理・法則を正しく理解することを目指す。 - 問題演習 大学入学共通テストを見据えた問題演習を行う。	- 自己調整学習を進める力の獲得 既習内容の理解度は各々で異なるため、それぞれの理解度に応じて、自身が取り組むべき学習を自ら設計し、日々の学習を振り返りながら自ら調整できる力を身につける。また、学習を通して、物理学の基本的な概念や原理・法則を正しく理解していく。 - 教科書での学びや実験での学びを用いて問題演習に取り組み、それらの知識の活用の仕方を学ぶ。
3 学期		

授業の形態	講義・実験など
教科書	『高等学校 物理基礎』啓林館
副教材	『改訂版 リード light ノート 物理基礎』数研出版 『新課程 大学入学共通テスト対策チェック&演習 物理基礎』数研出版
評価の方法	考查点 70%＋平常点 30%（授業への取り組み・レポートなど）
備考	

高校 3 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
化学	3	必修	FTs	宮嶋

目 標	・化学的な事物・現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察，探究活動を通して，科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎・基本となる知識・概念の理解を深め，科学的な自然観の育成を図る。		
育 て たい 力	知識・技能 ・化学の基礎・基本となる原理・概念・法則を正しく理解する。 ・実験・観察，探究活動を通して，基本操作を習得するとともに，それらの過程を記録，整理し，科学的に探究する。	思考・判断・表現 ・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し，表現できる力を養う。 ・与えられた情報を適切に考察・運用し，未知の事柄を推論できる。	主体的に学習に取り組む態度 ・実生活と化学との関わりへの興味関心を高め，科学的に探究しようとする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	＝有機化合物＝ 高分子化合物 ・天然高分子化合物 ・合成高分子化合物	・高分子化合物の特徴を理解するとともに，生命現象や食品，繊維，樹脂，薬品など身近な高分子化合物と関連付けて考察できるようにする。 ・学習内容を実験・観察を通して確認し，理解を深めるとともに，探究の方法を身につける。
2 学期	＝入試問題演習＝ ・分野別（物質の状態，物質の変化，有機化合物）に基礎的な問題および応用的な問題	・計算問題や論述問題の解法を身につける。 ・基礎から発展レベルの入試問題を解くことにより総合力を養う。 ・問題を解く上で必要な知識を総合的にとらえ，活用する力を養う。 ・制限時間内に答案を作成する技術を身につける。
3 学期	＝大学入学共通テスト対策演習＝ 二次試験対策演習	（2 学期と同様）

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教 科 書	『化学』数研出版
副 教 材	『2025 化学重要問題集』数研出版 『大学入学共通テスト対策 チェック&演習 化学』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（実験レポート，ノート，問題演習，小テスト，など）
備 考	・基礎基本の習得を確実にする為に小テストを実施する。 ・実験観察を重視し，自ら実験結果・考察をまとめる力を育成する為に実験レポートを課する。 ・演習の授業については，予習してくることを前提とし，問題の解法について考察する。 ・スタディサブリの活用を薦める。

高校3年（理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
生物	3	選択	FTs	山本唱

目 標	・身の回りの自然現象等への興味・関心を高め、自然科学・技術を正しく活用しようという態度や倫理観を育む。 ・学習内容と実験・観察データを統合・判断して、論理的・科学的に他人に理解できるようにわかりやすく表現できる力をつける。 ・実験・観察、探究活動を通して、科学的に探究する方法と能力を身につける。 ・自然科学の基礎や基本となる知識・概念の理解を深め、科学的な自然観の育成を図る。		
育 て た い 力	知識・技能 ・生物の知識・概念を正しく理解し、科学的な自然観を育む。実験・観察、探究活動を通して科学的に探究する方法と能力を身につける。	思考・判断・表現 ・学習内容と実験結果から正しく現象を考察し、表現できる力を養う。 ・与えられた情報を適切に考察・運用し、未知の事柄を推論できる。	主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの自然現象等への興味関心を高め、科学的に探究しようとする態度を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	第4編 生物の環境応答 第6章 植物の環境応答 第5編 生物と環境 第7章 生物群集と生態系	・植物が環境変化に反応する仕組みを理解する。 ・植物の成長や反応に植物ホルモンがどのように関わっているか理解する。 ・植物の発生および器官の分化が起こるしくみについて理解する。 ・個体群とその変動、生物群集とその成り立ちについて理解する。 ・生態系における物質生産とエネルギー効率、生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。
2 学期	生物基礎と生物 ・共通テスト対策および大学受験入試問題演習 ・実験演習	・副教材を活用しながら基礎学力の定着および受験レベルへの学力向上を図る。 ・問題を解く上で必要な知識を総合的にとらえる。 ・単なる暗記ではなく、論理的に考える力を養う。 ・実験演習や過去問演習を通して、受験問題を想定した実験的思考の向上を目標とする。
3 学期	生物基礎と生物 ・共通テスト対策および大学受験問題演習	・受験予定大学に向けた傾向と対策を実施し、受験レベルへの学力向上を図る。

授 業 の 形 態	クラス授業／一斉授業／講義・実験
教 科 書	『生物』数研出版
副 教 材	『ニューステージ新生物図表』浜島書店、『リードα 生物』数研出版
評 価 の 方 法	定期考査 70%＋平常点 30%（レポートを含む提出物・授業態度等を総合的に評価）
備 考	理科系大学（特に医学・薬学・農学）に対応できる力を養成する内容を重点的に学習させ、実験データを応用的にレポートに纏める能力の涵養を目指す。

高校 3 年 （理科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
物理	3	選択	FTs	水谷

目 標	・物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
育 て たい 力	知識・技能 ・物理学の基本的な概念や原理・法則を正しく理解する力を育む。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験の技能を育む。	知識・技能 ・物理学の基本的な概念や原理・法則を正しく理解する力を育む。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験の技能を育む。	知識・技能 ・物理学の基本的な概念や原理・法則を正しく理解する力を育む。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験の技能を育む。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・電界と電位 ・電流と磁界 ・電流	○ 観察や実験を目的に応じて適切に実施する力の獲得 ・物理的な事物・現象から問題を見だし、科学的に探究するために明らかにすべき事項を整理できる ・実験目的を達成するための実験方法を検討できる ・実験を適切に実施し、実験データを取得できる ○ 観察や実験の結果を科学的に分析する力の獲得 ・観察や実験の結果を第三者にも伝わるように表やグラフを利用して、まとめることができる
2 学期	・電磁誘導と電磁波 ・電子と光 ・原子・原子核・素粒子 ・物理入試問題演習	・観察や実験の結果が期待される結果に対して妥当であるかどうかの検討を行い、見通しをもつことができる。また、必要に応じて自発的に再実験や追加実験を行うことができる。 ○ 観察や実験の分析結果を物理の観点から論理的に考察する力の獲得 ・物理学の基本的な概念や原理・法則から考えられる結果と比較することで得られた実験データの正当性や物理法則の正当性を吟味できる ・実験結果の考察からより良い実験方法の提案や実験の実施ができる ○ 物理法則を一般的・抽象的な場面に適用する力の獲得
3 学期	・物理入試問題演習 ・大学入学共通テスト演習	・具体例を通じて学習したり探究したりして獲得した物理法則を異なる実験や問題集の問題に適用し、課題を解決することができる

授 業 の 形 態	講義・実験など
教 科 書	『高等学校 物理』啓林館
副 教 材	『新課程版 セミナー 物理基礎＋物理』第一学習社
評 価 の 方 法	定期考査 40%＋平常点 60%（単元テスト・授業への取り組み・レポートなど）
備 考	

高校3年（保健体育科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
体育	3	必修	AM・AMs・GL・GLs	白井・吉田拓・横江川・脇屋敷・上野・山岡

目 標	・運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付ける。 ・運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保し、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身に付ける。		
育 て た い 力	知識・技能 ・技術の名称や行い方を理解する力 ・技能や身につけた動きをより高め、記録や技に挑戦する力 ・自己のねらいに応じて体力の向上をはかる力	思考・判断・表現 ・運動を継続する意義を理解する力 ・体力の高め方を理解する力 ・自分の体調に気付く力	主体的に学習に取り組む態度 ・ 自主的に取り組む力 ・ ルールやマナーを守る力 ・ 道具や施設を大切に扱う力 ・ 互いの違いや良さを認め合う力 ・ 自己の責任を果たす力

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1学期	・オリエンテーション・集団行動 ・新体力テスト ・体づくり運動 ・選択Ⅰ期 ・体育理論	・授業のルールやマナーを再確認し、安全かつ円滑に進めるようにする。 ・新体力テストを実施し、前回の記録を踏まえ、自己の能力や課題を知り、実践につなげる。 ・基礎体力の向上をはかる。 ・主体的に取り組む、ゲームの運営や課題解決の方法を理解する。 ・運動やスポーツについての理解を深める。
2学期	・選択Ⅱ期 ・持久走 ・体育理論 ・選択Ⅲ期	・主体的に取り組む、ゲームの運営や課題解決の方法を理解する。 ・自己の課題に応じて、ペースを設定して走ることができる。 ・運動やスポーツについての理解を深める。
3学期	・選択Ⅲ期	・主体的に取り組む、ゲームの運営や課題解決の方法を理解する。

授 業 の 形 態	3クラス合同授業（選択授業時は4講座制）
教 科 書	『現代高等保健体育』 大修館書店
副 教 材	『現代高等保健体育ノート』 大修館書店
評 価 の 方 法	・ 評価点100% ・ 実技…運動能力だけでなく、自主的・積極的に参加する姿勢や規範意識の姿勢を重視する。 ・ 欠課1につき2点、忘れ物や遅刻1回につき1点を差し引く。
備 考	・ 体づくり運動を通年実施し、体力の維持・向上をはかる。 ・ 指定の体操服を着用し（見学者も同様）、体育館更衣室で着替えること。 ・ 見学が必要な場合は、筆記用具持参の上、必ず授業時間前に体育準備室の教員に申し出ること。 ・ 途中でケガや気分が悪くなった場合は必ず担当教員に申し出ること。 ・ 身体的理由で長期間の見学が必要な場合は、担当教員の指示に従う。

高校3年（保健体育科）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
体育	3	必修	FT・FTs	白井・吉田拓・横江川・山岡

目 標	- 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。 - 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付ける。 - 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にすることなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保し、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身に付ける。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 技術の名称や行い方を理解する力 - 技能や身につけた動きをより高め、記録や技に挑戦する力 - 自己のねらいに応じて体力の向上をはかる力	- 運動を継続する意義を理解する力 - 体力の高め方を理解する力 - 自分の体調に気付く力	- 自主的に取り組む力 - ルールやマナーを守る力 - 道具や施設を大切に扱う力 - 互いの違いや良さを認め合う力 - 自己の責任を果たす力

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	- オリエンテーション・集団行動 - 新体力テスト - 体づくり運動 - 選択Ⅰ期 - 体育理論	- 授業のルールやマナーを再確認し、安全かつ円滑に進めるようにする。 - 新体力テストを実施し、前回の記録を踏まえ、自己の能力や課題を知り、実践につなげる。 - 基礎体力の向上をはかる。 - 主体的に取り組み、ゲームの運営や課題解決の方法を理解する。 - 運動やスポーツについての理解を深める。
2 学期	- 選択Ⅱ期 - 持久走 - 体育理論 - 選択Ⅲ期	- 主体的に取り組み、ゲームの運営や課題解決の方法を理解する。 - 自己の課題に応じて、ペースを設定して走ることができる。 - 運動やスポーツについての理解を深める。
3 学期	選択Ⅲ期	主体的に取り組み、ゲームの運営や課題解決の方法を理解する。

授 業 の 形 態	3 クラス合同授業（選択授業時は4 講座制）
教 科 書	『現代高等保健体育』 大修館書店
副 教 材	『現代高等保健体育ノート』 大修館書店
評 価 の 方 法	- 評価点100% - 実技…運動能力だけでなく、自主的・積極的に参加する姿勢や規範意識の姿勢を重視する。 - 欠課1につき2点、忘れ物や遅刻1回につき1点を差し引く。
備 考	- 体づくり運動を通年実施し、体力の維持・向上をはかる。 - 指定の体操服を着用し（見学者も同様）、体育館更衣室で着替えること。 - 見学が必要な場合は、筆記用具持参の上、必ず授業時間前に体育準備室の教員に申し出ること。 - 途中でケガや気分が悪くなった場合は必ず担当教員に申し出ること。 - 身体的理由で長期間の見学が必要な場合は、担当教員の指示に従う。

高校3年 (外国語科：英語)

科 目	単位数	種別	対象生徒	担当教諭
Expression II	2	必修	AM・AMs	Romel Barrow・Ashley Tisdale・Geoffrey Grant 吉本・久野・寺本

目 標	・テーマについて深く考え、根拠に基づいた論理的で偏りのない思考や、自己の思考・感情を意識的に振り返る内省的な思考を行う力を身につける。 ・プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の多様な言語活動を通して、英語を用いて意見やアイデアをやりとりするための英語運用能力を養う。 ・英語論文の一般的な構造や学術英語表現の特徴を理解し、英語論文作成のための自律的学習を行う力を養う。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動を通じてさまざまなトピックに関する情報や自分の意見を英語で話したり、まとまった文章で表現したりできる。	・聞いたり読んだりしたことを学習や経験に基づき、情報や考えをまとめて発表する。 ・また発表されたものを聞いて、質問したり、意見を述べたりする。	・さまざまな分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での英語学習に取り組む姿勢を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	作文を通して英語の表現力を高める。また、エッセイを書くだけでなく、創造性を生かしてプロットを書き上げるプロジェクトや、ストーリーボードのアイデア作りにも挑戦する。学期末には、与えられたテーマについて英語で論述したり、プレゼンテーションやディベートで、あらゆるテーマやメッセージについて自分の考えを発信する。 活動例) ・ Academic Writing - Basic Essay Structure - Compare and Contrast - Cause and Effect - Argument Essay	◆Thinking ・身の回りにある問題や社会性のある課題に関して、論理的に思考することができる。 ・独自のアイデアを創ることができる。 ・物事の優劣を比較検討することができる。 ◆Reading ・日常生活での実用的な文章の要点や意図を理解できる。 ・社会性のある分野について書かれた文章の概要を把握し、その要点や意図を理解できる。 ◆Listening ・日常生活の話題や、社会性のある分野について話された一定の長さの内容・会話を聞いて、全体を把握することができる。 ◆Speaking ・日常生活の話題や、社会性のある分野について、場面や目的に応じて一定の長さで自分の意志と理由を述べることができる。 ・準備なしで即興的に発表したり、やりとりしたりすることができる。 ・読んだり聞いたりしたことを受けて、即興的に質問したり、質問に対応することができる。 ◆Writing ・論理的に考え、根拠に基づいて、一貫性のある文章を書くことができる。 ・言語の使用場面と働きを理解し、状況に応じて適切な表現を正しく使うことができる ・英語による論文の書き方について学び、段落構成に関する理解を深め、アカデミックな英語論文が書けるようになる。 ◆Vocabulary ・様々な活動のなかで必要とされる表現を積極的に活用しながら、語彙を豊かにすることができる。 ◆Presentation / Discussion / Debate ・聞き手の興味を引き付け、考えや意図を効果的に伝えられるプレゼンテーションができる。 ・情報を整理し、自分の意見や価値観を積極的に発信し、共有することができる。 ・論題に対し、根拠をベースに論理的に思考し、英語で相手を説得することができる。
2 学期・ 3 学期	2 学期以降は Discussion や Presentation などの活動を実施しながら内容についての思考を深め、そこから Academic Writing の活動につなげていく。 活動例) ・ Discussion - Group Discussion - Triangle Discussion - Situational English ・ Presentation/ Debate - Micro Debate - Group Debate	

授業の形態	クラス授業（日本人教員とネイティブ教員による、アウトプットを主体とした授業）
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する (単元テスト、課題提出、スピーチやプレゼンテーションなどのパフォーマンス課題など)
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する

高校３年 （外国語科：英語）

科 目	単位数	種 別	対象生徒	担当教諭
英語コミュニケーションⅢ	4	必修	AM・AMs・GL・GLs	由谷・吉本・山内・山菅

目 標	- 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報やアイデアなどを的確に理解したり適切に伝えたりする態度を養う。 - 国際化社会に対応できる英語運用能力を高めるために、個人およびペア・グループでの様々な活動を通し、その基盤となる「読む」「聞く」「話す（発表・やりとり）」「書く」力、英語力・表現力を身につける。また、聴き手として発表について即興で質問するなど、積極的に話し手に関わるための英語力も高める。 - 相手の発言を受けて発言したり質問したりするディスカッション活動など、英語を使ったやりとりを通して、自分の意見やアイデアを作ったり、吟味したりする力を養う。 - 各自が学びの目標を設定し、学びのプロセスを計画・実施し、振り返りを通して学びのサイクルを身につけていく。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	- 語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用技能を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解できる。 - 場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢やイントネーションを身につける。 「読むこと」「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の活動を通じて、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。	- 論説文や物語文に慣れ、様々な英文の要旨を理解できる。 - 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連を理解できる。	- 様々な分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に自らの課題・学習に取り組む姿勢を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・ L1 How Language Shapes the Way We Think 言語が思考にもたらす影響 ・ L2 Weak Robots 手助けを必要とする「弱い」ロボットについて 活動：ディスカッションを通してロボットと人間の共生の道を探る ・ L3 Fake News Is Everywhere: Beware! フェイクニュースの危険性と対処法 活動：嘘のような本当の話・本当のような嘘の話を紹介する発表などを行う ・ L5 How to Beat Procrastination 「先延ばし癖」の克服方法 活動：自らの癖の分析と対処を考え、発表などを行う	様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能を身につけることを目標とする。 ◆Listening / Reading ・さまざまなテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握のもとに的確に情報を得ることができる。また、関連する英文を主体的に読み、理解を深めることができる。 ◆Speaking（会話・発表） ・得た情報をもとに、自らの意見を伝えたり、課題解決に向けたやりとりをしたりすることができる。また相手の発言等に即興で質問することができる。 ◆Writing ・英文を読んだり、やりとりをしたりして得た情報をもとに、自らの考えなどを一定量の英文で書くことができる。 ◆Discussion / Debate ・課題に対して、協働的に話し合い、やりとりをすることにより、解決策を提案したり、自らの意見をより深めたりすることができる。
2 学期	・ L6 Today's Treasure, Tomorrow's Trash 環境にやさしい消費行動とは 活動：周りの環境と自分達の行動について議論などを行う ・ L8 Super Clone Cultural Properties スーパークローン文化財が生む新しい視点 活動 1：宮迫教授のドキュメンタリービデオ作製などを行う 活動 2：どのようなクローンで付加価値を生むかを考え発表などを行う ・ L10 Does Money Make You Mean? 裕福さは思いやりを奪うか？ 活動：お金に関する自分の仮説とリサーチの発表や議論で考えを深める	
3 学期	・ 3年間の学びを振り返り、自分にとっての立命館守山とはどのような場所だったのかを考える。また学校への提案や自身の総括を発表する。 ＊スピーチコンテスト	

授 業 の 形 態	クラス授業（ペアやグループでの言語活動を含む、学習者が主体となる授業）
教 科 書	『CROWN English Communication III』三省堂
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する （平常点は、単元テスト・パフォーマンステスト・プレゼン・スピーチ・課題提出など）
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する

高校３年 （外国語科：英語）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
英語コミュニケーションⅢ	4	必修	FT・FTs	久野

目 標	- 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報やアイデアなどを的確に理解したり適切に伝えたりする態度を養う。 - 国際化社会に対応できる英語運用能力を高めるために、個人およびペア・グループでの様々な活動を通し、その基盤となる「読む」「聞く」「話す（発表・やりとり）」「書く」力、英語力・表現力を身につける。また、聴き手として発表について即興で質問するなど、積極的に話し手に関わるための英語力も高める。 - 相手の発言を受けて発言したり質問したりするディスカッション活動など、英語を使ったやりとりを通して、自分の意見やアイデアを作ったり、吟味したりする力を養う。 - 各自が学びの目標を設定し、学びのプロセスを計画・実施し、振り返りを通して学びのサイクルを身につけていく。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 語彙・構文・文法・発音等についての知識や、その運用技能を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解できる。 - 場面や状況に応じたふさわしい表現や強勢やイントネーションを身につける。 「読むこと」「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の活動を通じて、様々な話題に関する情報や自分のアイデアを英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。	- 論説文や物語文に慣れ、様々な英文の要旨を理解できる。 - 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連を理解できる。	- 様々な分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に自らの課題・学習に取り組む姿勢を身につける。

時 期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学 期	・ L1 How Language Shapes the Way We Think 言語が思考にもたらす影響 ・ L2 Weak Robots 手助けを必要とする「弱い」ロボットについて 活動：ディスカッションを通してロボットと人間の共生の道を探る ・ L3 Fake News Is Everywhere: Beware! フェイクニュースの危険性と対処法 活動：嘘のような本当の話・本当のような嘘の話を紹介する発表などを行う ・ L5 How to Beat Procrastination 「先延ばし癖」の克服方法 活動：自らの癖の分析と対処を考え、発表などを行う	様々な言語活動に取り組み、英語運用に必要なあらゆる技能を身につけることを目標とする。 ◆Listening / Reading ・さまざまなテーマについて書かれた英文を読んだり聴いたりして、その文章構造の正しい把握のもとに的確に情報を得ることができる。また、関連する英文を主体的に読み、理解を深めることができる。 ◆Speaking（会話・発表） ・得た情報をもとに、自らの意見を伝えたり、課題解決に向けたやりとりをしたりすることができる。また相手の発言等に即興で質問することができる。
2 学 期	・ L6 Today's Treasure, Tomorrow's Trash 環境にやさしい消費行動とは 活動：周りの環境と自分達の行動について議論などを行う ・ L8 Super Clone Cultural Properties スーパークローン文化財が生む新しい視点 活動 1：宮迫教授のドキュメンタリービデオ作製などを行う 活動 2：どのようなクローンで付加価値を生むかを考え発表などを行う ・ L10 Does Money Make You Mean? 裕福さは思いやりを奪うか？ 活動：お金に関する自分の仮説とリサーチの発表や議論で考えを深める	◆Writing ・英文を読んだり、やりとりをして得た情報をもとに、自らの考えなどを一定量の英文で書くことができる。 ◆Discussion / Debate ・課題に対して、協働的に話し合い、やりとりをすることにより、解決策を提案したり、自らの意見をより深めたりすることができる。
3 学 期	・ 3年間の学びを振り返り、自分にとっての立命館守山とはどのような場所だったのかを考える。	

授 業 の 形 態	クラス授業（ペアやグループでの言語活動を含む、学習者が主体となる授業）
教 科 書	『CROWN English Communication III』三省堂
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する （平常点は、単元テスト・パフォーマンステスト・プレゼン・スピーチ・課題提出など）
備 考	・上記の他、オリジナル教材を使用する

高校3年（外国語科：英語）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
英語演習	2	必修	FT・FTs	二宮

目 標	・大学入試に向けて、自らの目標を高く持ち、自らの力でさまざまな問題を解決（解答）することを目指し、総合的・協力的に学ぶ力を手に入れる。 ・基本となる英語力の定着から大学入学共通テストレベルの教材を用いて主体的なより深い読みを進めながら、大学入学共通テスト「外国語（英語）」（筆記・リスニング）で効率的・的確に解答できる力を養い、得点率80%を目指す。 ・国公立二次および難関私立大学入試対策として、より難易度の高い問題演習を行い、希望進路の実現に必要な英語力を養う。		
	知識・技能 ・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解できる。 ・英語の論説文や物語文に慣れ、さまざまな英文の要旨を理解できる。 ・論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連を考える。 ・長短さまざまな英文を速読し、要旨を理解できる。また、必要に応じて難解な文の意味を理解し、適切な日本語に訳せる。	思考・判断・表現 ・さまざまなトピックに関する自分の意見を英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。 ・情報や考えなどを豊富な語彙や学習した表現を用いて表現することができる。 ・英語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解できる。 ・さまざまな分野の知識を増やし、幅広い視点で物事を考えることができる。	主体的に学習に取り組む態度 ・さまざまな分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内での課題に取り組み、自主的に授業外での英語学習に取り組む力を身につける。 ・自分の苦手分野を克服する手だてを考え、明確な数値目標を立て、実践する。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
通年	高校英文法の整理と問題演習 入試問題の実践演習と解説 ・大学入試リスニング対策 ・共通テスト及び二次試験に向けた長文読解問題対策 ・英作文（自由英作含む）問題対策 ・その他、弱点対策など *実践的な演習を通じて、基礎基本の整理から、二次対策に向けたレベルの高い記述まで行うため、学期やタームを超えて、年間を通じて上記内容に主体的に取り組む。	さまざまな問題演習を通じて、自分自身の力で、多様な形式の大学入試問題に対応できる力を養う。 読む力 ・英文の段落構成や段落の要旨がすばやく理解できる。 ・長文を客観的・論理的に読み、早く正確な内容把握ができる。 ・設問に対する情報をすばやく検索できる。 ・英文の背景となる言語的・文化的・社会的な事実を理解できる。 書く力 ・正確な文法・文構造・構文の知識に基づき、正確に表現できる。 ・読む、聴く活動を通して得た情報を整理し、正確に表現できる。 ・与えられたトピックに対し、自分の意見をまとめた英文で書くことができる。 聴く力 ・会話に特有の口語表現や感情表現を理解し、場面や状況に応じた会話の流れを判断できる。 ・長めのダイアローグを聴いて、話題となっている資料の内容を理解することができる。 ・速度の速い英文を聴いて、英語の語順のまま内容を理解することができる。 語彙・表現等に関する力 ・語彙力を増強するための戦略的な学習法を学び、それを実践できる。 ・文中の論理的根拠を基に未習語・難語句の大体の意味を類推できる。 ・読解や聴解で、語彙・語法・イディオム・文法の知識を活用して、次にどんな情報が出てくるかを推論するために役立てることができる。
(3学期)	・個別試験対策	各大学の二次試験や難関私大入試に応じた対策学習を行い、希望の進路を実現する。

授 業 の 形 態	クラス授業（自らで考え、自らで理解を進めていく。必要に応じてグループで協働的に演習を進めていく）
教 科 書	なし
副 教 材	『SKYWARD COSMOS Course 2nd Edition 最新入試英語長文18選』 桐原書店 *大学入学共通テスト対策用の演習問題集等については、年度途中で最新のものを購入し、使用する予定
評 価 の 方 法	定期テストは行わない（学んだことの理解度を授業内テストなどで確認し、平常点として評価する）
備 考	上記の他、オリジナル教材やこれまでの補助教材等を使用する

高校 3 年 （外国語科：英語）

科 目	単位数	種 別	対象生徒	担当教諭
Academic Writing	2	必修	GL	Green Stephen・Ashley Tisdale

目 標	・高校 2 年時の Critical Thinking や Expression I に基づいて、より高度で国際的なテーマについて深く考え、根拠に基づいた論理的で偏りのない思考や、自己の思考・感情を意識的に振り返る内省的な思考を行う力を身につける。 ・プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の多様な言語活動を通して、英語を用いて意見やアイデアをやりとりするための英語運用能力を養う。 ・培ったスキルを積極的に活用し、明瞭で結束性の高いエッセイやレポートを書く力を養う。 ・英語論文の一般的な構造や学術英語表現の特徴を理解し、英語論文作成のための自律的学習を行う力を養う。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動を通じてさまざまなトピックに関する情報や自分の意見を英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。	・聞いたり読んだりしたことを学習や経験に基づき、情報や考えをまとめて発表する。 ・また発表されたものを聞いて、質問したり、意見を述べたりする。	・さまざまな分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での英語学習に取り組む姿勢を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
	国際的な諸問題を自分事としてとらえ、周りを巻き込んで解決していく姿勢を以下の活動を通して養う。年間を通して様々なテーマに基づく単元学習を設定し、①Academic Writing、②Presentation、③Discussion、④Debate などの活動をベースに内容についての思考を深める。 ① Academic Writing - Basic Essay Structure Review - Compare and Contrast - Research Essay ② Presentation - Group Presentation - Solo Presentation ③ Discussion - Group Discussion - Panel Discussion - Triangle Discussion ④ TOEFL Reading and Speaking Practice - Literature Analysis - Pair speaking work on TOEFL questions	◆Thinking ・身の周りにある問題や社会性のある課題に関して、論理的に思考をすることができる。 ・独自のアイデアを創ることができる。 ・物事の優劣を比較検討することができる。 ◆Reading ・日常生活での実用的な文章の要点や意図を理解できる。 ・社会性のある分野について書かれた文章の概要を把握し、その要点や意図を理解できる。 ◆Listening ・日常生活の話題や、社会性のある分野について話された一定の長さの内容・会話を聞いて、全体を把握することができる。 ◆Speaking ・日常生活の話題や、社会性のある分野について、場面や目的に応じて一定の長さで自分の意志と理由を述べることができる。 ・準備なしで即興的に発表したり、やりとりしたりすることができる。 ・読んだり聞いたりしたことを受けて、即興的に質問したり、質問に対応したりすることができる。 ◆Writing ・論理的に考え、根拠に基づいて、一貫性のある文章を書くことができる。 ・言語の使用場面と働きを理解し、状況に応じて適切な表現を正しく使うことができる ・英語による論文の書き方について学び、段落構成に関する理解を深め、アカデミックな英語論文が書けるようになる。 ◆Vocabulary ・様々な活動のなかで必要とされる表現を積極的に活用しながら、語彙を豊かにすることができる。 ◆TOEFL Reading and Speaking Practice ・短編小説の要約版を読み、TOEFL の予想に沿った分析を行う。 ・テキストや難易度の高いスピーキング問題に対して批判的な反応をする。

授 業 の 形 態	クラス授業（ネイティブ教員による、アウトプットを主体とした授業）
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する （単元テスト、課題提出、スピーチやプレゼンテーション、ディベートなどのパフォーマンス課題など）
備 考	・オリジナル教材を使用する

高校3年 (外国語科：英語)

科 目	単位数	種 別	対象生徒	担当教諭
Critical Thinking II	2	必修	GL	Green Stephen・Romel Barrow・山菅・吉本

目 標	- 複数の視点から吟味し、問い、よく考える知的な営み（Critical Thinking）を通して、根拠に基づいた論理的で偏りのない思考や、自己の思考・感情を意識的に振り返る内省的な思考を行う力を身につける。 - Critical Thinking I での学びや習得した力を生かして、さらに高度な言語活動（プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等）を通して、英語を用いて意見やアイデアをやりとりするための幅広い言語運用能力を伸ばす。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
育てたい力	- 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 「聞くこと」「話すこと（発表・やりとり）」「読むこと」「書くこと」の活動を通じてさまざまなトピックに関する情報や自分の意見を英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。	- 英語の論説文や物語文に慣れ、長短さまざまな英文の要旨を理解できる。 - 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連を考える。 - 聞いたり読んだりしたことを学習や経験に基づき、情報や考えをまとめて発表する。 - 発表されたものを聞いて、質問したり、意見を述べたりする。	- さまざまな分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 - 積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での英語学習に取り組む姿勢を身につける。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
通年	年間を通して様々なテーマに基づく単元学習を設定し、以下のような活動を行うことを通して、各テーマについての思考を深める。 【単元と活動の一例】 単元名：商業捕鯨の是非 ① ディスカッション 捕鯨について異なる視点から書かれた読み物（政府刊行物、評論、新聞記事など）を読み、互いに概要を伝え合う。その後、各視点について分析したり、議論したりする。 ② グループ・プレゼンテーション ディスカッションで出たアイデアをもとにグループで解決策を提案する。 ③ ディベート 自分の立場を選び、リサーチを深め、課題解決を志向しながらアイデアを練ったうえで、データや根拠に基づいて議論する。 ④ ライティング ディベートでの学びを生かして、自分の意見を一定の量の英文で書く。	◆Thinking - 社会が直面する様々な問題について、論理的に思考を深めることができる。 - 自ら問いを持ち、探究し、独自のアイデアを創ることができる。 - 情報の信頼度について検証・判断し、必要な情報を的確に獲得できる。 ◆Reading - 日常生活での実用的な文章の要点や意図を理解できる。 - 社会性のある分野について書かれた文章の概要を把握し、その要点や意図を理解できる。 - 前提や論理を疑いながら読み、自らの意見やアイデアを持つことができる。 ◆Listening - 日常生活の話題や、社会性のある分野について話された一定の長さの内容・会話を聞いて、全体を把握することができる。 - 前提や論理を疑いながら聞き、自らの意見やアイデアを持つことができる。 ◆Speaking - 日常生活の話題や、社会性のある分野について、場面や目的に応じて一定の長さで自分の意志と理由を述べることができる。 - 準備なしで即興的に発表したり、やりとりしたりすることができる。 - 読んだり聞いたりしたことを受けて、自らの意見やアイデアを不自然な間を置くことなく話すことができる。 - 読んだり聞いたりしたことを受けて、即興的に質問したり、質問に対応したりすることができる。 ◆Writing - 論理的に考え、根拠に基づいて、一貫性のある文章を書くことができる。 - 語彙や文構造に多様性を持たせた文章を書くことができる。 ◆Vocabulary - 様々な活動のなかで積極的に活用しながら、語彙を豊かにすることができる。

授業の形態	クラス授業（ネイティブ教員によるアウトプットを主体とした授業）
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する （レポート、プロジェクト課題、プレゼンテーション、ディスカッションなど）
備 考	・オリジナル教材を使用する

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
国際協力	2	必修	AM・GL	田辺・白尾・吉家・矢田

目 標	・ 貧困、教育、環境、ジェンダー平等、インクルーシブ社会など、地球規模の諸問題に対する現状はもちろんのこと、社会的背景や歴史的経緯を理解する。 ・ これらの諸課題を通して、本校の教学理念の「平和と民主主義」を自覚し、諸課題の解決に向けた公正な判断力を育成する。 ・ 2030 年までに SDGs を達成するため、社会の中で自分たちにできることを考え、その学びをグローバル AP や共創探究Ⅱでの成果につなげる。		
	知識・技能 ・ 世界の諸課題に対する社会的背景や歴史的経緯を説明することができる。 ・ 世界の諸課題の現状と課題について説明することができる。 ・ 世界の諸課題に関するキーワードを説明することができる。	思考・判断・表現 ・ ワークショップを通じて、世界の諸課題の原因・経過について説明することができる。 ・ 「平和と民主主義」が達成される社会とはどのような社会か、自分の言葉で具体的に述べることができる。 ・ 自らの学びをメタ認知することができる。	主体的に学習に取り組む態度 ・ 教学理念「平和と民主主義」を自覚し、それを具現化しようとする姿勢を身につけることができる。 ・ 世界の諸課題を他人事として捉えるのではなく、身近な問題（自分事）として捉え、解決に向けて尽力しようとする姿勢を身につけることができる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	① 社会運動はどうやって起こすか ② 「平等」って何？ ③ 2030SDGs ④ 新・貿易ゲーム ⑤ めだまっち ⑥ ザ・トゥルー・コスト ⑦ ひょうたん島 ⑧ 日本語を教えよう ⑨ パーム油のはなし ⑩ ボパティ・インク	＊ワークショップという手法は、その活動を通じてねらいや目標を体得することに意義がある。よって、ここでは各学習項目における個別の目標を明示することは避けることとする。 また、左にあげた学習内容・項目は時流の社会課題に合わせて積極的に変更・入れ替えをする可能性がある。 ・ ワークショップ（映画視聴を含む）を通じて、世界規模の諸問題に直面する人たちの現状を疑似体験すると共に、その改善策・解決策を考える。 ・ 世界が抱える諸課題の現状（貧困・医療・教育・格差・児童労働など）について理解する。 ・ SDGs とは何かを理解し、持続可能な社会を様々な視点から考える。 ・ リフレクションで考えたことをレポート形式で文章化し、学びをメタ認知する。 ・ この授業での学びを自分たちの探究プロジェクト（グローバル AP・共創探究Ⅱ）と結びつけ、より実現性の高いものにブラッシュアップしていく。
2 学期	⑪ バルンバ星人 ⑫ わたしのおもちや ⑬ インクルーシブ社会 ⑭ ボッチャ ⑮ スマホの真実 ⑯ 紛争と性暴力 ⑰ 民主主義社会における政治参画 ⑱ 企業へ訴えよう	
3 学期	⑲ メッセージをカタチに ⑳ リフレクション	

授業の形態	クラス授業 / ワークショップ・動画視聴など
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	平常点 100% （課題レポート・発表など）
備 考	・ 授業へ出席しなければ、毎回の課題レポートを作成することはできない。よって、課題レポートには出席点も含まれる（欠席時の代替措置あり）。 ・ 学びを「国際協力」の中にとどめるのではなく、常に各自の研究課題との関連性に着目し、ブラッシュアップさせていくこと。

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単位数	種別	対象生徒	担当教諭
文社選択 1（クリティカルリーディング）	2	選択	AM・GL	河内

目 標	・芸術作品の背景や文脈を、批判的に読む力を身につける。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって芸術に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う		
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・文章を批判的に読解し、情報と情報との関係について理解を深める力。 ・作品を鑑賞する中で情報の抽象度などによって文脈を整理し使う力。 ・新たな考えの構築に資する批評の視点について理解を深め、使う力。	・作品の内容だけでなく背景にまで言及し、自分の考えを論述したり討論したりする力。 ・作品から自分の問題意識を言語化し、文章を通して問を深め説明する力。	・様々な作品の観賞を通して、自分を取り巻く現代的な問題について意見を持てるようになる。 ・1 年間の授業を通し「クリティカル・リーディング」についての具体的な内容を自分なりの考えを持ち、大学での学びへの展望を抱けるようになる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・短編文芸作品批評を行う。 ・高校 2 年間で培ってきた読解力や文章作成能力を活かして、作品を鑑賞し批評文を作成する。 ・音楽・映像・絵画作品批評を行う ・国語では扱いにくい非言語的な芸術作品を鑑賞し、批評文を作成する。	・詩や短編小説など、文芸作品を批判的に読むことで、自分の疑問を言語化し探究する力を身につける。 ・芸術と批評が相補的な関係を理解し、自分の好きな作品を批判的に記述する力をつける。 ・非言語的芸術作品を、言語で説明できる力を身に着ける。 ・文章では説明しにくい音楽・絵画・映像を、批判的に読み解きその価値を明示する力をつける。
2 学期	・長編作品批評を行う ・長編映画を鑑賞し、一学期に学習した内容から批評文を作成する。	・一学期に批判的読解能力を、長編作品を扱うことで、で発展的に伸ばす。文芸・音楽・絵画分析が可能な、長編映画を扱うことで、批評の奥深さを理解する。 ・自分で批判的な視点を定め、その視点から批評を書く力を育てる。
3 学期	・社会批評を行う。 ・実際に起きた事件をもとに、芸術とのつながりを理解し、批評文を作成する。	・今まで扱ってきた芸術作品と、社会とのつながりを理解する。実際に起きた事件やドキュメンタリー作品を扱い、現実と芸術のつながりを理解する。 ・芸術批評に限らない、社会批評を行える能力をつける。

授業の形態	講義形式／演習形式／グループワーク
教科書	興味関心に応じて適時選出する。
副教材	教員が配布する資料
評価の方法	・平常点 100％（授業内テスト含む。提出物等）。
備 考	・上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単位数	種別	対象生徒	担当教諭
文社選択 1（法学フロンティア）	2	選択	AM GL	八反

目 標	・現在起きているできごと、事件などに焦点をあて、法律や判例をもとに多角的な視点から俯瞰し、法的思考力を養う。 ・LGBTQ2+などの社会課題をもとに、基本的人権の尊重や個人の自由の在り方などを考察し、本校の教学理念である「平和と民主主義」について理解を深める。		
育てたい力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・現代の諸課題を法律に基づいて捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる法的概念や理論について理解する ・模擬裁判を通して、検察官・弁護人の主張がどのように導かれたのか、必要となる事実を適切かつ効果的に調べまとめ、説得する技能を身に付ける。	・現実社会の諸課題の解決に向けて、法律の基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に思考し、公正に判断する力や合意形成のために議論する表現力などを養う。	・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 ・基本的人権を尊重し、国民主権を担う国民として、法に基づいた論理的思考力を活用して、課題解決に向け協力し合う態度を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・裁判員裁判について ・法律と政治の関係性 ・日本国憲法の基礎理念 ・刑法概論 ・高大連携講座	・裁判員裁判制度の意義、問題点について考察を深める。 ・平和と民主主義、法律と政治体制のかかわりについて学ぶ。 ・日本国憲法三原則の意義や成立過程にける問題点を理解し、日本国憲法に関する理念や概念を理解する。 ・私たちの生活と刑法がどのように関連しているかを学ぶ。 ・大学から提示されたテーマに関する資料を分析し、論理的に述べる力を養う。
2 学期	・刑法概論 ・高大連携講座 ・刑事裁判について ・模擬裁判 ・民法概論	・具体的な裁判の事例をもとに、法学的思考のあり方を学ぶ。 ・模擬裁判の準備と裁判を通して、社会的正義の実現と法律とがどのように関連しているのかを学ぶ。 ・他者のプレゼンに対して、批判的に捉え、論理的に質疑応答できる力を身につける。 ・模擬裁判を通して、他者を納得させる合意形成のために議論する表現力、論理的思考力を身につける。 ・民法のあり方、社会生活との関りについて学ぶ。
3 学期	・民法概論 ・総括	・1 年間の学びを振り返り、各自の成長を確認する。

授業の形態	協働学習 一斉講義
教科書	なし
副教材	デイリー六法（必要に応じて購入する）
評価の方法	平常点 100%（振返課題・復習課題・検討課題・論述テスト・模擬裁判など）
備 考	デイリー六法を必ず購入する必要はない。高大連講座を 4 回予定している。 高校生模擬裁判選手権本戦への出場と優勝をめざす。

高校3年（学校設定）

科 目	単位数	種別	対象生徒	担当教諭
文社選択1（ Expression plus ）	2	選択	AM GL	Andrew Carter ・ Romel Barrow

目 標	・テーマについて深く考え、根拠に基づいた論理的で偏りのない思考や、自己の思考・感情を意識的に振り返る内省的な思考を行う力を身につける。 ・プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ロールプレイ等の多様な言語活動を通して、英語を用いて意見やアイデアをやりとりするための英語運用能力を養う。 ・プロジェクトを行い、その成果を英語で発表できるようになる。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 ・「聞くこと」「話すこと（発表・やりとり）」「読むこと」「書くこと」の活動を通じてさまざまなトピックに関する情報や自分の意見を英語で話したり、まとめた文章で表現したりできる。	・聞いたり読んだりしたことに基づき、必要なリサーチを行い、情報や考えをまとめて発表する。 ・発表されたものを聞いて、質問したり、意見を述べたりする。	・さまざまな分野の話題に興味、関心を持ち、更に深く学ぶ意欲を持つ。 ・積極的に授業内での言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、自主的に授業外での英語学習に取り組む姿勢を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	プロジェクト学習 自ら選んだ様々なトピックについて、個人またはグループでプロジェクトやプレゼンテーションを行う。	◆Thinking ・身の回りにある問題や社会性のある課題に関して、論理的に思考することができる。 ・独自のアイデアを創ることができる。 ・物事の優劣を比較検討することができる。 ・生徒たちは、芸術、旅行、演劇など、より革新的で創造的なトピックに批判的に接することができるようになる。 ◆Reading ・日常生活での実用的な文章の要点や意図を理解できる。 ・社会性のある分野について書かれた文章の概要を把握し、その要点や意図を理解できる。 ◆Listening ・日常生活の話題や、社会性のある分野について話された一定の長さの内容・会話を聞いて、全体を把握することができる。
2 学期 3 学期	自主学習プロジェクト 1 学期のプロジェクトを基に、より複雑な英語のトピックに触れ、それに対するリサーチを個人またはグループで行い、アイデアを練り上げ、表現し伝え合う活動を行う。創造的な活動を中心に行う。	◆Speaking ・日常生活の話題や、社会性のある分野について、場面や目的に応じて一定の長さで自分の意志と理由を述べることができる。 ・準備なしで即興的に発表したり、やりとりしたりすることができる。 ・読んだり聞いたりしたことを受けて、即興的に質問したり、質問に対応することができる。 ◆Writing ・英語で意見を書いたり、日記を書いたりすることで、ライティングスキルを向上させる。これは、他の英語クラスでの論理的なライティングをサポートし、より定期的に英語に触れ、使用する機会を増やし、ネイティブ教師からのフィードバックを受けることができます。

授 業 の 形 態	クラス授業を基本とし、分番講座展開授業も行う。 （ ネイティブ教員によるアウトプットを主体とした授業 ）
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する （課題提出、スピーチやプレゼンテーション、ディベートなどのパフォーマンス課題など）
備 考	・オリジナル教材を使用する

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
文社選択 1（科学探究）	2	選択	AM・GL	藤田・澤田

目 標	- 実験スキルを正しく身に付け、安全に実験を行えるようになる。 - 観察→課題を持つ→仮説設定→実験→結果分析→考察の反復を通して、思考力の育成を行う。探究プロセスの中で自ら立てた問い（課題）に対して根気強く向き合いながら、自己の成長を客観視（メタ認知）するとともに、持続可能な社会づくりに貢献しようとする態度を養う。また、理系学部でも通用できるレベルの力を養う。 - プレゼンテーション能力の育成を行い自らの研究成果を「発信」する意義や必要性を学ぶ。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報の集め方、文章の読み方、問いの立て方の手法を身につける。	「誰に・何を伝えるのか」を明確にし、研究成果をレポートやスライド等にまとめることができる。	身近な自然現象や科学現象をこれまでの知識や経験の中から類推をしたり、新たな知見を獲得したりする活動を通じて、解決の糸口を根気強く探し、自分なりの解決策や行動を導き社会貢献しようとする姿勢を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	- 生活や身の回りの出来事に関連の深い自然科学現象に目を向け、自然科学的な観点で各自学びを深める。 - 注目した現象について、他者に興味を持たせるためには、どのような実験や演示・活動が必要かを考える。 - 検討した実験や活動を実現させるための具体化を進める。必要に応じて、自分自身で実験をデザインし、実施する。	- 実験器具の使い方を知識で知っているだけではなく、実際に使えるようになることを目標とする。 - 参考文献を探す過程で、科学の書物にふれ課題設定をするためのヒントを探す。
2 学期	- 計画を元に実験を実施する。 - 中間発表を実施し、生徒同士でフィードバックし、研究内容をブラッシュアップする。	レポートの基本となる結果をまとめ、適切な考察ができるようになる。また、仮説検証実験を行い、仮説→実験→結果→考察というレポートを作成することができるようになる。
3 学期	1 年間の活動をまとめ、発表会を実施する。	プレゼンテーションの技法などを学び、積極的に質問する姿勢や態度を身につける。

授 業 の 形 態	一斉授業・グループワーク・フィールドワークなど
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	平常点 100% 日々の活動に伴う提出物・成果物・議論・発表等、年度末課題などを総合的に判断 ルーブリック評価を示し、生徒の到達目標を具体化する。 定期試験は実施しない
備 考	

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
文社選択 1 （世界遺産）	2	選択	AM・GL	齋藤

目 標	・世界遺産の概念、各遺産の地理的状況・歴史的背景・存在価値を理解する。 ・世界遺産を通じて、現代社会の諸課題を理解し、その改善方法や解決策を考えるとともに、持続可能な社会のあり方を追究する。 ・世界遺産検定 3 級合格程度の基本的知識を習得する。		
育 て たい 力	知識・技能 ・世界遺産に含まれる歴史学、地理学、考古学、美術・建築学、観光学、環境学、人類学などのさまざまな学問要素を横断的に捕え、その知識を身につける。	思考・判断・表現 ・世界遺産を過去の遺物としてみるのではなく、そこから現代社会における人類の普遍的な課題を見出し、解決する能力を養う。また、諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用し、これを適切に表現する能力を培う。	主体的に学習に取り組む態度 ・世界の異なる文化を知り、「違い」を理解することで、地球市民としての自覚をもち、社会貢献へと役立たせる力を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・「世界遺産」とは何か ・「世界遺産」の登録基準とは ・世界遺産登録に向けて進む「彦根城」 ・“古きもの”との共存 ピラミッド地帯（エジプト） ・“自然”との共存 ラパ・ヌイ国立公園（チリ）	・世界遺産条約の理念や歴史的背景、世界遺産の概念、世界遺産の現状などについて理解する。 ・様々な地域で「開発」が進む中、人類は“古きもの”や“自然”とどのように共存すべきかについて考える。 ・これらの世界遺産を通じ、各国が抱える現代の諸課題を理解するとともに、その問題解決の方法を考える。
2 学期	・“異文化”との共存 アウシュヴィッツ強制収容所（ポーランド） ・“未来”との共存 クレムリンと赤の広場（ロシア） ・私が世界に発信したい日本の世界遺産 ・私がプレゼンする世界遺産スタディツアー ・世界遺産×SDGs チャレンジ	・グローバル化が進む中、人類は異なる文化を持つ人々とどのように共存すべきかについて考える。 ・スタディツアーを計画し、発表することで自らが世界遺産を学ぶ中で何をしたいか考える ・日本が誇る世界遺産を通じ、国際社会における日本の役割を考える。 ・経済発展が進む中、人類はその欲望をどうコントロールしていくべきかについて考える。 ・これらの世界遺産を通じ、各国が抱える現代の課題を理解するとともに、その問題解決の方法を考える。 ・日本の世界遺産が抱える課題解決案を考える。
3 学期	・まとめ	・「世界遺産を守る意義」を自分の言葉で語れるようにする。

授 業 の 形 態	クラス授業、協働学習。講義形式を基本とし、タブレットを活用したグループワーク・プレゼンテーション等を行う。
教 科 書	なし
副 教 材	『きほんを学ぶ 世界遺産 100 世界遺産検定 3 級公式テキスト』マイナビ出版
評 価 の 方 法	平常点 100%（小テスト・レポート課題・スライドを用いての発表・ロイロノートで作成した資料・外部講師の講演会での参加姿勢など）
備 考	・グループワークによるプレゼンテーションを積極的に行う。 ・定期テストを実施しないため、日常の取り組みが評価のすべてとなる。主体的に取り組める姿勢が、最も重要である。

高校3年
 （学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
文社選択1(小論文演習)	2	選択	AM・GL	犬飼

目 標	・ 社会の出来事と自身の進路選択を結びつけ、言語化する力を付ける。 ・ 2年生までに国語の授業で習得した「構成表」を、探究科目課題等の文章を作成する演習の中で実践的に活用する。 ・ 小論文を作文する上で基礎となる、論理的にする、問いを立てる、反論するなどのスキルを身につける。		
育 っ た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 読解の方法や思考の型を駆使して、収集した情報を基に自らの主張をもっとも効果的に論証する力。 ・ 漢字検定2級レベルの語彙力や概念語の知識理解。 ・ 抽象語を文章の中で活用できるレベルの理解力。	・ 文章の読み手を意識し、構成や表現を工夫することができる力。 ・ 他者の文章を分析したり、評価したりすることができる力。	・ 書くことを通して「情報を知っている状態」から「情報を使える状態」にできることを体得し、書くこと自体への意欲を高める。 ・ 書くことから生まれる問いを醸成し大学の学びへの興味関心を引き出す。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1学期	・ パラグラフライティング パラグラフライティングの様式で自身の身の回りの事象に対する考えを記述する。 ・ 対象者に理解されるように書こう ・ 事実なのか考えなのか ・ 言いたいことを整理する ・ 自己推薦文と志望理由書	・ パラグラフライティング（アカデミックライティング）の作法を身につける。 ・ 自分の考えを記述する機会を増やし、語彙力、表現力を高める。 ・ 読み手意識を身に付け、対象者にあった作文ができるようになる。 ・ 事実と意見を区別できるようになり、意識して記述できるようになる。 ・ 自分の主張したいことを整理し、確実に伝達できるようになる。 ・ 自己推薦文を書くことを通して「自分」に対する認識・考察を深め、説得力のある志望理由書を書けるようになる。
2学期	・ きちんとつなげる ・ 文章の幹をとらえる ・ そう主張する根拠は何か	・ さまざまな接続関係を知り、使いこなせるようになる。また、読解にも役立てられるようになる。 ・ 文章の要点を捉えられるようになる。それに従って、トピックセンテンスとサポートセンテンスを明確にし、読みやすいエッセイを書けるようになる。 ・ 「理由」「原因」「根拠」の違いを知り、作文の目的により使い分けられるようになる。また、強い根拠を示せるようになる。
3学期	・ 的確な質問をする・反論する	・ 小論文作成の出発点であり到達点である「問い」とそれに答えることを身につける。

授業の形態	講義形式／演習形式／グループワーク
教 科 書	興味関心に応じて適時選出する
副 教 材	『読解を深める現代文単語』桐原書店、各自の探究課題に関する収集資料、『ジャパンナレッジ』
評価の方法	演習課題（レポート・論文）60％程度 授業参加課題（授業内課題・提出物など）40％程度 定期考査は実施しない。
備 考	上記の授業内容は予定であり、今後の授業展開や学習者の実態に応じて授業内容が変更されることがある。

高校3年（学校設定）

科 目	単位数	種 別	対象生徒	担当教諭
文社選択2（スポーツ概論）	2	選択	AM	前田・中尾輝

目 標	・スポーツが持つ魅力や文化について、総合的に理解することができる。 ・スポーツ科学や生涯スポーツに対する学びを通して、スポーツに対する視野を広げることができる。 ・スポーツに関わる問題を理解し、その解決について考えることができる。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・技術の名称や行い方を理解する力 ・測定したデータを分析する力	・スポーツに対する広い視野を持つ力 ・スポーツを取り巻く問題について考える力 ・自分の考えをまとめ発信する力	・積極的に学ぶ力 ・ルールやマナーを守る力 ・道具や施設を大切に扱う力 ・自己の責任を果たす力

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・オリエンテーション ・スポーツについて考える ・スポーツ科学入門 ・研究テーマの立案と策定 ・実技実験	・授業の概要やルールを確認し、安全かつ円滑に進められるようにする。 ・スポーツをとりまく分野について考える。 ・簡易実験を通して、スポーツ科学の基礎を理解する。 ・研究のテーマを決め、予備調査や予備実験を行い、本実験を実施する。
2 学期	・研究の分析 ・研究発表 ・スポーツ実践（講義・実技）	・各班の研究を共有し、発表に向けての修正を行う。 ・研究した内容を発表しあい、成果を共有する。 ・生涯スポーツに対する視野を広げるとともに、スポーツが持つ魅力やスポーツとの多様な関わり方について理解する。
3 学期	・まとめ	・習得した技能を発揮する。 ・成果と今後の課題をまとめる。

授業の形態	講義・実技（体操服・運動靴必要）・グループワーク
教科書	特になし
副教材	資料となるプリント等は、授業内で配布する
評価の方法	定期考査は行わない。 毎時間のレポート・発表・実技試験・小テストや授業の取り組みを総合的に評価する。
備 考	校外実習実施に伴い、費用を徴収する場合がある（参考：2024 年度 2750 円）

高校３年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
文社選択２（フードデザイン）	２	選択	AM	小林

目 標	・家庭に関わるフードマネジメント産業について学び、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
育てたい力	・食生活の意義や役割を理解し、食生活と暮らしを充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につける。 ・食生活と暮らしを充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につける。	・食生活と暮らしについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につける。	・食生活と暮らしについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につける。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
１学期	・食事の意義と役割 ・食を取り巻く現状 ・栄養素の働き ・健康に必要な栄養素 ・食品の特徴 ・食品加工の目的 ・食品の選択と取り扱い	・食事の様々な役割やはたらきについて理解する。 ・食に関わる様々な問題を理解し、持続可能な食生活のありかたについて考える。 ・人の生活に必要な栄養素とそのはたらきについて科学的な仕組みを理解するとともに、理想的な栄養摂取のありかたについて考える。 ・様々な食品の特徴とその扱い方について、栽培実習や実験を用いながら体験的に学ぶ。 ・食品加工のあり方について、伝統的な技術から最新のテクノロジーまでを学ぶ。 ・様々な食品の選び方や衛生的な管理の仕方について学ぶ。
２学期	・調理の基本 ・ライフステージと食事計画 ・献立作成 ・様式別の献立と調理・食卓作法 ・食文化を見つめる ・テーブルコーディネート ・国民運動としての食育の推進	・様々な調理の手法について実践的に学ぶ。「家庭料理検定」３級程度の技能取得を目指す。 ・食事バランスガイドをもとに、乳幼児や高齢者、スポーツ選手などにとって必要な献立の作成と、調理の実践の中で必要な技術を学ぶ。 ・世界中の様々な料理のありかたや歴史・作法などについて理解する。 ・持続可能な食文化のあり方について考え、滋賀の郷土料理について実践的に学ぶ。 ・多様な文化に合わせたテーブルコーディネートの手法について学ぶ。 ・世界遺産となった和食を中心に、豊かな食文化を醸成するための具体的な方策を学ぶ。
３学期	・課題研究	・守山市をフィールドにして、課題解決プロジェクトを実践し、発表を行う。優秀な取り組みについては、２月の学習発表会にて発表を行う。

授業の形態	講義・調理実習・討論
教科書	『フードデザイン Food changes LIFE』教育図書
副教材	なし
評価の方法	平常点 100% 平常点：出席確認カード・授業ノート・各種レポートや課題
備 考	授業の約半分は、演習や実習形式の授業となるため、平常点や課題点で成績がつく。そのため、授業への出席状況や課題提出状況が評価に大きな影響を与えることになるので要注意。

高校 3 年
 （学校設定）

科 目		単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
文社選択 2（メディアデザイン）		2	選択	AM	2025 年度 不開講
目 標	・社会に役立つデジタルメディア作品を制作し、発表することで、社会貢献を行う。 ・自己表現の技法のひとつとして、デジタル作品制作スキルを身につけ、高次の自己表現力を磨く。 ・到達したいレベルや課題を自分で設定し、それに向けて計画的に実行できる。				
育 て たい 力	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	・オリジナルの映像作品を、Adobe Premiere Pro や Adobe After Effects などを使用して制作できる。 ・オリジナルのデザイン作品を Adobe Photoshop, Illustrator など制作できる。		・Adobe Premiere Pro や Adobe After Effects や Adobe Photoshop と Adobe Illustrator の基本操作、基本知識を身につけて、自分の作品に活用できる。		・自ら進んで計画的に知識の理解に努めることができる。 ・個人だけでなく、チームでプロジェクトを進めることができる。 ・出来上がった作品を広く社会に役立てるようにアウトプットできる。
時期	学習内容・項目学習 ＜技能実習＞		プロジェクト		ねらい・目標
1・2 学期	・映像制作の基礎 作品制作 作品発表 ・デザイン作成の基礎 作品制作 作品発表 総合制作実習		【コンペ応募系】 ・守山トライアスロン取材 ・作品発表 ・【映画】小布施短編映画祭 powered by COSINA ・【CM・動画】 京都広告賞 ・【イラスト・CG・映像】U-18 アーティストコンテストなど その他、社会貢献系も検討する。 ※上記は一例であり年度によって異なります。		・Adobe の基本操作・基本知識を習得し、活用できるスキルを身に着ける。 ・自ら進んで計画的に知識の理解に努め、チームで実行するプロジェクトで協働的な学びを進めることができる。 ・映像や芸術が社会に貢献することを実感し、社会貢献できる作品を制作できる。
3 学期	制作発表				
授 業 の 形 態		実習形式			
教 科 書		なし			
副 教 材		・適宜指示する ・各自必要なテキスト（任意）			
評 価 の 方 法		1 学期 作品評価・プレゼンテーション・作品応募・PDCA・成果報告など 2 学期 作品評価・プレゼンテーション・作品応募・PDCA・成果報告など 3 学期 成果報告など ※定期試験は実施しない。			
備 考		・この授業では、各自が自分に計画に従って、必要な知識や技能を自分で習得しながら作品を作り上げることが求められます。 ・この授業は授業だけですべて完結しません。授業時間外の個々の個別学習が必要です。課外活動とのバランスを考えて受講してください。			

※このシラバスは 2024 年度末の段階での案です。状況に応じて変更になる場合があります。変更の際は授業にてお知らせします。

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
文社選択 2 （音楽Ⅱ）	2	選択	AM	西川

目 標	・表現（歌唱・鑑賞・創作）及び鑑賞の各活動を通して音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考える力を育成する。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付けるようにする。	・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら 味わって聴くことができるようにする。	・主体的・協動的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好できるようになる。 ・感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていけるようになる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・授業開き ・歌唱 日本の歌 ・鑑賞 世界の諸民族音楽 ・創作 カップミュージック ・鑑賞・器楽 現代音楽	・目標や内容を確認し、1 年間の学習の見通しを持つ ・明治から平成までの日本歌曲を学び、歌詞に込められた想いを歌に乗せて表現しよう ・世界の諸民族の音楽を「身振りを伴う表現という観点で聴き比べ、音楽と身体の動きの特徴や意味、関係について考察しよう ・カップを使って音色を探索しながら、アンサンブルしよう ・西洋音楽の歴史を学んだ上で、図形譜を読み解き、演奏しよう
2 学期	・器楽 ギター ・鑑賞 ミュージカル ・創作 サウンドリサイクル ・創作・器楽 箏 さくら変奏曲	・ギターらしい音色や奏法を研究し、曲のイメージを意識しながら独奏しよう ・人間関係やストーリーから登場人物の心情を紐解き、ミュージカルにおける音楽の役割について考えよう ・モノから生まれる音を録音し、サンプリングの技法を用いて思い思いの創作表現をした楽曲を作曲する ・「さくらさくら」のイメージを箏で自由に表現し。前奏を創作しよう
3 学期	・歌唱 ファーストテイク ・鑑賞 映画音楽	・音楽のカバーの多様性について考え、独自のスタイルを追求し、表現意図を明確に持って歌唱しよう ・音楽と映画の場面と結びつきを理解し、映画における音楽の役割について考えよう

授 業 の 形 態	講義 個人活動 グループワーク
教 科 書	『MOUSA 2』 教育芸術社
副 教 材	学習プリント
評 価 の 方 法	実技（歌唱・器楽・創作）80%＋平常点 20%（授業態度・提出物）
備 考	

高校3年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
文社選択2（伝統文化）	2	選択	AM	田中眞 ・ 紺谷

目 標	- 日本の伝統文化の学びや体験を通して、日本の伝統文化や精神文化に対する理解を深め、豊かな情操を育む。 - 世界の中での日本のアイデンティティーを育むとともに、日本文化を愛好する精神を養う - それぞれの成り立ちや素晴らしさを学ぶことで、その中通ずる「心」、世界から讃えていただける日本人の国民性の素晴らしさを再認識し、伝統文化伝承のための表現力を身につける。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	伝統文化作品や文化遺産などに親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさなどを感じ取り味わったり、理解したりする力。	感じ取ったことや考えたことを基に、感性や想像力を働かせて発想する力。よさや美しさなどを考えながら、心豊かで創造的な表現の構想をする力。	主体的に体験や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、伝統文化を愛好していこうとする力。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	＜ガイダンス＞ - 一年間の流れ ＜茶碗制作＞ - 茶碗のデザイン 抹茶茶碗制作 ＜鑑賞＞ 伝統文化・生徒作品相互鑑賞	- 一年間の流れの説明と、主体的に体験や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、伝統文化を愛好する精神を養う趣旨を理解させる。 - 陶芸や茶碗について造詣を深めるとともに工夫を凝らし制作するためのデザインをする。 - 自他の作品について考察したことを述べ合ったり、互いの作品の良さを発見して伝え合ったりすることで、コミュニケーションの力を養う。 - 出来るだけ多くの作品に親しみ、表現されている内容を素直に味わう姿勢を身につける。
2 学期	＜煎茶＞ 講師 宇治田原製茶場 おいしいお茶の入れ方・マナー講座 茶歌舞伎 ＜香道＞ 香道の歴史について ＜華道＞ 講師 専慶流家元 西阪専慶氏 家元嗣 講義 華道の歴史について 実習 華道体験 ＜茶道＞ 茶道の歴史・作法について ＜和菓子＞ 講師 たねや 講義 和菓子の歴史と現在について 実習 和菓子制作	- 茶の歴史やマナーを理解し、実践できるようにする。 - 香道の歴史を知り、特性をいかした作品を制作する。 - 茶道・華道・和菓子などの歴史ついて理解するとともに、日本の美意識や精神文化を学ぶ。 - 体験を通じ、日本および様々な国の伝統と文化を尊重し、日々の暮らしの中にいきづく日本の美意識や伝統を再認識する。
3 学期	＜鑑賞＞ 日本伝統文化について	日本の伝統文化を総合的に理解し、世界に誇る日本の文化を世界に伝える力を身に付ける。

授 業 の 形 態	・講義、個人制作、作品発表と相互鑑賞・相互評価、グループワーク
教 科 書	
副 教 材	・学習プリント
評 価 の 方 法	・作品（50％）レポート・平常点等（50％）定期考査なし
備 考	・効果的な参考作品や、映像教材を準備する・教材費必要

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種別	対象生徒	担当教諭
共創探究ⅡA	2	必修	AM・AMs	齋藤和 北村 吉田結 他7名

目 標	・共創探究Ⅰで習得した情報の集め方・データ処理の仕方などを応用し、三年間の探究活動の集大成となる探究活動を行う。探究活動の先に進路があることを意識し、テーマの設定をする。 ・文社テーマの探究では、個人の興味・関心および得意分野と、社会の課題とを結びつけた探究活動を通して、社会と接点を持ち、社会と主体的に関わっていく態度や方法を身につける。 ・理数テーマの探究では、仮説設定→実験→結果分析→考察の反復を通して思考力の育成を行うとともに、多様な文献資料やデータを正確に読解する力を身につける。 ・自らの考えを、信念と情熱を持って表明することのできるコミュニケーション力および文章表現能力を身につける。 ・大学進学後も継続して主体的に学び、他者と関わりながら発展的・創造的に生きていく人格を形成する。		
	知識・技能 ・自分の研究テーマに関連する社会（世界）の現状と課題について説明することができる力。 ・身の周りの事象を科学的に捉え、課題解決の道筋を見つけ出すことができる力。	思考・判断・表現 ・探究活動を正確に記録し自身の考えを表明することのできる語彙力・文章力。	主体的に学習に取り組む態度 ・これまでの知識や経験の中から類推したり、新たな知見を獲得したりすることを通して、探究テーマ解決の糸口を根気強く探そうとする態度。 ・異なる分野の学びや経験を関連させて考える態度。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・ゼミ形式で行う。 ・各個人での探究活動を基本とする。ただし、探究テーマによっては、ゼミ担当教員の判断により、グループでの活動とする場合もある。また、理数系の実験を主とする探究活動はグループでの活動を推奨する。	・社会課題について、学術的な知識を身につける。 ・研究計画の見直しや再設定を通して、自分たちの研究の位置づけや意義を理解する。 ・授業担当者から得たフィードバックをもとに、多面的・多角的な視野を持ち、探究活動の見直しを持つ。 ・インターネットや著書から得られる知識のみならず、さまざまな現場で活動する人たちと積極的に交流する中で、プロジェクトをより実現可能なものとして進めていく。
2 学期	・プロジェクトの進捗状況について、学期内に 1 回もしくは 2 回の発表を行う。グループでの探究活動をしている生徒も個人単位での発表となる。 ・外部講師を招くなどして、大学での学びを意識した特別授業を行う。	・先行研究や学術論文から得られる情報・データを公平な視点から分析する力を身につけ、実験結果や調査記録を科学的に評価する。 ・社会調査の実践を行うことを通して、協働できる他者と出会い、具体的な探究活動への方針を定める。 ・得た経験を共有し、互いに啓発し合う中で、探究活動に対する意欲をさらに高めるとともに、調査記録の重要性を理解する。
3 学期		・実験や観察を行う中で、考察および新たな問いを立て、継続した研究活動を実施する。 ・後の学び手にとっての資料となり、アーカイブとして残していく価値のある探究記録を作成する。 ・オーディエンスが理解しやすい形で自分たちの研究成果を報告する。 ・様々な立場の人との意見交換を通じて、大学進学後のビジョンをより明確にする。

授業の形態	ゼミ授業・講義形式
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	平常点 100% （レジュメ、発表など）
備 考	

高校3年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象コース	担当教諭
理数選択（コンピュータサイエンス）	2	選択	AMs・GLs	伊藤

目 標	- 身近な生活や地域社会に役に立つアプリやゲームを設計、制作し、広く社会にリリースできる問題解決力を図る。 - 自己表現の技法のひとつとして、基本的なアプリ制作やゲーム制作スキルを身につけ、高次の自己表現力を図る。 - プロジェクトの進捗状況を自分で管理し、期日までに成果物を完成させるプロジェクト管理能力を図る。		
育 て た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- Xcode で簡単な iOS アプリの基礎を学び、自分でオリジナル作品が作成できる力を伸ばす。 - オリジナルのゲーム作品の基礎を、Unity を通じて学び、自分でオリジナル作品が作成できる力を伸ばす。 - わからないところは自分で調べて解決する能力を伸ばす。	- アプリのデザインや操作性、使いやすさなどを考慮してアプリを設計できる。 - Unity の基本操作、プログラミング言語 C#を習得し、自分の作品作りに生かす実践力を伸ばす。 - 自分の力でマニュアルに書いている内容を理解し、制作する力を伸ばす。	- 自ら進んで計画的に知識の理解に努める姿勢や態度を伸ばす。 - 毎授業、段取りや準備等を整う得たうえで、最大限の制作努力をする。 - 出来上がった作品を広く社会に役立てるようにアウトプットできる力を伸ばす。

時期	学習項目	ねらい・目標
1 学期	Xcode によるアプリ制作およびUnityによるゲーム制作の基礎 - 作品制作 - 作品発表	- 自ら進んで計画的に知識の理解に努めることができる。 - アプリ制作やゲーム制作を通じて、プログラミングによるデジタル表現力を伸ばす。 - 出来上がった作品を発表することで、自分の取組を可視化し、アウトプットできる力とリフレクションを通じて、スキルを高める。
1・2・3 学期	Unity によるゲーム制作の応用と発展 - 作品制作 - 作品発表 - 発表会	

授 業 の 形 態	実習形式
教 科 書	なし
副 教 材	- Life is Tech Mozer - GoogleClassRoom 内の各種教材
評 価 の 方 法	平常点（作品制作の完成度、プレゼンテーション、授業の取組状況など）100% 1 学期 授業内での取り組み課題（アプリ、ゲーム）の完成度、プレゼンテーション、成果報告など 2 学期 授業内での取り組み課題（ゲーム）の完成度、プレゼンテーション、成果報告など 3 学期 授業内での取り組み課題（ゲーム）の完成度、プレゼンテーション、成果報告など ※定期試験は行わない
備 考	- 教材費が別途発生することがある（5 千円～10 千円程度） - この授業では、教員からの知識伝達型の講義はしない。必要最低限の知識及び技能を受講者が各自のペースでオンライン教材を通じて習得します。各自が自分に計画に従って、必要な知識や技能を自分で習得しながら作品を作り上げることが求められます。 2～3 週間に 1 つの課題を提出することを繰り返します。公欠、私欠に関わらず、課題の締め切りは厳守です。 - 時間内にできない課題は、自分の Mac で時間を見つけて取り組み、完成させて提出すること。 - 毎授業、自分の MacBook と iPad を必ず持参し、利用すること。

※このシラバスは 2025 年 1 月 24 日の段階での案です。状況に応じて変更になる場合があります。変更の際は授業にてお知らせします。

高校 3 年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
理数選択（現代文講読）	2	選択	AMs・GLs	衣川

目 標	・実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解する。 ・自分が興味をもったジャンルの専門書を読み解く力を身につける。		
育 っ た い 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・論証したり、学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句を運用する力。 ・効果的な段落の構造や展開の仕方について見極められる力。	・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解する力。 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化・整理する力。	・与えられた課題に対し、ねばり強く最後まで取り組む力。 ・自ら興味をもったジャンルの専門書を選び、そこに書かれていることを読み取る力。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	基礎的な論理的文章の読解を中心とした正確な文章読解の取り組み ・新聞記事を読み、その内容をまとめて発表する。 ・新書を読み、その内容をまとめて発表する	・新聞記事を読み、その内容を簡潔にまとめることで、文章を正確に理解する力をつける。 ・新書を読み、その内容をまとめ、他人の興味をひくような発表をすることで、文章を分析的に読む力をつける。
2 学期	応用的・発展的な論理的文章の読解を中心とした正確な文章読解の取り組み ・学術論文を読み、その内容をまとめて発表する（予定）	・自らが興味を持つ科学論文を読み、その内容をまとめ、発表をすることで、文章を正確に理解し、分析的に読む力をつける。 ・自らが進学を予定する分野に関係する論文を読むことで、大学進学に向けた総合的な学びの姿勢を育成する。
3 学期	・発展的な文学的文章や映像作品等の読解を中心とした批判的・思考的な読解の取り組み（2 学期後半より実施予定）	・文学的文章や映像作品を「読解」することで、作品には多面的な読みが存在することを知り、批判的に読む力をつける。

授 業 の 形 態	講義/班発表/個人発表
教 科 書	特に指定しない
副教材・作品	教員が配布するプリント、自分が興味をもったジャンルの新書等、ジャパナレッジスクール
評 価 の 方 法	平常点 100%（授業内テスト含む。提出物等）
備 考	上記の計画はあくまで予定であり、授業者・受講者によって、変更する可能性がある。

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
理数選択（住生活デザイン）	2	選択	AMs・GLs	坂

目 標	・家庭に関わる住生活産業について学び、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、豊かな住生活の実現を担う人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・住生活と文化、住空間の構成と計画、インテリアデザインなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・快適な住空間の計画やインテリアデザインに関する課題を発見し、豊かな住生活の実現を担う人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・豊かな住生活の実現を目指して自ら学び、住空間のデザインに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
育てたい力	・住まいやまちづくりの意義や役割を理解し、暮らしを充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。 ・住まいやまちづくりと暮らしを充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付ける。	・住まいやまちづくりと暮らしについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付ける。	・住まいやまちづくりと暮らしについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につける。	

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・住生活と住居の変遷 ・住生活と環境 ・住居の選択と管理	・住まいの生活様式について、歴史の変遷をたどるとともに、世界中の住生活文化を比較しながら、住まいやまちづくりの役割と意義について理解する。 ・住まいと自然環境の関わりから、様々な環境に応じた住まいやまちづくりの手法を科学的に分析し、持続可能な住まいやまちのありかたについて学ぶ。 ・住まいやまちづくりに関わる様々な情報を分析し、最も望ましい住生活を実現するための手法について、住宅展示場を訪問しながら実践的・体験的に学ぶ。
2 学期	・住居の設計 ・インテリア ・住生活の充実・向上	・住まい作りに関わる様々な図面について学び、CAD（Computer Aided Design）ソフトを使用しながら、理想的な住まいづくりのための図面を書き上げる。 ・インテリアデザインの基礎的・基本的な知識・技術を学びながら、インテリアの果たす役割やはたらきについて理解する。 ・住まいやまちづくりに関わる社会問題に目を向け、今後の社会に求められる持続可能なまちづくりのための方策について分析・検討を行う。
3 学期	・課題研究	・授業でテーマとして設定した課題に関しての研究を行い、研究の成果を製作物またはレポート等で残す。また、その成果について相互に発表する。

授 業 の 形 態	講義・実習・演習・ディスカッション
教 科 書	なし
副 教 材	『住生活デザインの教科書』理工図書
評 価 の 方 法	平常点 100% 平常点：各種レポートや課題
備 考	授業の約半分は、演習や実習形式の授業となるため、平常点のみで成績をつける。そのため、授業への出席状況や課題提出状況が評価に大きな影響を与えることになるので要注意。 原則として、授業を欠席した場合や公欠の場合も課題の提出は行ってもらいます。

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種別	対象生徒	担当教諭
理数選択（数学探究）	2	選択	AMs GLs	森園

目 標	・ 今まで学んできた内容の歴史や意味、また現代社会にどのように活用されているのかを知り、数学の本質について考える。 ・ 数学の汎用性について学び、問題の解決方法として数学での既習内容を活用する姿勢を身につける。 ・ 数字で分析して未来に活かす眼を養うとともに、その魅力や神秘に触れることでより数学に興味関心を持つことができる。 ・ 論理的思考を養い、根拠を問う姿勢を身につける。 ・ 共同作業やプレゼンテーションを通じて、協働して様々な課題を解決する力を養う。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 数学における定義や論理について、その概念や原理、法則などを体系的に理解する。 ・ なぜ数学を用いることによって、事象を表現・処理することができるのかを理解し、一般的な事象に応用する技能を身につける。	・ 身近な事柄の中から、数学で学んだ内容を活かして考えられるものを考察し、解析する見方や考え方を身につける。	・ これまでに学んだ内容や、それらの事柄を使って、様々な事柄を考えるうえで活用されている数学の内容について学び、その内容から事象の考察に活用する姿勢を身につける。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・ 毎週、数学に関するトピックを扱う。 ・ 基本的に 1 週 1 トピックについて学ぶ。 ・ 講義と考察が中心であるが、必要に応じて考察内容の発表を行う。	・ 数学で考えられている事柄の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できる。 ・ これまでに学んだ内容や、それらの事柄を使って考えることができるより発展的な内容の意味を理解し、その結果から事象の考察に活用できるようにする。 ・ 数学的な考え方についての意味を理解するとともに、それを用いて日常の様々な事柄に置き換えて考えることができるようにする。 ・ グループで協力して内容を理解し、それを伝える方法を考え、実践する。
2 学期		
3 学期		

授 業 の 形 態	選択授業
教 科 書	なし
副 教 材	配布プリント
評 価 の 方 法	平常点 100%（レポート、発表等）
備 考	なし

高校 3 年（学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
理数選択（総合芸術）	2	選択	AMs・GLs	田村 ・ 林

目 標	・音楽、演劇、舞踊などの芸術の諸ジャンル間の区別なく、それらの統合を旨とし、パフォーマンスやミクストメディア によって表現する力を身につける。 ・芸術的な能力を伸ばし、美に対する感性を高めるとともに、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。		
育 っ て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	表現の技能を身に付け、自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す力。	感じ取ったことや考えたことを基に、感性や想像力を働かせて発想する力。よさや美しさなどを考えながら、心豊かで創造的な表現の構想をする力。	主体的に表現や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、総合芸術を愛好していこうとする力。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	<ガイダンス> ・一年間の流れ <音楽制作> 音楽作曲についての基礎知識と演習 <映像技術の習得> 様々な映像技法の習得と演習 一学期に作曲した作品を映像作品に仕上げる <鑑賞> 生徒作品相互鑑賞	・一年間の流れの説明と、主体的に想像や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、総合芸術を愛好する精神を養う趣旨を理解させる。 ・様々な音楽の作曲法を学び、自分の作品を作曲する。 ・映像について理解し、実践できるようにする。 ・自分の表現方法を創意工夫し創造する。 ・自他の作品について考察したことを述べ合ったり、互いの作品の良さを発見して伝え合うことで、コミュニケーションの力を養う。 ・出来るだけ多くの作品に親しみ、表現されている内容を素直に味わう姿勢を身につける。
2 学期	<地域社会に貢献するイベント> 芸術がどのように社会に貢献できるかを考えた企画を計画し、実行する	・芸術がどのように社会に貢献できるかを考え、創意工夫した企画を考える力を養う。 ・お互いの個性や表現を認め合い、創意工夫し共同して創造する力を養う。
3 学期	<鑑賞> 映像作品・生徒作品相互鑑賞	・自他の作品について考察したことを述べ合ったり、互いの作品の良さを発見して伝え合うことで、コミュニケーションの力を養う。 ・出来るだけ多くの作品に親しみ、表現されている内容を素直に味わう姿勢を身につける。

授 業 の 形 態	・講義、個人制作、作品発表と相互鑑賞・相互評価、グループワーク
教 科 書	なし
副 教 材	・学習プリント
評 価 の 方 法	・作品（50％） レポート・平常点等（50％）
備 考	・効果的な参考作品や、映像教材を準備する

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
グローバル AP I	2	必修	GL	清水、田辺、中條、由谷

目 標	・社会課題解決のためのプロジェクト（マイプロジェクト）を探究論文(約 10,000～12,000 字)としてまとめる。 ・それぞれのプロジェクトをビジネスコンテスト、ボランティア活動表彰、論文コンクール等の外部コンテスト・アワードを各自でみつけて全員が応募し、成果を学外に広く発信する。 ・大学進学後も自分の研究テーマを継続したり、ソーシャルビジネスを立ち上げたりするようなスキルと意欲を養い、持続可能な社会の構築に貢献する「地球市民」となる。		
	知識・技能 ・自分の研究テーマに関連する社会（世界）の現状と課題について説明することができる。 ・社会とのコミュニケーションに必要なマナーや礼儀作法等を理解する。	思考・判断・表現 ・身の周りの社会問題を科学的に捉え、課題設定・課題解決の道筋を見つけ出すことができる。 ・協働的な学びの中で思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることができる。	主体的に学習に取り組む態度 ・教学理念「平和と民主主義」を自覚し、それを具現化しようとする姿勢を身につけることができる。 ・学生起業家・イノベーター・研究者など、あらゆる形で SDGs の達成に向けた社会の担い手になろうとする姿勢を身につけることができる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・指定テキストを用いた文献講読を行う。毎時間、一つのテーマについて取り上げる。 ・学期内に 1 回の発表を行う。読んだ文献と自分の探究テーマの関連する部分を指摘し（個人）、今回の講読が自分の研究にどう関係するかを述べる。	・SDGs に関連した社会課題について、学術的な知識を身につける。 ・授業担当者（大学教員含む）から得たフィードバックをもとに、多面的・多角的な視野を持ち、プロジェクトをブラッシュアップする。 ・インターネットや著書から得られる知識のみならず、さまざまな現場で活動する人たちと積極的に交流する中で、プロジェクトをより実現可能なものとして進めていく。
2 学期	・プロジェクトの進捗状況について、レジュメで発表を行う。 ・大学教員からのミニ講義を行う。	・各自の探究活動に目処をつける。 ・発表レジュメや論文など、自分の探究活動を論理的にまとめる。 ・学外コンテストに出品し、自分の探究活動の社会的評価を測る。
3 学期	・外部講師を招くなどして、大学での学びを意識した特別授業を行う。英語での活動も含む。	・オーディエンスが理解しやすい形で自分たちの研究成果を報告する。 ・様々な立場の人との意見交換を通じて、大学進学後のビジョンをより明確にする。

授 業 の 形 態	ゼミ授業・講義形式
教 科 書	なし
副 教 材	田中治彦他『SDGs と開発教育：持続可能な開発目標のための学び』学文社、2016
評 価 の 方 法	平常点 100% （レジュメ、発表、進捗報告、探究論文など）
備 考	・立命館学園の進める「社会起業家育成プログラム」の一環と位置付け、山中司教授（生命科学部）、鳥山純子教授（国際関係学部）、北野知佳准教授（グローバル教養学部）、落合弘望氏（教育学部）〈予定〉の協力により実施する。 ・授業は終日衣笠キャンパスで実施する。

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単位数	種 別	対象生徒	担当教諭
Science English	2	必修	GLs	Green Stephen・脇田

目 標	・自ら設定した発展的な実験を扱う。 ・サイエンス AP での課題研究での学びを英語にまとめ、英語の研究発表を行う。 ・日本語および英語のプレゼンテーション能力を育成し自らの研究成果を「発信」する意義や必要性を学ぶ。 ・大学レベルの実験レポートを書けるようになる。		
育 て たい 力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・情報の集め方、文章の読み方、問いの立て方の手法を身につける。 ・研究テーマの決め方、課題設定の立て方の手法を身につける。	・実験結果や参考文献等から得られる情報・データを公平な視点から分析することができる。 ・「誰に・何を伝えるのか」を明確にし、研究成果をレポートやスライド等にまとめることができる。	・理数系分野の現代的課題に対して、これまでの知識や経験の中から類推したり、新たな知見を獲得したりすることを通じて、解決の糸口を根気強く探し、自分なりの解決策や行動を導き社会貢献しようとする姿勢を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・発表とレポートの基礎 ・研究テーマの決め方 ・仮説 ・グループ実験 I	・実験する前の段階のテーマ設定、目標、仮説を中心として、少人数のグループの実験の発表を行う。
2 学期	・アブストラクト ・結果の分析 ・グループ実験 II ・課題研究のレポート ・研究倫理	・少人数のグループや個人の実験を行う。 ・結果の意味を表し方とアブストラクトの書き方を学ぶ。 ・課題研究のレポートを年末に提出する。 ・研究倫理を身につける。
3 学期	課題研究発表	・最後の評価に大きく関わる課題研究の英語の発表を授業で行う。

授業の形態	テーマ別ゼミ（半学級）を単位とする授業／一斉授業・グループワーク・フィールドワークなど
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	定期考査は実施せず、平常点のみで評価する (レポート、プレゼンテーションなど)
備 考	・「主体的・対話的で深い学び」「総合的な探究の時間」のモデル授業として展開する ・講演会や学会の案内などさまざまなプロジェクトを案内し、積極的に取り組むことを奨励する

高校 3 年 （学校設定）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
サイエンス AP I	2	必修	GLs	Green、齋藤孝、平林、宮嶋、脇田

目 標	・ BKC における授業展開を活用して、AP II で進める探究活動を、大学教員との連携を積極的にはかり、深める。 ・ 「大学 0 回生」の意識を持ち、大学教員による特別講義や連携事業に意欲的に参加することで、課題研究に関わるだけでなく、自身の興味関心のある事象を見出す。 ・ 進学先として考える学部との連携事業に参加することで自身の進路を真摯に考え、進学後のミスマッチを避ける。 ・ AP I および AP II を通して大学での学びを理解し、将来を見据えたキャリア教育に役立てる。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
育てたい力	・ 情報の集め方、文章の読み方、問いの立て方の手法を身につける。 ・ 研究テーマの決め方、課題設定の立て方の手法を身につける。	・ 実験結果や参考文献等から得られる情報・データを公平な視点から分析することができる。 ・ 身の周りの事象を科学的に捉え、課題設定・課題解決の道筋を見つけ出す。 ・ 「誰に、何を伝えるのか」を明確にし、研究成果をレポートやスライド等にまとめることができる。	・ 理数系分野の現代的課題に対して、これまでの知識や経験の中から類推したり、新たな知見を獲得したりすることなどを通じて、解決の糸口を根気強く探し、自分なりの解決策や行動を導き社会貢献しようとする姿勢を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	BKC の理系学部教員によるミニレクチャー及び施設見学 (可能な場合、BKC にて研究室訪問・施設見学も含む)	・ 探究姿勢の育成とともに、各学部の講義に対しても積極的に質疑させ、知識の幅を広げる。 ・ ミニレクチャーなどを通じて自身の興味関心のある事象を見出し、課題研究テーマを決定する。
2 学期	・ AP II の研究について、中間発表会に向けて準備を進める。 ・ 理系 4 学部（生命、理工、情理、スポ健）による連携講座を展開する。	・ 理系 4 学部との連携講座では、自身の進学希望先の講座を中心に受講して大学での学びを先取りする。また、学びの内容を自身で言語化し、他講座を受講した生徒に向けてアウトプットすることで、学びを深化させる。
3 学期	・ AP II における最終成果発表会に向けて準備を進める。	・ プレゼンテーションの技法などを学び、積極的に質問する姿勢や態度を身につける。

授 業 の 形 態	一斉授業・グループワーク・フィールドワークなど
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	ワークシート・成果物・議論・発表・論文などを総合的に判断する。定期考査は実施しない。 学期間の評価割合 1 学期：2 学期：3 学期＝1：1：1
備 考	・ AP II は AP I と取り組み内容が密接に連動していることから、II の時間に取り組んだ課題等が I の成績に反映されることがある。 ・ 理系 5 学部および大学院と連携を取りながら、毎週木曜日に BKC にて授業展開する。「主体的・対話的で深い学び」「総合的な探究の時間」のモデル授業として展開する。年間を通して、講演会や校外研修などさまざまなプロジェクトを案内するので、積極的に取り組むことを奨励する。

高校 3 年 （総合）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
共創探究ⅡB	2	必修	AM・AMs	齋藤和 北村 吉田結 他 12 名

目 標	・共創探究Ⅰで習得した情報の集め方・データ処理の仕方などを応用し、三年間の探究活動の集大成となる探究活動を行う。探究活動の先に進路があることを意識し、テーマの設定をする。 ・文社テーマの探究では、個人の興味・関心および得意分野と、社会の課題とを結びつけた探究活動を通して、社会と接点を持ち、社会と主体的に関わっていく態度や方法を身につける。 ・理数テーマの探究では、仮説設定→実験→結果分析→考察の反復を通して思考力の育成を行うとともに、多様な文献資料やデータを正確に読解する力を身につける。 ・自らの考えを、信念と情熱を持って表明することのできるコミュニケーション力および文章表現能力を身につける。 ・大学進学後も継続して主体的に学び、他者と関わりながら発展的・創造的に生きていく人格を形成する。		
	知識・技能 ・自分の研究テーマに関連する社会（世界）の現状と課題について説明することができる力。 ・身の周りの事象を科学的に捉え、課題解決の道筋を見つけ出すことができる力。	思考・判断・表現 ・探究活動を正確に記録し自身の考えを表明することのできる語彙力・文章力。	主体的に学習に取り組む態度 ・これまでの知識や経験の中から類推したり、新たな知見を獲得したりすることを通して、探究テーマ解決の糸口を根気強く探そうとする態度。 ・異なる分野の学びや経験を関連させて考える態度。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・アンケートの手法やデータ分析の基本的なやり方について学習する。 ・共創探究ⅡAでの助言等を元に探究活動を進める。毎時間の進捗状況について、報告をする。 ・学期内に2名以上の学外者とコンタクトを取る。理数系の実験を主とする探究を行っている生徒も学外者からアドバイスをもらうことが望ましいが、探究テーマによっては限りではない。	・社会課題について、学術的な知識を身につける。 ・アンケートやインタビューなどの基本的な手法を習得する。 ・理数系の実験を主な探究テーマとして進める生徒は、研究の基礎となる実験器具の操作や得られたデータの読み方について習得する。 ・研究計画の見直しや再設定を通して、自分たちの研究の位置づけや意義を理解する。 ・授業担当者から得たフィードバックをもとに、多面的・多角的な視野を持ち、探究活動の見通しを持つ。 ・インターネットや著書から得られる知識のみならず、さまざまな現場で活動する人たちと積極的に交流する中で、プロジェクトをより実現可能なものとして進めていく。 ・先行研究や学術論文から得られる情報・データを公平な視点から分析する力を身につけ、実験結果や調査記録を科学的に評価する。 ・社会調査の実践を行うことを通して、協働できる他者と出会い、具体的な探究活動への方針を定める。 ・得た経験を共有し、互いに啓発し合う中で、探究活動に対する意欲をさらに高めるとともに、調査記録の重要性を理解する。 ・実験や観察を行う中で、考察および新たな問いを立て、継続した研究活動を実施する。
2 学期	・前半は共創探究ⅡAでの助言等を元に、プロジェクト実施に向けて探究活動を進める。理数テーマの探究を行っている生徒は実験や観察を繰り返し行うことで、客観性・再現性を意識した研究活動を進める。毎時間の進捗状況について、報告をする ・後半は探究ポートフォリオを個人でまとめる。	・後の学び手にとっての資料となり、アーカイブとして残していく価値のある探究記録を作成する。 ・オーディエンスが理解しやすい形で自分たちの研究成果を報告する。 ・様々な立場の人との意見交換を通じて、大学進学後のビジョンをより明確にする。
3 学期	・成果報告会を実施する。	

授 業 の 形 態	個人探究活動（フィールドワーク、レジュメ作成等）
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	平常点 100%（進捗報告、探究ポートフォリオなど）
備 考	

高校 3 年 （総合）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
グローバル AP II	2	必修	GL	清水、田辺、中條、由谷、有賀、吉川

目 標	・社会課題解決のためのプロジェクト（マイプロジェクト）を探究論文(約 10,000～12,000 字)としてまとめる。 ・それぞれのプロジェクトをビジネスコンテスト、ボランティア活動表彰、論文コンクール等の外部コンテスト・アワードを各自でみつけて全員が応募し、成果を学外に広く発信する。 ・大学進学後も自分の研究テーマを継続したり、ソーシャルビジネスを立ち上げたりするようなスキルと意欲を養い、持続可能な社会の構築に貢献する「地球市民」となる。		
	知識・技能 ・自分の研究テーマに関連する社会（世界）の現状と課題について説明することができる。 ・社会とのコミュニケーションに必要なマナーや礼儀作法等を理解する。	思考・判断・表現 ・身の周りの社会問題を科学的に捉え、課題設定・課題解決の道筋を見つけ出すことができる。 ・協働的な学びの中で思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることができる。	主体的に学習に取り組む態度 ・教学理念「平和と民主主義」を自覚し、それを具現化しようとする姿勢を身につけることができる。 ・学生起業家・イノベーター・研究者など、あらゆる形で SDGs の達成に向けた社会の担い手になろうとする姿勢を身につけることができる。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・ AP I での助言等を元に、個人の探究活動＝プロジェクトを進める。毎時間の進捗状況について、レポート報告を求める。 ・ 学期内に 2 名以上の学外者とコンタクトを取ること（フィールドワーク：FW）を必須課題とする。	・ SDGs に関連した社会課題について、学術的な知識を身につける。 ・ 授業担当者（大学教員含む）から得たフィードバックをもとに、多面的・多角的な視野を持ち、プロジェクトをブラッシュアップする。 ・ インターネットや著書から得られる知識のみならず、さまざまな現場で活動する人たちと積極的に交流する中で、プロジェクトをより実現可能なものとして進めていく。
2 学期	・ 前半は 1 学期と同様のシステムとし、この間 1 回以上の FW を実施する。また、学外でのアクションも実施することを前提に活動する。 ・ 後半は、探究論文を個人でまとめる。 ・ 自身のプロジェクトを学外コンテストに出品する。	・ 各自の探究活動に目処をつける。 ・ 発表レジュメや論文など、自分の探究活動を論理的にまとめる。 ・ 学外コンテストに出品し、自分の探究活動の社会的評価を測る。
3 学期	・ 探究論文及び論文サマリーを完成させる。 ・ 優秀プロジェクトによる成果報告会を実施する。学園関係者にも広く発信する。	・ オーディエンスが理解しやすい形で自分たちの研究成果を報告する。 ・ 様々な立場の人との意見交換を通じて、大学進学後のビジョンをより明確にする。

授 業 の 形 態	個人探究活動（FW、レジュメ作成等）
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	進捗報告書、特別課題などの成果物 100%
備 考	・ AP II は AP I と取り組み内容が密接に連動していることから、II の時間に取り組んだ課題等が I の成績に反映されることがある。 ・ 授業は終日衣笠キャンパスで実施する。

高校 3 年 （総合）

科 目	単 位 数	種 別	対象生徒	担当教諭
サイエンス AP II	2	必修	GLs	Green、齋藤孝、平林、宮嶋、脇田

目 標	・基本的な、情報の集め方・データの処理の仕方などを応用し、探究活動の土台となる情報処理能力・情報収集力・文章読解力・批判的思考力を養い、最終的に年度末の探究活動成果発表会での発表を目指す。 ・観察→課題を持つ→仮説設定→実験→結果分析→考察の反復を通して、思考力の育成を行う。探究プロセスの中で自ら立てた問いに対して根気強く向き合いながら、自己の成長を客観視（メタ認知）するとともに、持続可能な社会づくりに貢献しようとする態度を養う。 ・プレゼンテーション能力の育成を行い自らの研究成果を「発信」する意義や必要性を学ぶ。 ・AP I および AP II を通して、大学での学びを理解し、将来を見据えたキャリア教育に役立てる。		
	知識・技能 ・情報の集め方、文章の読み方、問いの立て方の手法を身につける。 ・研究テーマの決め方、課題設定の立て方の手法を身につける。	思考・判断・表現 ・実験結果や参考文献等から得られる情報・データを公平な視点から分析することができる。 ・身の周りの事象を科学的に捉え、課題設定・課題解決の道筋を見つけ出す。 ・「誰に、何を伝えるのか」を明確にし、研究成果をレポートやスライド等にまとめることができる。	主体的に学習に取り組む態度 ・理数系分野の現代的課題に対して、これまでの知識や経験の中から類推したり、新たな知見を獲得したりすることなどを通じて、解決の糸口を根気強く探し、自分なりの解決策や行動を導き社会貢献しようとする姿勢を養う。

時期	学習内容・項目	ねらい・目標
1 学期	・AP I における大学との連携や東京研修、及び個人の興味関心をもとに探究テーマを決定する。 ・決定したテーマについて、所信表明の発表会を行う。	・自身の持つ興味関心を軸にして文献調査やフィールドワークを行い、探究活動の意欲を醸成する。 ・発表とその準備を通じて、研究の方向性をまとめ、発表で得たフィードバックをもとに探究活動の見直しを持つ。
2 学期	・決定したテーマに沿って、探究活動を進める。適宜、担当教員と面談を重ね、研究の方向性をすり合わせる。 ・大学の先生招聘の元で中間発表を行う（口頭発表もしくはポスター発表）。	・探究活動を通して得られたデータや成果について、ICT を積極的に活用し、蓄積する。 ・探究活動について、クラス内および各学部に向けて、自分たちがそれまで研究内容について調べてきたことを発表する。
3 学期	・最終成果発表会や課題研究アワードに向けての準備（口頭発表もしくはポスター発表）	・プレゼンテーションの技法などを学び、積極的に質問する姿勢や態度を身につける。

授 業 の 形 態	一斉授業・グループワーク・フィールドワークなど
教 科 書	なし
副 教 材	なし
評 価 の 方 法	平常点 100%（ワークシート・成果物・議論・発表・論文などを総合的に判断する。）
備 考	『課題研究メソッド～よりよい探究活動のために～』岡本尚也著（啓林館）を随所に活用する。